

2022年度～2025年度 科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果中間報告書  
『デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と自律的な態度を育む外国語科の評価』  
研究代表者: 泉恵美子(関西学院大学)(研究課題番号: 22H00684)

# デジタル時代における小学校英語Can-Do評価尺度 活用マニュアル

～eポートフォリオ及びデジタルCan-Do開発に向けて～

## 小学校英語評価研究会

泉恵美子(関西学院大学)  
アレン玉井光江(青山学院大学)  
加藤拓由(岐阜聖徳学園大学)  
黒川愛子(帝塚山大学)  
倉田伸(長崎大学)  
森本敦子(高野山大学)  
長沼君主(東海大学)  
大田亜紀(別府大学短期大学部)  
田縁真弓(立命館大学)  
バトラー後藤裕子(ペンシルバニア大学)

2025年3月

## はしがき

本研究は、2期4年の2度の科学研究費補助金(基盤研究B)事業「小中連携を目指した英語学習者の自己効力と自律性を促進する授業設計と評価」(2014~2017年度)、「小中接続を目指し学習者の思考・判断・表現と学びに向かう力を促進する授業設計と評価」(2018年度~2021年度)の後を受け、「デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と自律的な態度を育む外国語科の評価」をテーマに2022年度研究を開始し、2024年度が3年目となります。これまで、学習指導要領で求められている育成すべき3つの資質・能力の中でも、特に「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」をどのように指導し、評価すればよいのかに焦点を当て、児童生徒の学びが促進され自己効力と自律が促される評価のあり方を探求し、Can-Do評価やパフォーマンス評価ルーブリック尺度試案などに取り組んで参りました。また、科研費受託以前にJESの課題研究助成を受けたメンバーが中心となり、「小学校英語評価研究会(English Assessment Society at Elementary Level: EASEL)」を立ち上げ、「小学校外国語における指導と評価のあり方」について長年取り組み、活動を行っております。その研究成果をまとめた冊子の発行は本誌で11冊目となります。

新たな研究の目的は、デジタルを用いることで小学校英語の指導と評価がどのように変わるかを研究し、より良い評価の在り方を提案し、検証することです。GIGAスクール構想で、児童一人一台のPC端末が配布され、今年度から学習者用デジタル教科書が配布されています。学習者特性に応じたデジタルの活用、デジタル機器を活用した小学校英語における評価用タスク、パフォーマンス課題の開発と導入、ルーブリックとCan-Doを合わせた評価尺度の設計と実証、eポートフォリオの開発という体系的な研究を推進しております。2022年度は、文部科学省検定教科書小学校「外国語」の学習者用デジタル教科書6社の分析を試みました。今年度(2024年)からは、文部科学省検定教科書が新しく06版が使用されております。

そこで、今年度の研究として、まず学習者用デジタル教科書にどのような特徴が見られるのか、旧版と新版で紙面上でもどのような違いがあるのかについて分析し、提案することに取り組まれました。また、デジタルを用いて、児童の学びに向かう力を育てる自己調整学習を支援し、学びの足跡を残すeポートフォリオの開発と実践にも取り組みました。さらに、英語教育と情報活用能力を掛け合わせた「小学校英語×ICT」デジタルCan-Doをどのように作成すればよいかを考え、授業実践を基に提案を試みました。本誌には、それらの内容と、小学校で児童に英語を指導しておられる先生方の実践論文と、研究分担者による研究論文も掲載しております。

指導と評価の一体化について、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」について、主体的、対話的で深い学びについて、先生方のお悩みも多く、我々もまだまだ研究途上です。評価をどうすればよいか、思考力・判断力・表現力を育成する言語活動はどのように設定し、評価すればよいのかは大きな課題です。

今年度はJES山口大会で依頼を受け、対面ワークショップを実施することができました。また、福岡でのキャラバン、例年の言語教育エキスポでの発表、京都でのシンポジウムなどを開催することができ、会場をご準備いただきました大田先生、田縁先生をはじめ、ご発表やご講演、ご参加いただきました皆様に心より感謝しお礼を申し上げます。ご多忙の中、度重なる会議に集まり、熱心な議論を交わしつつ、玉稿をお寄せいただいたメンバー各位にも深く感謝申し上げます。VUCAの時代、デジタルの時代で大きな変革の中、小学校外国語教育に日々児童と切磋琢磨されておられる先生方や、外国語活動や外国語の授業を楽しみにしている児童の笑顔や幸せを想いつつ、今年も協力して研究を進めることができ、本誌も発行できまことを嬉しく思っております。これからも理論と実践の往還をめざし、デジタル時代に対応した研究を進めて参りたいと思っております。本研究成果が小学校英語教育関係者の皆様の今後の教育活動や研究のお役に立てることを願ってやみません。

我々のこれまでの研究成果や報告について、Webサイト(<http://www.izumi-lab.jp/easel.html>)をご覧ください、皆様からの忌憚のないご意見やご連絡を頂ければ幸いです。引き続き、ご支援・ご教示のほどよろしくお願い申し上げます。



2025年3月3日  
研究代表者 泉 恵美子

# 目 次

## デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル

～eポートフォリオ及びデジタルCan-Do開発に向けて～

活用マニュアル解説	1
デジタル（情報活用能力）Can-Do評価尺度試案	8
令和6年度版小学校「外国語」教科書分析と考察	20

## 研究成果中間報告

研究概要	54
------	----

### プロジェクト報告

汎用的なクラウドサービスを用いた小学校英語教育におけるe-ポートフォリオの開発と 子どもの学びに向かう力の育成を目指した教師の手立て —前年度の課題をふまえた取組の中間報告：事例検討会（2024福岡）報告—	63
---	----

### 実践報告

「情報活用能力ベーシック」を活用した授業づくり—「聞くこと」における思考力・判断力の育成と 「話すこと」における表現力の育成のつながり— 奥平 明香	71
学習者用デジタル教科書を活用して児童の思考力・判断力・表現力を育む —Here We Go! 6 UNIT7 “My Dream.” 教師の挑戦— 幡井 理恵	85

### 研究論文

小学校英語教育における汎用のクラウドツールを用いた e-ポートフォリオのメリットと留意点 大田 亜紀・内田 綾・友池 奈緒・林 由布子・倉田 伸	95
小中接続に向けての小中「外国語科」における学習者用・指導者用デジタル教科書の活用の工夫 黒川 愛子	104
学習者用デジタル教科書を活用した主体的に学習に取り組む態度の涵養—小学校外国語科における自 己調整力と情報活用能力の育成— 加藤 拓由	114

# デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル解説 —デジタル（情報活用能力）Can-Do 尺度試案作成に向けて—

長沼 君主（東海大学）

## 1. はじめに

小学校における学習到達目標としての CAN-DO リストの設定と活用に関して、令和5年度「英語教育実施状況調査」では、目標を設定している小学校の割合が 84.5%、目標の達成状況を把握している割合が 74.9%、目標を公表している割合が 58.2%であった ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1415043\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043_00005.htm))。これは小学校での調査開始時（令和3年度）には、それぞれ 78.7%、61.1%、29.7%であったことを考えると、着実に活用が広まっている様子がわかる。今年度の令和6年度からは教科書が改訂され、刷新された紙面や言語活動とともに、CAN-DO リストについても改訂され、さらに活用されることが期待される。

本研究グループ（小学校英語評価研究会）では、これまでの科研において、学習者の自律性と自己効力を促進するための Can-Do 評価尺度の開発を行っており、「できるようになりつつある」過程を可視化した、足場や挑戦的段階を含む 4 段階の尺度（cf. 長沼、2011；長沼・高野、2015）に基づいて、評価タスクやルーブリックの開発を行ってきた。

昨年度は、第Ⅲ期目の科研にあたり、学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 尺度の開発を行った。第Ⅱ期目の科研において、Can-Do 尺度に基づいた「思考（・判断・表現）を促す活動設計」とパフォーマンス評価の開発を行ったことを受けて、第Ⅲ期目では「学び（に向かう力）を促す活動設計」とポートフォリオ評価の開発を行うことを意図しており、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（中学校外国語）」（国立教育政策研究所，2020）に示される自己調整段階のサイクル（図1）を意識して、単元内及び単元間をつなぐ尺度設計を行った。

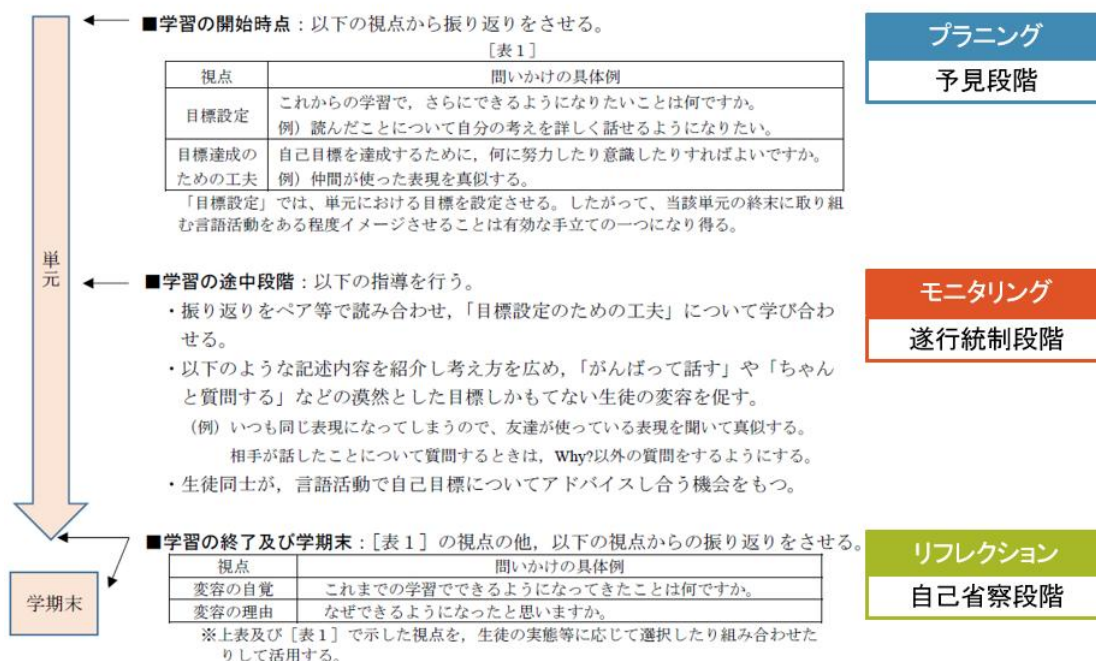


図1. 「自己調整」を図ることができるようにするための指導（自己調整学習段階との対応づけは筆者）



単元をつなぐ Can-Do 尺度は、単元や学年をまたいだり、領域をまたいだりと、様々な接続のパターンを開発した。尺度の段階設計にあたっては、各単元における自己調整学習段階を踏まえ、下記の3つの段階のそれぞれにおける具体的な活動の工夫について記述した上で、段階の能力記述に反映した。そのことにより、単元末活動に至る学習過程における課題達成のために必要な言語機能や表現の積み上げを意識した足場の段階や挑戦の段階を設けた点で、これまでの尺度より具体的な能力記述となった。

【学びを促す活動の工夫】 記録:記録に残す(ポートフォリオ)場面/内省:児童リフレクション場面

- ① [プランニング/予見] 学習開始段階(目標設定・達成の工夫)/形成(診断)的評価
- ② [モニタリング/遂行統制] 学習途中段階(中間指導・目標調整)/形成(総括)的評価
- ③ [リフレクション/自己省察] 学習終了段階(変容の自覚・理由)/形成・総括的評価

他方、第Ⅲ期目の科研では、ICT を活用したデジタルポートフォリオの開発も行っており、単元をつなぐ Can-Do 尺度においても、それぞれの活動工夫において、ICT を活用した記録等の工夫についても、可能な限り記述を行った。しかしながら、ICT の活用は補助的なものであり、本質的な学びにどのように影響をするかの詳細な吟味は行っていなかった。

そこで今年度の科研プロジェクトにおいて、デジタルポートフォリオ開発と平行して、情報活用能力を直接的に尺度の段階的能力記述に反映した「デジタル(情報活用能力) Can-Do 尺度」の試案作成を試みた。一般的な情報活用能力の発達ではなく、言語活動の課題達成に、どのように情報活用能力の発達が影響するかを探索的に分析したものである。

## 2. デジタル(情報活用能力) Can-Do 尺度試案作成

「デジタル(情報活用能力) Can-Do 尺度」の試案作成にあたっては、開発チームを組み、泉、長沼、加藤、倉田により、情報活用能力の構成概念に関する資料の分析を行った。その上で、昨年度報告をした「小学校外国語科の授業における学びに向かう力の育成—奥平明香先生の授業実践とその分析—」の今年度の継続的な実践(指導)事例をもとにして、実践者の奥平が作成した原案をもとに、協働的に尺度の改善を行った。以下に開発を行った「聞くこと」と「話すこと」の尺度の試案を示す。

○「思い出を共有するために、学校行事の出来事や感想を発表しよう。」

■「伝わり方の違いに気を付けて、登場人物たちの思い出を聞くことができる。」

- ① 話されている情報を聞き、指示された情報の比較をすることはまだむずかしい。
- ② 話されている情報を聞き、教師に指示された情報の比較ができる。
- ③ 思い出について、複数の条件に応じて情報を選択し、比較して特徴を見つけ、特徴を基に分類したりすることができる。
- ④ 思い出について、明確に伝えるために複数の情報の特徴ごとに分類したことを発話に活かす目的をもって、自分が特に共有したいことに関連づけたりして整理できる。

■「一緒に過ごしてきた仲間や先生方に、小学校生活での思い出を話すことができる。」

- ① 伝える目的をもって話すことは、まだむずかしい。
- ② 伝える目的を考え、話す内容を選択し、単元で学習した基本的な語句や表現を用いて話すことができる。
- ③ 伝えたい思いや目的をもって取捨選択した内容を、聞き手に伝わるように、適切な語句や既習表現を用いて話すことができる。
- ④ 自分の思いや意図をもって取捨選択した内容を、相手への伝わり方の印象を考えて整理した上で話すことができる。



さらに、【思考を促す活動の工夫】や【情報活用能力を活かす活動の工夫】(学びに向かう力を促す工夫)についても記述し、「情報収集+整理・分析版」では<教師の発問と児童の応答の例>、「まとめ・表現版」では<パフォーマンスモデル>について、各段階の例をアノテーション付きで示した。

### 3. 情報活用能力に関する参考資料

#### ◆学習過程(プロセス)【情報活用能力ベーシック】

[https://www.japet.or.jp/wp-content/uploads/2021/11/pamphlet\\_Spread\\_Low.pdf](https://www.japet.or.jp/wp-content/uploads/2021/11/pamphlet_Spread_Low.pdf)

#### ① 課題の設定(発見)

- ・読書や日常生活や事象、見学、実験・観察などを通して問題意識を持つ
- ・根拠ある予想や仮説を立て解決方法を考える
- ・達成すべき目標を明らかにする

#### ② 情報の収集(収集) ⇒【インプット情報活用能力】

- ・実体験や実験・観察、聞き取りなどで複数の一次情報を収集する
- ・本や新聞、インターネットなどの複数の二次情報を収集する

#### ③ 整理・分析(整理、比較、処理、統計) ⇒【インプット情報活用能力】

- ・文章などの情報の意味を正確に理解する
- ・観点を定めて異なる情報を比較・分類したり関連づけたりして整理する
- ・対話によって多面的・多角的に捉える
- ・表現のよさを判断したり、深く捉えたりする
- ・自分の考えを形成する

#### ④ まとめ・表現(形成、発信、伝達、表現、創造) ⇒【アウトプット情報活用能力】

- ・伝える目的を考え、情報を取捨選択し、伝えたい内容を明確にする
- ・自分の思いや意図が伝わるような適切な語句や表現を選び工夫して伝える
- ・事実や判断の根拠や理由、思考の過程を明確に示して伝える
- ・考えた根拠を示しながら議論する
- ・根拠のある予想や仮説・解決の方法を発想し表現する
- ・周りに働きかけてより良くしようと創造する

#### ⑤ 振り返り・改善(振り返り、改善)

- ・学習した内容を自分の言葉でまとめる
- ・自分の学習方法を評価・改善し、次に生かす
- ・自身の変化や成長について振り返る

\*【インプット情報活用能力】及び【アウトプット情報活用能力】は本試案における位置づけ

#### ◆情報活用能力(問題解決・探究)【情報活用能力調査及び情報活用能力育成のためのアイデア集】

[https://www.mext.go.jp/content/20230711-mxt\\_jogai01-000026776-002.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230711-mxt_jogai01-000026776-002.pdf)

レベル9:他人の主張に関する根拠を見つけることができる/ 複数の条件に応じて、複数の情報を検索し、選択できる

レベル8:複数の条件に応じて、複数の情報を選択できる/ 目的に応じて、グラフを選択し、修正できる

レベル7:信頼できる根拠を選択できる/ データの矛盾点を指摘できる

レベル6:目的に応じて、情報を整理することができる/ 複数の事象を示した図を読み解くことができる

レベル5:目的に応じて、情報を図、表、グラフに示すことができる

レベル4:複数のページに書かれている情報を要約できる

レベル3:複数の条件に応じて、情報を選択し、見いだした特徴を基に分類できる  
レベル2:複数の条件に応じて、情報を選択し、比較して特徴を見つけることができる  
レベル1:簡単なグラフや表から情報の読み取りができる/ 指示された情報の比較ができる

⇒【インプット情報活用能力】

◇問題解決・探究における情報を活用する力(思考力、判断力、表現力等)【情報活用能力体系表例】  
[https://www.mext.go.jp/content/20201014-mxt\\_jogai01-100003163\\_005.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201014-mxt_jogai01-100003163_005.pdf)

事象を情報とその結びつきの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力</li><li>②新たな意味や価値を創造する力</li><li>③受け手の状況を踏まえて発信する力</li><li>④自らの情報活用を評価・改善する力</li></ul> |
|---|

ステップ1:体験や活動から疑問を持ち、解決の手順を見通したり分解して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する

ステップ2:収集した情報から課題を見つけ、解決に向けた活動を実現するために情報の活用の見通しを立て、実行する

ステップ3:問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する

ステップ4:問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行する

ステップ5:問題の効果的な解決に向け、情報やメディアの特性や情報社会の在り方等の諸条件を踏まえ、解決に向けた情報活用の計画を複数立案し、他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ねながら実行する

③受け手の状況を踏まえて発信する力⇒【アウトプット情報活用能力】

ステップ1:相手を意識し、わかりやすく表現する

ステップ2:表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせて適切に表現する

ステップ3:目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやり取りを含めて効果的に表現する

②新たな意味や価値を創造する力⇒【アウトプット情報活用能力】

ステップ1:情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめる

ステップ2:情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出す

ステップ3:情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見つけ他との転用や応用を意識しながら問題に対する解決策を考察する

\*発信能力と関連の強い下位能力(③および②)のステップ1~3について抜粋

\*【アウトプット情報活用能力】は本試案における位置づけ

#### 4. Can-Do 尺度設計補足資料

以下に、本科研の基盤となる Can-Do 尺度の具体的な考え方を示すため、2016 年度「中学校英語教科書接続 Can-Do リスト試案」より、4段階の Can-Do 尺度例を示す。「can」を用いた言語活動となり、場面・状況として留学生の歓迎会を開くことを想定し、留学生の情報をもとにして、歓迎会であることを相談して決めることを目的とした課題(タスク)となる。また、過去のマニュアルより、Can-Do 尺度の説明を補足する「活動説明」や「尺度説明」に関する注意事項についても抜粋して再掲する。

「歓迎会の相談で友だちができることを確認し、自分は何ができるか言える。」

- ① 自分ができることを言うのもまだ難しい。
- ② 歓迎会で自分ができそうなことをいくつか言うことができる。
- ③ 自分ができることを言うだけでなく、相手ができそうなことを尋ねることもできる。
- ④ 互いのできることを尋ね合いながら、歓迎会であることを相談して決めることができる。

Can-Do として示した「歓迎会の相談で友だちができることを確認し、自分は何ができるか言える。」がいわゆる「Can-Do リスト」の項目にあたる「全体的能力記述」となり、全体の言語活動の内容(行動)を反映している。その下の①～④が「尺度(scale)」の「段階的能力記述」にあたり、それぞれ下記のような段階として位置づけている。

- ①「自信がなくまだ難しい、または自分にはできないと感じている段階」
- ②「自信があまりない学習者でも何らかの補助的な足場があればできる段階」
- ③「多くの学習者が十全に参加すれば達成可能なクラスでの到達目標となる段階」
- ④「自信のある学習者を飽きさせないような次への挑戦的課題を設けた段階」

②の足場(scaffolding)の段階を設けることで、手助けをされたり、条件付きでできることであったりしても、「できるようになりつつある」過程にある「部分的な能力(partial competence)」であると肯定的にとらえて、①のような「できない感」ではなく、「できる感」を感じさせるようにすることを意図している。また、クラス全体の目標である③の段階に至るためのステップを可視化することで、次に足場を外して学習に取り組むことへ動機づけ、自律性を高める。

そのためには、③は定着を前提とし過ぎずに、十全に学習に参加すれば十分に到達可能な段階とし、また、④も特定の個人のみが達成できるような段階でなく、よりよい達成に向けて自己実現できるような、 $i+1$ を意識した適度な挑戦度合いにすることが重要である。十分にクラスが③に到達できた場合には、次の活動では④を③として設定し、さらなる言語発達を促したり、逆に全体手的に到達が難しい場合には、②を③として新たに追加での足場を考えたりするなど調整を行う。

本マニュアルの「活動説明」では、全体的な活動イメージや実施手順のほか、事前活動についても必要に応じて記述をしている。できる感を感じさせるには、活動がパフォーマンス場面となっていることが望ましく、事前活動として言語材料を導入しておくことを想定している。その際には定着を前提とし過ぎないために、毎回、達成に必要な十分な事前活動の時間を取る工夫が必要となる。ただし、入れ込み過ぎてドリルが中心になっては本末転倒であり、パフォーマンスをさせる中で、次第とできるようになっていくといった活動設計も可能であろう。その他の活動で十分に自己効力が感じられていれば、最初できない感を与えることも、できるようになりたいと動機づける有効な手段となる。②の足場を与える前に③に取り組ませた上で、必要に応じて②を与えたり、逆に最初は②を想定した活動として③に難易度をあげるなど、実施手順ができる感に影響するため、十分な注意をする必要がある。

また、「尺度説明」では、段階設計の工夫についての記載をしており、とりわけ、②と④の段階設定の



妥当性についての説明を行うようにしている。例えば、②では「先生の助けがあれば」などの記述は、それが全員に公平に足場として機能しない場合は段階とはしないようにするなど配慮した。上記の例の「友だちと一緒にならば」に関しては、自信がまだあまりないため、ともするとできていないと見なされがちだが、パフォーマンスにあらわれていないだけで、友だちの後追いであれば確信が持てるなど、学習者の中では学びが育ちつつある状況をとらえることを想定している。

段階化にあたっては、「だいたい」とか「すべて」など、量的副詞の記述のみに頼ることは避け、主観的な判断ではなく、客観的な判断が可能となるように工夫をしている。とりわけ、「すべて」は定着を想起させるため注意が必要である。同様に「正確に」や「間違わずに」といった記述のみとなることも避けるようにしている。上記の例では、④の挑戦段階に設定しており、「素早く」といった記述と合わせることで、集中して取り組む中で、反応が自動化されていくことを促している。

こうした学習タスク的な要素もとりわけ最初の時間などでは入れて、コミュニティなタスクのみで活動を構成し、負荷があがり過ぎないように設計している。「素早く」は声に出す場合は、速さを意識しすぎて発音が壊れてしまわないように、十分な配慮が必要であり、そのためにも同時に「正確さ」を意識させることは、認知的な学習として有効なストラテジーとなる。備考欄には、その他、言語材料の取り扱いへの注意や指導例からの工夫の度合い、またはバリエーション的な活動についてなどを記載した。

本マニュアルはコピーして使うためのスタンダードとしての Can-Do リストではなく、レファレンスとして、授業の活動設計の参考になることを想定して作成されている。それぞれのレッスンの作成者は異なる文脈で授業をしており、全体での一貫性のある Can-Do リストではなく、なるべく多くのバリエーションを示すことを目的としている。本マニュアルの活動や評価ルーブリックを足掛かりとして、まずはアレンジしてみるところからはじめ、尺度によって「できるようになっていく」プロセスを視覚化して、パフォーマンスから逆向きで活動を設計できるようになるための一助となれば幸いである。

## 参考文献

- 国立教育政策研究所 (2020). 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (中学校外国語)』 (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>)
- 長沼君主 (2011) 「小学校英語活動における自律性と動機づけを高める Can-do 評価の実践」『ARCLE REVIEW』 No. 5, 50-77.
- 長沼君主・高野正恵 (2015) 「小学校英語活動 Can-Do 評価尺度の開発と児童・教師内省の分析」*JASTEC Journal*, 34, 168-186.

## Here We Go! 6 Unit 8 “My Best Memory”

○「思い出を共有するために、学校行事の出来事や感想を発表しよう。」

■「伝わり方の違いに気を付けて、登場人物たちの思い出を聞くことができる。」

- ① 話されている情報を聞き、指示された情報の比較をすることはまだむずかしい。
- ② 話されている情報を聞き、教師に指示された情報の比較ができる。
- ③ 思い出について、複数の条件に応じて情報を選択し、比較して特徴を見つけ、特徴を基に分類したりすることができる。
- ④ 思い出について、明確に伝えるために複数の情報の特徴ごとに分類したことを発話に活かす目的をもって、自分が特に共有したいことに関連づけたりして整理できる。

- 評価活動:第3・4時での「聞くこと」【アレンジ度:★★☆】
- 使用教材:Let's listen《p.86(3時), p.88(4時),オリジナル音源(4時)》
- 評価観点:聞くこと/情報活用能力(情報収集+整理・分析)
- 自己調整段階:プランニング(予見) モニタリング(遂行統制) リフレクション(自己省察)
- 学習過程:課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現 振り返り・改善
- 情報活用能力(問題解決・探究): L1 L2 L3 L4 L5 L6 L7 L8 L9 N/A
- 情報活用能力説明:小学校外国語では、情報を収集する場面は、音声を聞く場面、動画等を視聴する場面が主である。本実践では、後の発話につなげていく目的をもって、「聞くこと」により音声情報を取り入れる活動を行う。児童は複数の音声情報を聞き、話されている内容を理解するだけでなく、話し方による印象の違いについて比較・分析・分類を行う。自分に必要な情報を収集する場面で、1人1台端末を活用して、目的をもって、音声情報を聞き取る。次に、自分の伝えたいこと(思い出)をよりよく伝えるには、誰の話し方が参考になるかについて選択・判断する。複数の情報を比較・分析・分類しながら捉えた2つの特徴を基に、自分に必要な話し方を選択するための判断をする。自分の考えを選択・判断するために、音声情報をもとに比較・分類している場面で情報活用能力を育成する。
- 活動説明:授業展開開始のリスニング活動として、Let's listen.(P88)の登場人物 3 人の思い出の行事でしたことを聞く。1 回目は、内容理解をする目的で聞く。2 回目は、第3時の Let's listen.(P86)で聞いた Takuya の話し方の特徴を想起させる。Takuyaの発話の特徴は、主語に「We」「Kazu」「Shota」「I」と、複数の友達が登場し、話の内容に広がりあるということを捉えている。第3時間目で行った「主語に着目した聞き方」の経験を想起させてから、第4時でも、登場人物 3 人の中で特に印象深い話をしているのは誰かという観点で、情報を比較しながら聞く。

Kazuが深い話をしていることを捉えたら、なぜ深まりを感じるのかという点について分析する。再度、児童用端末を使ってペアなどで聞かせる。その際は、Kazuの話し方の特徴を見つける目的をもって、Lily(第4時に登場)や Nanami(第4時に登場)、Takuya(第3時に登場)など、複数の人物と比較して特徴を見つけることができるようにする。その際、端末上のデジタルカード等にメモを取らせながら聞かせる。Kazuの話し方の特徴は、主語に「I」を多用しており、自分のことについて話す内容が多い。この捉えた特徴を参考に、自分の伝えたい事を伝える際には、参考になりそうかを思考させる。

Kazuの発話の特徴を捉えた上で、自分の伝えたい内容に適していない児童もいることが考えられる。その際は、指導者が作成した担任等の思い出のスピーチをオリジナル音源であらかじめ準備する。始めは一斉で聞かせ、内容の大体を捉えてから、全員にロイロノートで配布する。「何を聞き取らなければならないか」の目的をもって、個別や協働で複数の担任の発話の内容を聞き、思考ツール等を用いて分析的に聞く時間を設ける。自分の発話の参考になりそうな人物の話を、再度分析的に聞くことで、話し方の特徴を捉え、その特徴のよさを判断し、自分の考えの形成につなげ、後の発話に活かしていけるようにする。
- 尺度説明:②の段階は複数の人物の思い出を聞いて、Kazuの話し方の特徴を見つけることができるようにする。まずは、2つの情報(2名の思い出)を比べるように促すことで足場掛けを行う。次に、主語だけを記入するような簡単なデジタルカードを用意し、他の人物との話し方と比較して、Kazuの話し方の特徴

と区別しやすいようにする。その際は、複数人の発話の分析メモを書いたデジタルカードを用いて、パン図で視覚的に比較させることも可能である。③の段階では、印象深く残っている登場人物やオリジナル音源の題材である担任達(の発話)を選択し、話し方の特徴を基に分類できるようにする。例えば、担任の話し方は、広がりのある Takuya 型か、深まりのある Kazu 型かという基準で分類させれば取り組みやすい。その際は、思考ツールの Y チャートや X チャートを活用すれば分類がしやすくなる。④の挑戦的段階では、自分の伝えたい思い出をよりよく伝えるには、広がり型の展開がふさわしいか、深まり型の展開がふさわしいか、伝える目的を明確に持って、伝わり方の印象の効果も考えながら内容の整理ができるようにする。その際は、複数の情報の特徴ごとに分類したことを基に、自分の発話に活かす目的をもって、自分が特に共有したいことに関連づけたりして整理し、メッセージとして発話できるようになることを目指している。

- 備考:教科書では登場人物達の思い出を聞いて理解する活動が設定されている。しかし、登場人物達の発話を聞いて理解するだけでは、自分の伝えたい内容の発話の工夫につながらない場合もある。単元のゴールの活動は「話すこと[発表]」である。自分の共有したい思い出を、聞き手に伝えるために、聞くことの活動は、後の発話における内容の整理につながるように、「何を聞き取らなければならないか」の目的をもち、分析的な聞き方が必要である。教科書で設定されているリスニング題材が、児童の実態に距離がある場合は、校内の教師を題材にすることも効果的である。聞く活動は、それぞれが児童用の端末を活用し、情報の収集・整理の場面でデジタルカードや思考ツールなども活用できる。自分に合った方法でまとめておくことで、自分の発話の際にメモとして活用することも可能である。

#### <教師の発問と児童の応答の例>

##### ① 情報活用能力(問題解決・探究)【L1】未満

T: この3人の中で、Kazuの話し方で、伝わり方(印象)が違う人はいるかな。

S: Kazuの話し方が、LilyやNanamiとなんだか違う気がする。印象に残るけど、なぜだろう。

##### ② 情報活用能力(問題解決・探究)【L1】

T: Kazuの話し方の特徴はどんなところかな。Takuyaの時は、どうやって特徴を見つけたかな。

S: Iや友達の名前を言って、話しているところが特徴的だった。

T: Takuyaの時と同じように、IやWeなど、話の始めに気を付けて聞いてみましょう。

Let's listen carefully and try to pay attention to I, We, friend's name. Just same as Takuya's speech.

～視聴後～

S: Kazuは、Iを多く使って、自分のことについてたくさん話している。自分のことについて掘り下げながら話している。深まる話し方。

##### ③ 情報活用能力(問題解決・探究)【L2】

T: A先生は、Kazu型かな、Takuya型かな。B先生はどっちかな。自分にとって印象深く残っている人の話し方を、特徴を基に思考ツールに仲間分け(分類)してみよう。思考ツールのYチャートやXチャートを活用すれば分類がしやすくなるね。

How about A-sensei? Team Kazu or team Takuya? And, how about B-sensei?

S: 分析してきた内容メモを見ながら聞くと、分類できそう。

##### ④ 情報活用能力(問題解決・探究)【L3/L6】

T: 自分の伝えたい思い出をよりよく伝えるには、Takuya型(広がり型)がいいか、Kazu型(深まり型)がいいかな。伝えたいことの中心にしたいことに気を付けて話す内容を整理できるといいね。

How about you? Are you on the Team Kazu or the team Takuya?

S1: 合唱コンクールの練習で、特にがんばって歌っていた〇〇さんのことを伝えたいから、Takuya型で、〇〇さんの名前も言って、発表したいな。

S2: 修学旅行で〇〇先生が、エルサになっていて面白かったから、先生のこと話したいな。

S3: 修学旅行で今帰仁城に行って、城壁を見て感動した。特に、アンモナイトが埋まっていた歴史を感じて、実際に触れることができるとっても感動したことを伝えたいな。

S4:みんなのおかげで楽しい思い出ができたことをありがとうって言いたいな。

#### 【思考を促す活動の工夫】

情報の収集を行い、比較・分析をすることで、自分の話そうとしている出来事(思い出)は、自分にとっての特別な出来事なのか、または、みんなと一緒にしたことポイントが置かれた出来事なのか、数ある思い出の中で、なぜその出来事を伝えたいのかなど、思考の再構築を行い、「話す目的や意図」が明確になっていく。そのためには、聞き手に伝えるために、伝える情報(思い出・出来事)を相手に分かりやすく言葉で表現する力が必要なことから、登場人物たちの発話(内容理解・論の展開・表現)に着目して聞くことができるようになる。「何を聞き取らなければならないか」の目的をもって、(音声)情報を取り込むようにする。その際は、児童が慣れるまでは、比較や分類に適した思考ツール等を教師が提示する方が良いが、後に、自分の思考に合ったツールを選択していくようになることを伝えながら提示する。

#### 【情報活用能力を活かす活動の工夫】(学びに向かう力を促す工夫)

単に音声を聞いて、わかったことを聞き取るだけの活動ではなく、思考のレベルを一步深めるような聞くことの活動をすれば、音声情報を基に、必要な情報を収集、整理、分析する力を育成する「聞き方の方略」を育成することもできる。小学校外国語においては、英語を書いて思考を深めるのは難しいので、内容を整理する段階ではイラストや日本語を使用することも妨げない。また、音声を残すことも効果的である。その際には、思考ツールなどの活用も合わせて行うことで、情報活用能力の情報の収集・整理・分析を行う力が育成される。

## Here We Go! 6 Unit 8 “My Best Memory”

○「思い出を共有するために、学校行事の出来事や感想を発表しよう。」

■「一緒に過ごしてきた仲間や先生方に、小学校生活での思い出を話すことができる。」

- ① 伝える目的をもって話すことは、まだむずかしい。
- ② 伝える目的を考え、話す内容を選択し、単元で学習した基本的な語句や表現を用いて話すことができる。
- ③ 伝えたい思いや目的をもって取捨選択した内容を、聞き手に伝わるように、適切な語句や既習表現を用いて話すことができる。
- ④ 自分の思いや意図をもって取捨選択した内容を、相手への伝わり方の印象を考えて整理した上で話すことができる。

- 評価活動:第4・5 時でのやり取り【アレンジ度:★★★】
- 使用教材:Let's listen(p.86, p.88)
- 評価観点:話すこと【やりとり】／思考力・判断力・表現力/主体的に学習に取り組む態度
- 自己調整段階:□プランニング(予見) ☒モニタリング(遂行統制) □リフレクション(自己省察)
- 学習過程:□課題設定 □情報収集 □整理・分析 ☒まとめ・表現 □振り返り・改善
- 情報活用能力(問題解決・探究):□L1 □L2 □L3 □L4 □L5 □L6 □L7 □L8 □L9 ☒ N/A
- 情報活用能力説明:本実践では、児童は複数の音声情報を聞き、話されている内容を理解するだけでなく、話し方による印象の違いについて比較・分析・分類を行ってきた。その上で、自分の伝えたい思い出(情報)を発信する場面で、誰に、何のためにこの思い出を伝えるのかという目的を明確にもって話すことで、話し方・伝え方など表現力が発揮される。受け手の状況を踏まえて(聞いているクラスメイト・他学級の友達、先生に)、どんな内容を、どんな方法で発信(分かりやすく伝える・視覚材料使用)するか、言葉や表現の選択に加えて創造力・発信力等の情報活用能力を育成する。
- 活動説明:授業展開開始めに、Let's listen.や教師が作成したオリジナル音源等を用いてリスニング活動を行い、複数の人の思い出について、情報を比較しながら聞く。それぞれの登場人物の話し方を聞き比べ、伝わり方の印象の違いから話し方の特徴をとらえることができるようにする。話し方の特徴を捉えたうえで、自分の伝えたいことを表すには、どのような話し方がよいかについて全体で思考させる。そうすることで、自分なりに伝える目的を考え、話す内容を選択することができるようにする。

教科書で設定されているリスニング題材では、自分の伝えたい内容に直接結びつかない児童もいることが想定できるので、その際は、教師が作成したオリジナル音源を提示し、自分の伝えたい事に参考になるような人物を選択させ、再度、聞く時間を設定する。自分なりに相手に伝える目的を考え、話す内容を選択した上で、実際にペア A とやり取りを行う。伝えたいことを、まだうまく伝えられないという実感を持たせた上で、話す内容の取捨選択や聞き手に伝わるような適切な語句や表現を選ぶために、リスニング教材やオリジナル音源を再度活用して学習状況の調整を行わせる。

次に、相手を替えてペア B とやりとりをする。話す内容の順番や聞き手に伝わるような適切な語句や表現を用いて話すことができたかについて自己評価を行わせる。中間指導として、友だちの話す内容を聞いて、表現の使い方や話し方の良さに気づき、参考にすることも大切であることを伝える。共有したいペアがいれば全体で発表させ、参考にしたい点や表現の良さに触れるようにする。

再度、相手を替え、ペア C とやりとりを行わせる。中間指導として、聞き手へのメッセージを付けて話している児童がいれば、全体で共有する。自分の思いや意図がより、聞き手に伝わるようにする工夫の一つとして、聞き手にメッセージを付けて話すことで、思い出を伝え合うことの価値について話し合うようにする。メッセージを加えて話すことに挑戦するように促す。さらに、相手を替えペア D とやりとりをする。最後に、始めのペア A と再度やりとりを行わせる。その後、互いの発話の良さや改善できている点について話し合わせ、協働的な振り返りを行うようにする。



- 尺度説明:①の段階では、伝える目的がまだ明確ではないため、複数の登場人物の話と比較しながら聞き、話し方の特徴を捉える活動を足場として、自分ごとに引き寄せて聞くようにする。②の段階は自分なりに、伝える目的を考えた上で、伝えたい思い出を選択し、基本的な語句や表現を用いて話すことができる。③の段階はなぜ、この思い出を伝えたいのか、伝える目的をもち、特に伝えたい出来事を選択し、聞き手に伝わる話し方を工夫した上で伝えることができる。その際は、リスニング教材やオリジナル教材、友だちの話し方などを参考にする。主語に広がりを持たせた話し方がよいか、動詞を多用して深く話した方がよいかなど、伝わり方の印象を考えて、適切な語句や表現を選び、伝えたい内容を工夫して伝えることができるようにする。④の挑戦的段階では、この思い出を伝えることで、聞き手に何を感じてほしいのかなど、思考の過程を明確にしながらかつ話し段階である。自分の伝えたいことに思いや意図を持ち、表現の良さを判断したり、深く捉えたりしながら、相手に伝わるように適切な表現を選択して話す段階である。また、感謝型・抱負型・絆型など、自分が伝えたいメッセージを付け加えることを通して、自分の考えを形成していく姿が表れる。なお、感謝型とは、ありがとうのメッセージがある発話のこと。抱負型は、がんばりたいことなど抱負が入っている発話のこと。絆型は、友だちに、「一緒に楽しもう」などの入った発話のことである。発話例は、〈パフォーマンスモデル〉で紹介する。
- 備考:教科書では P89 の Let's try. で、思い出に残った学校行事について行った場所やしたことを友達に伝える活動が設定されている。活動自体は同じだが、リスニング活動で収集、比較、整理した情報を基に、自分の思い出の大切さが伝わるような内容にする目的をもち、話す内容を整理した上で話すことができるようにする。表現の目的を考える上で、教科書の登場人物の内容を参考に考えるのか、教師が提示したオリジナル音源を使うかなど、今後自分が伝えたいことの参考になるのは誰なのかという目的をもって選択させるようにする。

#### <パフォーマンスモデル>

##### ①単元の基本表現を言う段階

S1: What's your best memory?

S2: My best memory is (a) school trip. It was fun.

②言えるようになった語句や表現から、自分なりの伝える目的を基に、話す内容を選択し、基本的な文で話す段階

S1: What's your best memory?

S2: My best memory is (our) school trip.

We went to ○○. I saw ○○-castle. It was nice. My second memory is ~.

③話題が広がったり、深まったりすることにより、具体的なエピソードや個人的なエピソードが増える段階。しかし、聞き手に伝わるように、適切な語句や既習表現を用いて話す思考力・判断力・表現力が一層必要となる。

【Takuya 型:広がり】Takuya の発話の概要を次に示す。①みんなで劇をした。②友だち1は、○役を演じた。③友だち2は、○役を演じた。④自分は主役だった。など、自分以外の人物のことも話し、内容に広がりをもたせながら思い出を話している。

S1: What's your best memory?

S2: My best memory is (our) school trip.

We enjoyed the teachers' Ana-Yuki show. My teacher A sensei played Elsa. It was not cute. But it was funny. My teacher B sensei played KUROKO. It was a nice help. We enjoyed quiz time. It was great. My second memory is ~.

【Kazu 型:深まり】 Kazu の発話の概要を次に示す。①みんなでリレーをした。②ぼくはスポーツが不得意だ。③ぼくは早く走ることができない。④友だちが助けてくれた。など、自分の個人的なことも詳しく話し、内容に深まりをもたせながら思い出を話している。

S1: What's your best memory?

S2: My best memory is (our) school trip.

We went to ○○-castle. It was great. I saw the castle wall. I like stones.

I saw ammonite(fossil). I touch(ed) ammonite(fossil). It was interesting.

My second memory is ~.

S3: My best memory is (our) sports day. We enjoyed Eisa-dance and relay race.

I don't like sports. I'm not good at running. Relay race, my friend ○○ help(ed) me. It was nice support. Thank you my friend.

④思い出について、自分の思いや意図をもって取捨選択した内容を、相手への伝わり方の印象を考えて整理した上で話すことができる段階。自分の思い出を伝えるだけでなく、友だちが活躍したことも言うことで、一緒に思い出を作った仲間や先生方にもありがとうや、中学校も楽しもう！というメッセージを添えることで、「共有」「共感」が入っていることが分かる。

【感謝・絆型】

S1: What's your best memory?

S2: My best memory is (our) drama festival.

We made a Japanese-history drama. I like history. I'm interested in Edo-jidai.

I played *Perry*. My friend played Sakamoto Ryoma. It was cool.

We enjoyed the original drama. It was great.

My second memory is ~.

Thank you, my teachers, friends and class.

I enjoyed Yutaka-sho life. Let's enjoy J.H.S. life!

【抱負型】

S1: What's your best memory?

S2: My best memory is (our) drama festival.

We made a Japanese-history drama. I like history. I'm interested in Edo-jidai.

I played *Perry*. My friend played Sakamoto Ryoma. It was cool.

We enjoyed the original drama. It was great.

My second memory is ~.

I enjoyed Yutaka-sho school events. I want to enjoy J.H.S. events!

S3: I want to study math in J.H.S.

【思考を促す活動の工夫】

自分の伝えたい思い出は、自分にとっての特別な出来事なのか、または、みんなと一緒にしたこと、ポイントが置かれた出来事なのか、話す目的や意図を明確に持って伝えることができるようにする。そのためには、聞き手に伝えるために、伝える情報(思い出・出来事)を相手に分かりやすく言葉で表現する力が必要である。例として、思考ツール等を用いて、デジタル教科書や教師作成のオリジナル音源等の発話を分析し、発話の特徴を捉えた上で自分の伝えたい事に参考になりそうな話し方や表現はないか、話す目的をもって(音声)情報を取り込むようにする。また、デジタル教科書の登場人物の発話を聞き比べ、自分の伝えたい事と似ている人物がいる場合には、人物の発話を参考にしながら表現や論の構成に活かしていけるようにする。

端末を活用してプレゼンテーションを行う場合、内容構成の際に、提示するスライドの順番を意識することで、論の構成を行うことができる。その際は、話す内容と、スライドが一致しているか、聞き手の理解

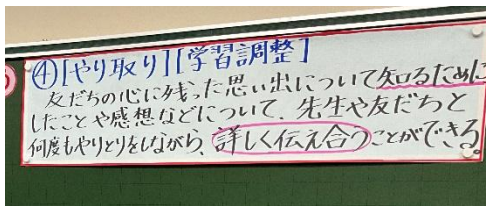
を補助するための視覚材料として適切かなど、より効果的に行えるようにする。

【情報活用能力を活かす活動の工夫】（学びに向かう力を促す工夫）

思考のレベルを一步深めるような聞くことの活動をすれば、コミュニケーションのための内容理解・共感の聞くことの活動から、音声情報を基に、必要な情報を収集、整理、分析することを通して、まとめ（内容を整理）、表現する力を育成できる。デジタル・カードや思考ツールを活用する際等、内容を整理する段階では音声カードやイラスト等も効果的に活用したい。単元の途中段階では、自らの情報活用を評価・改善する力（①相手を替えながらやりとりをして修正していく、②ループリック等を用いて相互評価する、③自分を撮影した動画を見直して修正、録音した音声を聞き返して修正する）を発揮する時間を設定し、学習を通して必要な場面で情報活用能力を徐々に育成できるようにすることが大事である。単元末の発表の際には、一人一台端末を活用し、聞き手の状況を踏まえて、視覚資料を提示しながら話すこともできる。単元で学んだことを生かし、思い出を話すことを通して、新たな意味や価値（感謝や絆、抱負）を創造する力の育成や、周りに働きかけてより良くしようと創造する力も育成できるようにしたい。

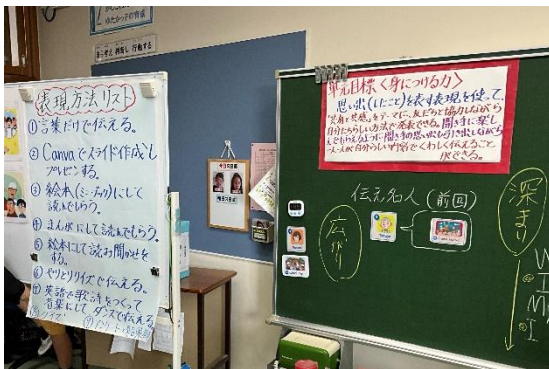
### 1 「自己調整」を成立させる為の、授業設計の工夫

- ・本時の目当てのなかに、具体的な目的や場面、状況が明示、共有されている。



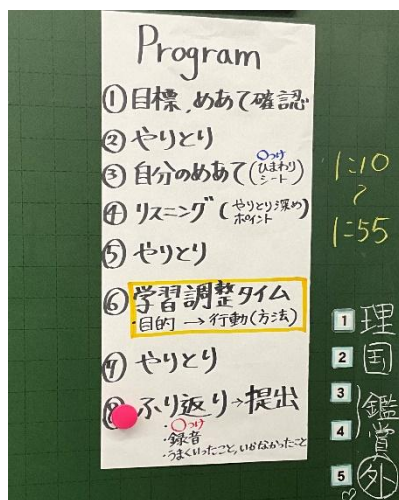
この目当ては、単元の最初に、教師と児童が、本時での学びの目的や手段を話し合っ共創したものである。

- ・単元目標を児童と共創することで、学びの方略や目的が「自分ごと」になっている。



単元目標は、児童が各自で決めた「個人の目当て」を集めて、AIを使って分析した結果を基に、教師と児童と一緒に創る。これにより、ほとんどの児童が納得できる単元目標になっている。

- ・授業の流れが明確で、その中でも、自己調整の場面や学習方略が明示されている



授業の流れを明示し、学習者が見通しを持って学習に取り組めるようにする実践は多い。奥平実践では、この学習の流れの中に、自己調整の場面や、その方法も示している。これを繰り返し経験することで、児童は自己調整のための様々な方略を徐々に身につける。自己調整の具体的な方略を、教師と児童と一緒に経験することで、より主体的に学ぶ学習者に成長することができる。

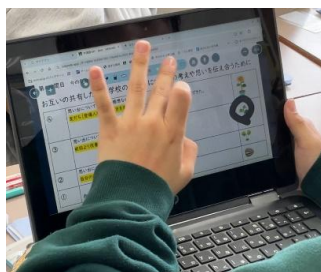
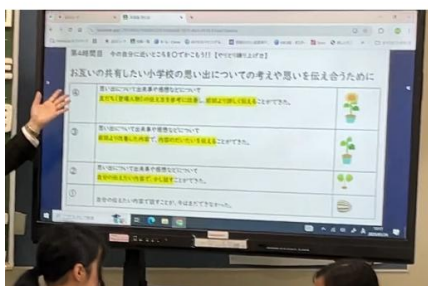
## 2 「自己調整」の各段階におけるデジタル教材・デジタルポートフォリオの活用

### ① 予見：山登り学習計画表を元に、本時の学びの目当てを児童とともに確認する



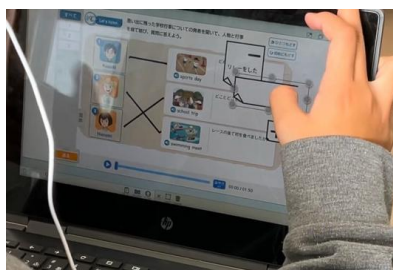
授業の最初に、山登り計画表を元に、これまでどんなことを大切に学んで来たか？（足跡）本時で身に付けるべき学びは何か？（目標）について全員で確認する。《課題の設定》

： Can Do リストを使い、1回目のやり取りの段階で、自己評価させる



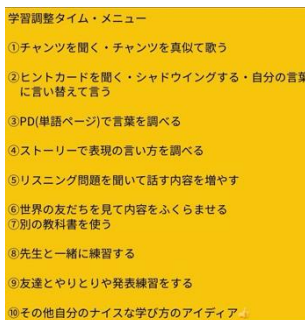
やり取りをさせてみて、現段階での各自の到達度を把握させる。4段階の Can Do 尺度から、本時の到達目標を明確に持たせる。

### ② 遂行：学習者用デジタル教科書の Listening を参考に、自分の表現を再考する



Listening は、単に聞くだけの活動に終わらせず、自分の表現を改善するためのレファレンス（お手本）として活用している。

： 学習調整タイムで学習方略を選択し、個人の学びの目当てを立てる



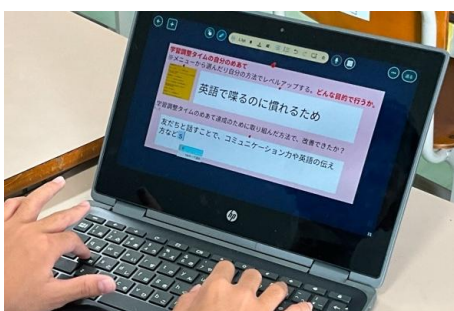
先輩達が体験し、自己調整が上手くできたと実感した学習調整の方略リスト（左）を参考にしながら、自分はどんな目的で学習調整をするのかを記述している。（右）



- ③ 省察：最後のやり取りの後、Can Do リストで相互評価し、学びの進捗を確認する  
学習調整タイムで立てた、個人の学習の目当ての有効性を振り返る



はじめに記録した4段階のCan Do尺度を用いて、最初と同じペアで、再度やり取りと相互評価をする。  
2度目のやり取りの中で、発話内容の深まりを相互評価させ、赤丸で記入している。(左上)《振り返り・改善》



学習調整タイムで自分が立てた目当てが有効であったかをリフレクションしている。良い学び手に成長するために、学びの手立てが有効であったかを省察することは大切である。(左下)《振り返り・改善》

### 3 深い学びを成立させるための、学習活動や教材の工夫

- ・文構造を視覚的に捉えるための仕掛け



小学校では文法を学ばず、「文構造」を学ばせる。写真のように、主語、動詞、目的語の位置を、色分けした立体物やぬいぐるみを置くことで提示している。これにより、児童は自然に文構造に気付くことができる。《整理・分析》

- ・外国語の授業における、児童の学習不安を軽減するための仕掛け

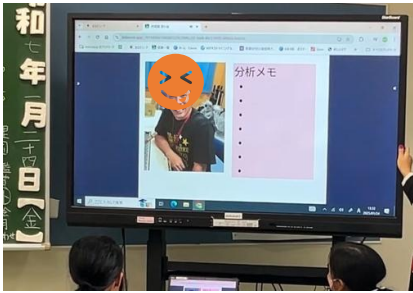


児童の中には、外国語を発話する際に、心理的負担を強く感じる者もいる。そのため、肌触りが心地よいぬいぐるみなどを置いておき、不安な児童はそれを持って発表する者もいる。(特別支援教育の視点・情意面の調整)

- Let's Listen を参考に自己表現を深めるための工夫  
学校の先生のスピーチを聞いて、表現を広げるための工夫

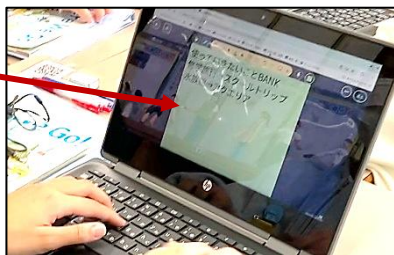
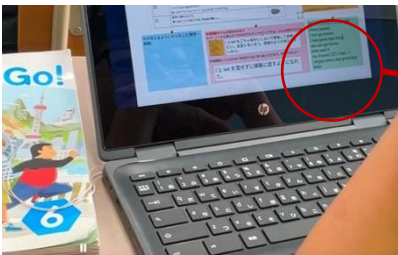


まず、教科書の **Listening** の表現を想起させ、どのような主語が使われていたかを問う。  
主語を変えることで、**Kazuki** は表現に深まりがでること。**Lily** は表現に広がりができることを児童と確認する。《整理・分析》



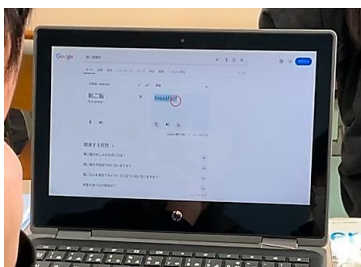
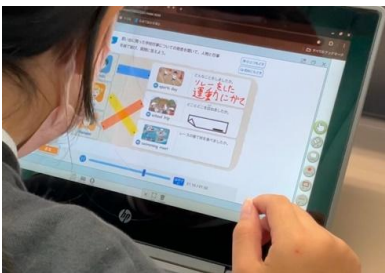
**Goal** 活動の表現をするためには、教科書の **Let's Listen** の表現では不十分である。そこで、学年の教員2名をモデルに、**Goal** のスピーチを聞かせて、どのような工夫がされていたかを、分析させ、さらに表現に深まりができるよう工夫している。  
《整理・分析》

- 自分が学んだ表現や語彙を、**Word Bank** に蓄積する



児童は新しく学んだ表現や語彙を、自分に合った方法で貯めていく。(教師は記録の強制はしない)  
《情報の収集》

- 端末は各自の学びに合わせて、自分で考えて使用する



**Listening** で気付いたことを付せんにと記入したり(左)、表現したい語彙を機械翻訳で調べたり(右)各自が自由自在に活用して学んでいる。  
《まとめ・表現》

#### 4 総評（成果と改善点）

- 山登りの単元計画や、毎時間記録するデジタルポートフォリオなど、児童が主体的に自己調整をするための仕掛けが随所に見られる。
  - 学習調整したことを、実際に英語を使ってやり取りすることで、児童自らが確認し、次の学習調整に活かすという、「自走する学びのサイクル」が確立している。
  - 教師は学習環境や学習材料を整え、児童が自由に選択し活用できる仕組みを整えている。一方、必要な場面では、すぐに教師が助言や介入をし、学びの方向性を修正・支援している。
  - 「音声でのやり取りを好む児童」「読み書きを好む児童」「デジタルツールの活用を好む児童」など、それぞれの学習特性を活かした多様な学びの場が保障されている。
  - 自己調整学習を行う際、児童が自分の情動調整ができるよう、ぬいぐるみや立体物を置き、安心感のある教室環境を整えている。自己調整学習だけでなく、特別支援教育の視点からも有効な手立てである。
- △児童の発話の正確性は、長期にわたり自己修正を繰り返しながら確立していくものである。そのための手立てを、教師はどのように準備し、児童の発話の正確性を、どう担保していくかが課題である。
- △児童が、各自の学びのスタイルに合わせ、自分で考えながら調整を行う力を全教科で育てて行く必要がある。そのために、デジタル教材や、デジタル音声教材、AIドリルなども「補助的に」活用しながら、主体的に学びを調整できる力を育成していく必要がある。

以上。

## 令和6年度版小学校「外国語」教科書分析と考察

小学校外国語の文部科学省検定教科書6社の令和6年度版教科書について、HPでの情報等も参照しながら分析をし、令和2年度版教科書とも関連させて、学習者用デジタル教科書と教科書紙面における主な変更点を中心に、各担当者が様々な視点からの考察を行いました。

ただし、本報告は公開されている限られた資料での報告であり、全てのデジタル教科書の機能や特徴を網羅した結果ではないことをお断りしておきます。

各教科書を比較する主旨ではなく、ご自身が使われている以外の教科書も参考にして、実践を工夫される上での何かの参考にしていただければ幸いです。

\*令和2年度版小学校「外国語」教科書分析と考察について、2022年度冊子に掲載されていますので、ご参照ください。（科研ホームページ：<http://www.izumi-lab.jp/easel.html>）

学習者用デジタル教科書の分析を通して一学びと指導の可能性を探る— (pp. 22-23)  
 (「言語教育エキスポ2025」予稿集より抜粋)

泉恵美子 (関西学院大学) ・長沼君主 (東海大学) 他

令和6年度版 *ONE WORLD Smiles* (教育出版) 教科書分析 (pp. 24-28)

泉恵美子 (関西学院大学) ・大江太津志 (京都市立開晴小中学校)

令和6年度版 *Here We Go!* (光村図書) 教科書分析 (pp. 29-33)

長沼君主 (東海大学) ・幡井理恵 (昭和女子大学附属昭和小学校)

令和6年度版 *Blue Sky elementary* (啓林館) 教科書分析 (pp. 34-39)

加藤拓由 (岐阜聖徳学園大学) ・奥平明香 (沖縄県豊見城市立ゆたか小学校)

令和6年度版 *Junior Sunshine* (開隆堂) 教科書分析 (pp. 40-44)

黒川愛子 (帝塚山大学) ・森本敦子 (高野山大学)

令和6年度版 *CROWN Jr.* (三省堂) 教科書分析 (pp. 45-49)

田縁眞弓 (京都光華女子大学) ・大田亜紀 (別府大学短期大学部)

令和6年度版 *NEW HORIZON Elementary* (東京書籍) 教科書分析 (pp. 50-54)

アレン玉井光江 (青山学院大学) ・俣野知里 (京都市立二条城北小学校)

山川拓 (京都市立九条塔南小学校)

# 学習者用デジタル教科書の分析を通して —学びと指導の可能性を探る—

(「言語教育エキスポ2025」予稿集より抜粋)

泉恵美子(関西学院大学)・長沼君主(東海大学) 他

## 1. はじめに

2024年度より小学校外国語科で学習者用デジタル教科書が配布されることになった。本研究グループは、長年小学校英語の評価について、特に児童の自己効力感、有能感と自律性を高める活動設計と評価に着目し、Can-Do 評価やパフォーマンス評価、ルーブリック評価などに関して理論と実践を行い、成果を HP 等で報告してきており、令和2年度版の教科書の分析も行っている(小学校英語評価研究会, 2021)。

今回は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」(2021年)を受け、令和6年版文科省検定教科書6社の学習者用デジタル教科書と教科書紙面が、令和2年版と比べてどのような違いがあるのかを分析し、より良い学びと指導、さらに評価について提言を行う。

## 2. 学習者用デジタル教科書変更点のまとめと提言

デジタル教科書を用いた効果的な学びに関して、文部科学省(2023)では、自分にあったスピードでの音声読み上げや個々の理解に合わせて言語表現の練習・確認を行う「個別最適な学び」から、自分の考えや気持ちを伝える上で、拡大機能や書き込み機能を活用したり、ペア・グループ活動で自他の意見を色を変えて書き込んだりすることにより、思考を整理し、考えを構築して、意見交流を行う「協働的な学び」、その後改めて自分の意見を整理して書き込んで、自分の考えをまとめて深める「個別最適な学び」への学びの流れを活用のポイントとしてあげている。

令和6年度版の教科書分析全体を通して、さらなるデジタル教科書活用にあたってのポイントの1つ目としては、令和2年度版でもあった特別支援のためのデジタル教科書の汎用機能(文字の拡大や音声読み上げなど)の言語活動での応用から、語学学習に特化した機能の充実が進んだことがある。フレーズごとになりきって対話練習を行ったり、自分が言いたい内容に置き換えた文を読み上げたりする機能の活用には、言語学習や言語習得のプロセスの理解が欠かせず、個々の児童の学びの個別最適化を行うにあたって、こうした高度な学習ツールを活用するための、クラス全体での学び方の共有などの、ストラテジー支援の重要性が高まっている。また、言語表現や文字・音の学びを支援するためのゲーム的な機能も含めた機能の充実もされているが、個別最適な学びが暗記的な学習や機械的な学習に留まらないように、活用にあたっては十分に注意が必要だろう。

改訂版教科書のさらなる活用のポイントの2つ目としては、デジタル教科書のポートフォリオとしての活用の可能性があげられるだろう。従来はデジタル教科書とは別に学習支援ソフトを活用することで、動画や音声の保存・共有、さらには思考ツールの活用が可能となっていたが、改訂版ではデジタル教科書上での書き込みや振り返りなどの蓄積や共有が可能となってきている。ただし、振り返りが振り返りっぱなしで活用されていないのと同様に、ポートフォリオが貯めっぱなしで活用されない状況を避けるためにも、CAN-DO リストを柱として各課や学年の活動がつながり、「学びの羅針盤」としての機能を果たすための CAN-DO 設計の工夫が必要となるだろう。

デジタル教科書や QR コード先のコンテンツについても教科書検定の対象となる方向性での議論もされる中、学びのプラットフォームやポートフォリオが学年やさらには小中を超え



てつながり、学習者のものとして活用されることが望まれる。

### 3. おわりに

今回の報告は一般公開されている資料を中心に、06 版の改訂に焦点を当てて分析しており、各教科書の特徴を全て網羅しているわけではない。また紙幅の都合で割愛している箇所も多い。あくまで参考資料に留めていただければ幸いである。

### 引用文献

小学校英語評価研究会（2021）。「Can-Do 及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアルー小学校英語教科書 5 領域観点別評価試案」

文部科学省（2023）。「令和 4 年度学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業報告書（概要版）」

# 令和 6 年度版 ONE WORLD Smiles(教育出版)教科書分析

泉恵美子 (関西学院大学)  
大江太津志 (京都市立開晴小中学校)

## 1. デジタル教科書の活用の工夫

◇「令和 6 年度版小学校教科書のご紹介」教育出版

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/r6shou/eigo/digital/digital.html>

◇まなびリンク

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/m-link24/eigo/index.html>

### ① 音声読み上げ機能

・音声読み上げ機能や QR コードが充実:紙面の英語語句や英文を押すと音声再生され(速さが3段階で調節可能),いつでも何度でも発音を確認できるので,個人学習や家庭学習に適している。



### ② Smiles ポケット

・アルファベットの名前と音,書き順を学べるコンテンツ,キーボードの機能の追加,歌や数種類のジングル,音・チャンツ,絵カードじてん,ゲーム感覚で楽しく学べるもの(フレーズ練習,ポインティングゲーム)などが入っている。デジタルならではの楽しく学べる工夫がある。



### ③ 歌・チャンツ動画

・新曲を追加して5・6年全単元に収録。歌詞も単元のテーマや言語材料に配慮されており,楽しみながら英語の語句や表現に慣れ親しみ,定着を図ることができる。

### ④ その他

・My Word Book で語彙を学べる。(令和 4 年に追加された機能)

・6年にも名所名物マップ(Dream World Tour,世界版)を追加

・06版で新しく追加された機能として、音声の録音と再生がいつでもできる:録音・再生機能がサイドバーについており、録音したいときにさっと立ち上げて、気軽に自分の発話を確認できる。



### ⑤ 機能

・紙面はズーム、ペン、マーカー、消しゴムが設定。

しおり、タイマー、付箋、図形・スタンプ、URL コピー、リンク、ポインター、マニュアルがある。

・映像、歌、チャンツなどは、QRコードで「まなびリンク」につながり、直接見聞きできる。その際、音声の再生速度の調整、文字あり/なしが設定できる。

### ⑥ 学習者支援

・音声の読み上げ機能において、小さいー大きい、おそーーはやく、ひくーたかひの設定があり、児童が自由に選んで聞ける。

・文字の大きさや、画面と文字の色をかえることができる。

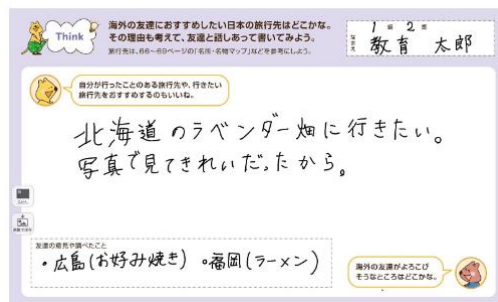
・ふりがなをつけたり、わかちがきにしたりすることもできる。

### ⑦ 各ステージ: 導入

・Let's Watch (単元導入動画)

単元の概要を実写動画や資料映像などで表した動画を提示し、単元への興味を喚起するとともに、目標を意識させる

・Thinkシート:単元のテーマに関する意見を自由に書くことで、単元への興味・関心を喚起する。また、友達の意見をもとに自身の考えを広げたり深めたりする活動もできる。(06版で新しく追加)



### ⑧ コミュニケーション活動

・コミュニケーションを意識した動画やモデル音声の提示し、自分の思いを伝え、相手の思いを聞く、よりよいコミュニケーションを図る方法を学び取らせるように工夫



会話モデル動画 (実写)



会話モデル動画 (アニメーション)

・ゲームコンテンツで楽しく定着を図る:クイズに正解すると、ニコニコマークが出て、児童に英語を学ぶ楽しさを実感させることができるつくり。

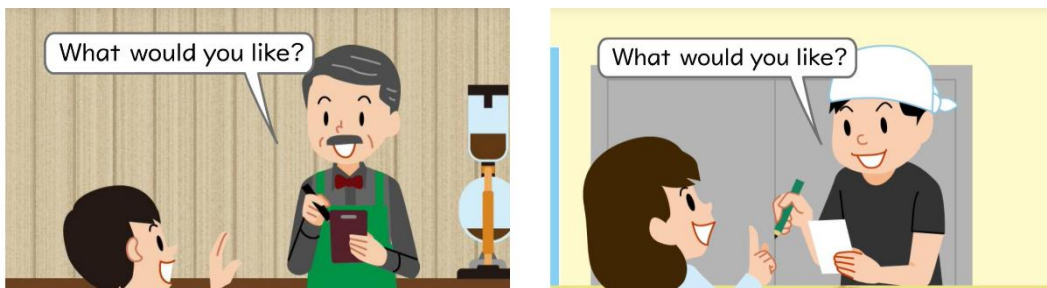
・語句コンテンツで表現を広げる工夫:「絵カードじてん」では、音、絵、文字で語句を確認できる。アルファベット順、カテゴリ別などから語句を選ぶことができ、児童自身にわからない単語を調べさせたり、一緒に確認したりするのも適している。教科書紙面と連携、フラッシュカード機能あり。

・My Word Bank ジャンプ機能:紙面の活動と巻末の My Word Bank が連携して活動で「知りたい」「使いたい」単語を児童が自分で確認・選択できる。活動の最中、家庭学習にも役立つ。



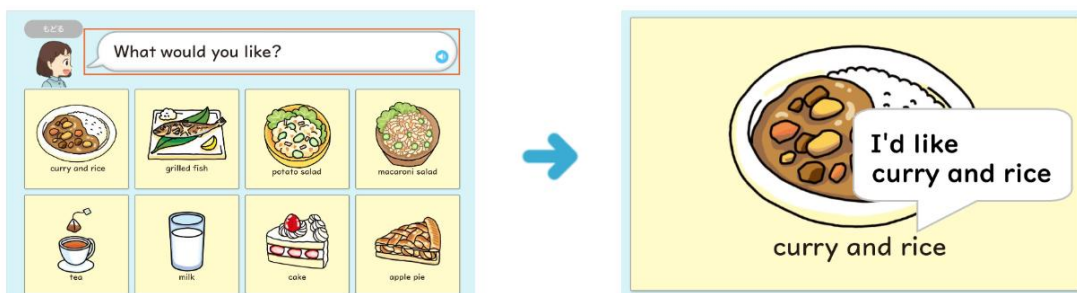
・場面に合わせてなりきり!「Action!」

相手の立場や状況を考えながら、自分なりに演じてみる体験ができるコンテンツがある。同じフレーズでも、目的、相手、状況により発話方法が変わるということを学べる。



・「フレーズ発話練習」

活動の問いかけフレーズと返答フレーズが聞けるので、一人でもフレーズの確認や対話の練習ができる。また、選択パネルを押すと画像が大きく表示され、文章での返答音声再生される。単語ではなく文章での返答を意識づけることができる。



### ⑨ 異文化理解の視点

・「World of smiles」「Let's Look at the World」(06 版から登場)

海外に暮らす同世代の子どもたちの学校生活等を紹介する教材が各ユニットに数多く追加されている。デジタル上にも反映されており、映像・音声を聞くことができる。



デジタル教科書・デジタル教材 収録機能・コンテンツ比較



	指導者用 デジタル教科書 (教材)	学習者用デジタル教科書	学習者用デジタル教科書 + デジタル教材
解答提示機能	○	—	—
問題音声	○	—	○
モデル音声	○	△ (まなびリンクに一部実装)	○
単語単語音声	○	○	○
チャンツ・歌	○	△ (まなびリンクに音声を実装)	○
活動モデル動画	○	△ (まなびリンクに一部実装)	○
フラッシュカード	○	—	○
録音・再生	○	○	○
まなびリンク	○	○	○
リフォー・音声読み上げ	—	○	○
総ルビ	○	○	○

- ◆ 各自の記録は残せるが、ポートフォリオとして学習者用デジタル教科書をどこまで使えるのかは、まだ未開発。
- ◆ ロイロノートなどの外部ツールを活用することで、評価やポートフォリオ活用ができるのか。
- ◆ 学びの接続のための5年生から6年生へのログの継続並びに中学校との接続はどうか。

2. 教科書紙面上の工夫

◇ 編集の趣旨と特色

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/r6shou/eigo/index.html>

◇ 内容解説資料

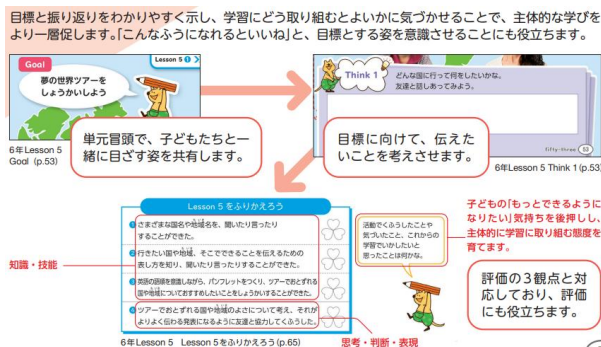
[https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/r6shou/eigo/files/DL01\\_eigo.pdf](https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/r6shou/eigo/files/DL01_eigo.pdf)

① 自身の学習を俯瞰的に捉え、成長を感じることが出来る。子どもの「もっとできるようになりたい」気持ちを後押しし、主体的に学習に取り組む態度を育てる工夫。

表紙をめくると、1年間の学びの歩みが見通せる「学びのロードマップ」があり、中学年の学びを活かし、やがて中学校へつながっていく。



② 各レッスンでは最初に学習目標と振り返りをしっかり共有し、目標と振り返りをわかりやすく示し、学習にどう取り組むとよいかに気づかせることで、主体的な学びを促す。「こんなふうになれるといいね」と、目標とする姿を意識させることにも役立つ。



③生きて働くことばとなるように、目的・場面・状況に応じた言い方やコミュニケーションの取り方に気づかせるコーナーを新設。また、読むこと、書くことへのハードルを下げ、少しずつ学べるコーナーも新設。着実に無理なく学べるようになった。



- ◆Can-Do リストはあるが、振り返りシートも含め、どのように構成され、児童が使用できるか。
- ◆単元内の各ページの活動は、Final Activity は、元末の Can-Do とどう結びつけるか。
- ◆Sounds & Letters の扱いは、各単元と接続するか、別途に扱うか。評価はどうするか。

### 3. 総評

- ・全体として、06 版は児童がより個別に学習（自学自習）がしやすいような支援がなされている。
- ・特に音声を何度もスピードを変えて聞いたり、文字を見たり消したりしながら習得できるような仕掛けがあったり、音声の録音や再生ができ、自分で確認できるようになっている。
- ・また、QR コードでまなびリンクに飛べたり、語彙の意味が分からない時に、すぐに Word Bank に飛べたり、音声を聞いたりできるようになっている。
- ・さらに、ゲーム感覚で楽しく学べるような仕掛けやコミュニケーション力を育成するための場面や状況が異なる画像を準備し、目的をもって何度も練習することができるようになっている。
- ・チャンツのイラストの動きも修正がなされていたり、評判が良かった名所・名物マップが 6 年生にも追加されていたりと、改善がなされている。
- ・紙面では、読むこと・書くことの段階的な指導や、単元を超えた学年のゴールを見据えた Can-Do、単元内で最終の姿をめざして思考・判断しながら言語活動を進めていけるようになっている。



# 令和6年度版 *Here We Go!*(光村図書)教科書分析

長沼君主 (東海大学)

幡井理恵 (昭和女子大学附属昭和小学校)

## 1. デジタル教科書の活用の工夫

### ◇ デジタル教材機能一覧

[https://dt.mitsumura-tosho.co.jp/products\\_s/eigo/](https://dt.mitsumura-tosho.co.jp/products_s/eigo/)

\*動画でわかる! 指導者用デジタル教科書(教材)体験版ポイント解説

\*動画でわかる! 学習者用デジタル教科書(教材)体験版ポイント解説

### ◇ デジタル教材体験版 (<https://manaviewer.jp/>)

学校 ID:70038

ユーザーID:06mitsumurademo

パスワード:manavidemo

### ① 教室での学びと家庭での学びの接続の工夫

「まなビューア」を継続して利用しており、大きなプラットフォームの変更はない。具体的な機能としては、朗読音声、録音、チャンツ(4種類)、アニメーション(英語字幕可能)、Picture Dictionary(My単語機能等)などを学習者用デジタル教科書とその付随教材上で利用することができる。

また、「自習コーナー」では、カルタゲーム、マッチングゲームなどのゲーム的要素の取り入れや、フラッシュカード(文字だけや絵だけを表示するなど個別最適学習支援機能の追加)によるICTを活用した学習の工夫がされている。QRコードでの動画・音声の共有も継続されており、「家庭での学習にも使える二次元コードコンテンツ」として教科書紙面でも紹介されている。

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-eigo/material5nen>

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-eigo/material6nen>

### ② アニメーションを活かしたストーリーベースの学びの強化

令和2年度版からある各課の本文のストーリーベースのアニメーション動画に加えて、教科書に登場するキャラクターが語りかける「ミニアニメ」が新設され、キャラクターからの問いに答えることで自然な流れで Small Talk につなげることができるようになった。音声の話速変換や字幕の表示・非表示の選択もでき、個別な最適な学びが行える工夫がされている。

また、ストーリー並び替えによる理解確認機能(「イラストならびかえ」)も設けられ、ストーリーを活かした指導を行いやすくなっている。

なお、次年度改訂される中学校教科書では、実写ドラマが QR コンテンツとして活用できるようになり、また、「Extra Story」として、教科書の本文のストーリーの後の話も収録されるようになった。

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/07c-kyokasho/eigo/story/>

### ③ 振り返りシートのデジタル化と評価支援機能の追加

学習者用デジタル教科書上で下記重点化領域の CAN-DO を4段階で自己評価し、振り返りを記入できる機能(「ふりかえろう」)に加えて、クラウド版の指導者用デジタル教科書を活用することで、

児童が振り返りを教師に送り、教師が一言コメントや Response スタンプを返すことが可能となった。クラス全体の集計結果も表示することができ、Let's Listen や Let's Read における児童の理解度や CAN-DO の自己評価による自信の度合いを一覧でその場で把握することができる。



- ◆ポートフォリオとして学習者用デジタル教科書を使えるのか？
- ◆ロイロノートなどの外部ツールを活用する必要があるか？
- ◆学びの接続のための5年生から6年生へのログの継続が課題

## 2. 教科書紙面上の工夫

◇編集の趣旨と特色

[https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/7616/8024/1377/06s\\_e\\_shushi.pdf](https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/7616/8024/1377/06s_e_shushi.pdf)

◇内容解説資料:「子どもたちの「できた」を増やす評価のために」

[https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/9716/8007/0597/06s\\_e\\_hyouka.pdf](https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/9716/8007/0597/06s_e_hyouka.pdf)

### ① 学ぶことにつながりが見える重点化領域の CAN-DO リストとまとめ活動の追加

各課に受容領域1つ、産出領域1つの CAN-DO が重点化領域として設定されており、バランスのよい学習と評価を行えるように設計されている。また、各学年、各学期、各課のそれぞれで大・中・小目標が階層的に立てられ、無理なく CAN-DO を達成できるように工夫されている。



各学期末(中目標)には、「You Can Do It!」のまとめ活動が新たに設けられ、令和2年度版よりある「世界の友達」と合わせて、受信と発信のパフォーマンス評価に活用が可能になった。

**身近な人のことを伝えよう** (テーマ)

Unit 4	He can run fast. She can do kendama.	1.50
Unit 5	My hero is my brother.	1.58
Unit 6	Where is the library?	1.68
まとめ	世界の友達 2 You can do it! 2	1.76 1.70

指導と評価の一体化につながる!

**重点化領域の設定**

テーマごとに、各領域について最低1回以上は評価の場面を設定し、5つの領域のバランスのとれた指導と評価ができるように設計しています。

**ふりがえろう**

紹介文から、人の職業や性格などを読み取ることができた。

人の職業や性格などについて書くことができた。

人の職業や性格などを言って、あこがれの人を紹介することができた。

くふうしたことや次に生かしたいこと

さらには、各課の単元末活動(Jump)や学期末のまとめ活動の Can-Do を束ねる、学習指導要領の目標と連動した到達目標の CAN-DO が各領域で設定され、CAN-DO リスト(「〇年生でできるようになること」として、巻頭に折込(しおりとして活用可)で示されており、単元をまたいだ学びの可視化をしている。

**5年生でできるようになること**

領域	到達目標(CAN-DO)	関連する主な教材	自己評価
聞く	簡単な会話や表現を理解することができる。	Unit 1-8 Let's listen. Unit 3, 4 Jump	○ ○ ○ ○ ○
読む	雑誌やわたしの本の興味ある情報を理解することができる。	Unit 6, 7 Jump	○ ○ ○ ○ ○
書く	短い話のおおまかな内容をたどることができる。	世界の友達 1, 2, 3	○ ○ ○ ○ ○
話す	大文字と小文字を識別したり、文字の名前を認識したりすることができる。	Alphabet Time 1, 2, 3	○ ○ ○ ○ ○
聞く	文字と音の関係を気づき、すいそくしながら単語を聞き取ることができる。	Alphabet Time 4-8	○ ○ ○ ○ ○
読む	簡単な語句を見つけたり、その意味をとらえたりすることができる。	Unit 5, 8 Jump 英語の時間	○ ○ ○ ○ ○

**到達目標 (CAN-DO)**

5つの領域の到達目標 (CAN-DO) は、学習指導要領に示された「目標」ア、イ、ウとわかりやすく対応しています。

**自己評価**

該当する教材ごとに4段階で自己評価を付けます。

5年生では、6年生の目標も明示。6年生では、中学校の目標を示しました。

**英語の学び方**

こんなことを心がけよう。

やってみよう

心を聞こう

まちがいを学ぼう

友達から学ぼう

ちがいを楽しもう

なお、令和7年度版の中学校教科書では、各課の単元内の活動や、さらには単元外の活動について、学習指導要領の目標と関連した5つの領域の到達目標との関連をより詳細にマッピングしており、目標到達までのプロセスを意識した系統的な学習を支援するリストの工夫がされている。

cf. CAN-DO リストで、「できるようになること」と学びの過程がわかる

[https://www.mitsumura-tosho.co.jp/07c-kyokasho/eigo/feature1/#feature01\\_01](https://www.mitsumura-tosho.co.jp/07c-kyokasho/eigo/feature1/#feature01_01)

The image shows a detailed 'CAN-DO List' for English. It is a grid with skills on the left and units/activities on the top. Skills include Listen (L-1 to L-3), Read (R-1 to R-3), Speak (SP-1 to SP-2), and Write (W-1 to W-2). The grid shows progress through units 1-8 and 'You Can Do It!' milestones. A purple box highlights the 'Listen' section, and a blue box highlights the 'Read' section. There are also icons for 'Goal' and 'Daily Life' activities.

This is a detailed view of the 'CAN-DO List' for 'Listen' and 'Read' skills. It shows the skill descriptions and the corresponding units and activities. Annotations 1 and 2 are present:

- 1**: Points to the 'Listen' section, specifically the 'Unit 1' and 'Unit 2' columns.
- 2**: Points to the 'Read' section, specifically the 'You Can Do It! 1' column.

Below the grid, there are two numbered boxes:

- 1 継続して活動を行い、長期的に力をつけていきたい領域
- 2 重点的に指導を行い、単元のまとまりで評価したい領域

## ② 既習表現を活用する「Plus One」等の活動の追加

単元末活動の Jump の事前活動として、各 Step の Let's try での言語表現の活用場面において、Plus One の活動が新たに設けられ、同じ話題を別の相手に伝えたり、詳しく尋ねたりする追加活動を行うことができるようになった。

また、モデルとなるセリフの文字の吹き出しでの表示や、デジタル教科書上でのピックアップディクショナリーへの直接のアクセスなどの足場も工夫されており、既習表現を加えながら、単元末活動に向けて思考力・判断力・表現力を育てていく途上の学びのプロセスが強化されている。

Jump においてはさらに、既習表現を思い出すための「Phrase Hunt」の共有活動も新設され、



QRコード上の例などをヒントとして、使える表現を協働的に探す活動が工夫されている。



- ◆Can-Do リストや振り返りシートはどのように構成（構造化）されているか？
- ◆単元内の各ページの Can-Do は単元末活動の Can-Do と結びついているか？
- ◆学期末のプロジェクト型活動やテーマはどのように発展し、各単元と接続しているか？

### 3. 総評

- ・令和2年度版から特徴であったストーリーベースの強みを生かした改訂が行われている。
- ・各単元での「Hop⇒Step⇒Jump」の学習の流れに加えて、学期末に「You Can Do It!」のまとめ活動が加えられ、スパイラルな CAN-DO の見取りが可能となった。5つの領域の到達目標を意識して、CAN-DO 間の接続を意識する必要がある。
- ・Plus One や Phrase Hunt など既習表現の活用を促す活動が追加され、Step から Jump にかけての中間指導における足場が充実した（その反面、紙面上の文字量は増えており、安易に文字に頼るのではなく、十分な音声のインプットに基づいた言葉の学びの点で注意が必要である）。
- ・CAN-DO リストに基づいた振り返りの自己評価におけるポートフォリオ機能が強化された。デジタル上の学びの足跡（記録）を振り返りと結びつけて、エビデンスに基づいた自己評価と成長の記録を行うために、外部ツールとの能動的な連携が必要となる。

# 令和6年度版 *Blue Sky elementary*(啓林館)教科書分析

加藤拓由 (岐阜聖徳学園大学)

奥平明香 (沖縄県豊見城市立ゆたか小学校)

## 1. デジタル教科書の活用の工夫

### ◇デジタル教材機能一覧

<https://digi-keirin.com/r6-dtext/eigo.html>

### ◇デジタル教材体験版

[https://p01.cloud.cho-textbook.jp/?organization\\_code=keirin-taiken](https://p01.cloud.cho-textbook.jp/?organization_code=keirin-taiken)

英語体験版アカウント ID : eigo2023 PW : trial-eigo

### ① 「超教科書クラウド」という独自のプラットフォームを利用している点は変更はなし

朗読音声、録音、チャンツ、アニメーション(字幕・速度調整)、ワードリスト(音声機能付き)等、学習者用デジタル教科書(基本機能のみ)と学習者用デジタル教材(フラッシュカードなど拡張機能付き)のものが2種類ある。\*国から配布されるものは「学習者用デジタル教科書」なので、機能は限定的

### ② 言い慣れのための「練習機能」が充実

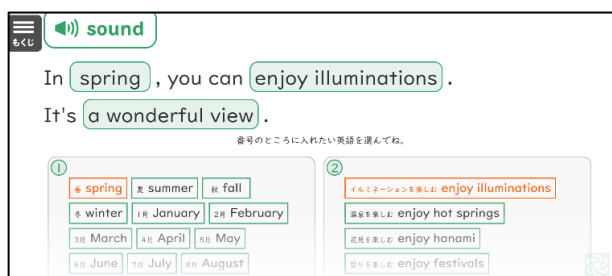
#### ア) Jingle と Chant

ジングルも、チャンツもシンプルではあるが、児童が「言い慣れ」のための練習にぴったりの機能で自己調整にも活用できる。



#### イ) Hints

緑色のハイライト部分に、自分が言いたい語彙をドラッグ&ドロップして、Sound を押すと、一文全体の音声で朗読されるので、表現に言い慣れるのに便利。



### ③ 読み書き指導のための支援

#### ア) 指さし読み

5年生の Unit 5 くらいから、徐々に読むことの活動を導入している。(5年生は、文字を見ながら、映像に合わせて言ってみよう)6年生の Unit 2 では、吹き出しのセリフを聞きながら、指で文字を追う活動を設定している。





#### イ) 書くこと

書くことについても、上のア)で何度も声に出して指さし読みした英語を参考に、こちらの4線上に書く(または、書き写す)活動が設定されている。

読むこと、書くことの活動に、あまり制限を設けず、少しずつ練れ親しませるよう工夫されている。



#### ④ 個別最適な学習のための支援機能

こちらは教科書の隅に設置された、各種の支援ツールバーである。拡大、マーク、付箋、リンクを貼る、お道具箱のカードなど、児童が自主学習を進める際に、書き込む、メモする、調べる、練習する機能などが充実している。

また、読み上げ機能、ルビ、暗転機能、文字の色調節など、学習特性に合わせた、様々な支援機能が充実しており、学びに課題のある児童にとって英語学習のアクセシビリティが保障されている。



#### ⑤ 個別最適な学びや、家庭学習などで、児童が主体的に学ぶための工夫



児童が各自の学びのスタイルや理解度に合わせて学習調整できるよう、どくばこの中に「単語クイズ」などの機能が搭載されている。また、家庭学習などで、表現に慣れ親しませるために、「暗記マーカー」の機能がある。マスキングしたいところを隠したり、うすく半透明にしたり、調整も可能。

#### ⑥ 協働的な学びを支える「超しおり」

「超しおり」は、児童が学習中に、疑問に思ったことや、気付いたことなどをメモできる付せん機能。

教師が、児童一人一人の疑問を把握したり、児童同士が他の友達の考えを共同参照したりしながら、協働的な学びを実現する。

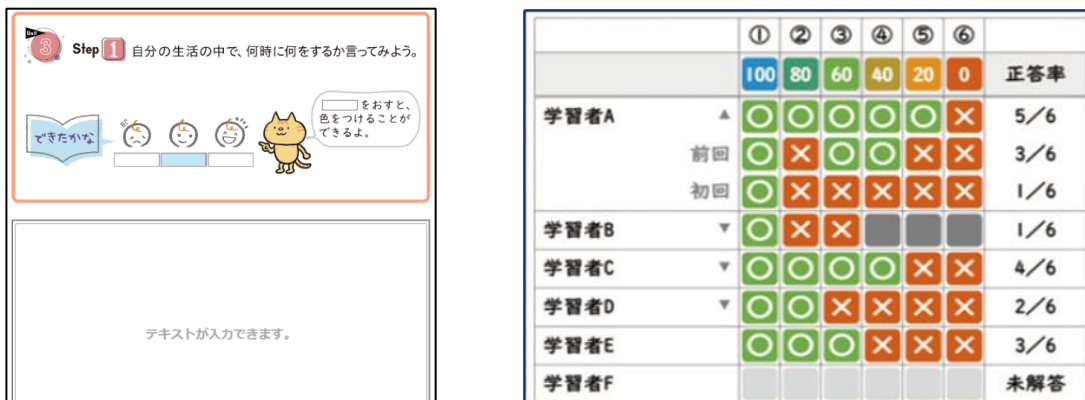


⑦ 学習者用デジタル教材には、音韻認識機能のためのチャレンジ教材が豊富



教科書プラス教材には、「読み・書き」の基礎となる音韻認識機能を高めるために、チャレンジ教材が豊富に搭載されている。ゲーム的活動を通して、はじめの音や終わりの音に注目させる。

⑧ 児童の学習履歴を記録し、教師と共有する



学習者用デジタル教科書には、Can Do 形式で学習の様子を記録できる機能がある。図のように、できるところに色を付けたり、文章でふり返しを入力する。指導者用デジタル教材では、児童の学習状況を一瞥で把握することができる。また、右の図のように、それぞれの児童のチャレンジ問題などの成績も e ポートフォリオとして学習履歴を一瞥で見ることが可能。

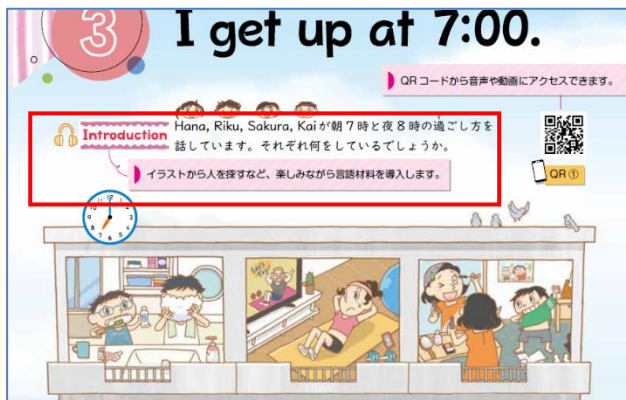
- ◆ 知識・技能の定着をはかるための教材が教科書に豊富に準備されている。  
ここから、思考力・判断力・表現力を伸ばすために、教師がどのような授業展開ができるか？
- ◆ 読み・書きの活動が豊富に用意されているが、具体的な指導の手立は示されているか？  
(ひたすら書いて練習するような、機械的な指導にしないための工夫はあるか)

2. 教科書紙面上の工夫

◇2024 年度小学校外国語科英語教科書のご案内

[https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/sho\\_r6/eigo/file/eigo\\_pamphlet\\_all.pdf](https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/sho_r6/eigo/file/eigo_pamphlet_all.pdf)

① 見開きページで、単元のトピックに興味・関心を抱かせるしかけが豊富にある



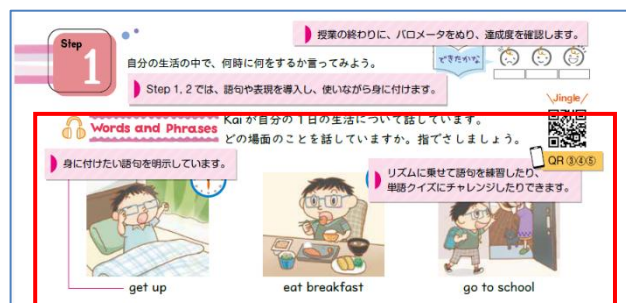
見開きのページには、登場人物がどこかに隠れている、面白いイラストがある。例えば、eye spy ゲームのように、教師が英語で登場人物の様子を話し、児童がそれを聞きながら探すような活動が可能である。

② Watch the Scene で実際に言語が使用される場面や Goal 活動イメージを提示



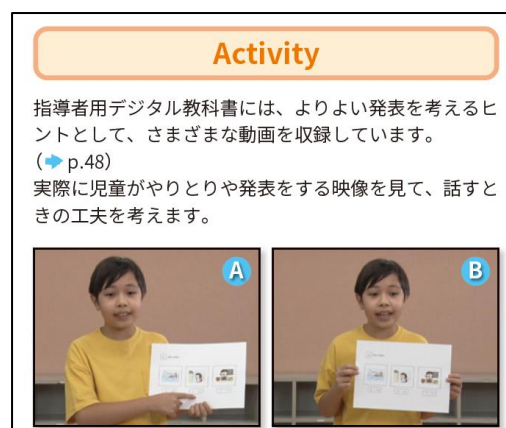
単元の Goal 活動で、児童がどのような言語活動をするのかイメージできるよう、アニメーションの動画を視聴できる。

③ 知識・技能を十分に定着させる練習場면을豊かに設定し、「活用」につなげる



ジングルやチャンツが充実しており、リズムに乗って、言い慣れるように練習できる。また、単語クイズなどのオプションもあり、児童が自分にあった方法を選び練習できる。

④ 教師用デジタルには、評価の際のベンチマークが動画で提示されている



Aのように資料を指さしながら話している映像と、Bのようにただ、言葉で伝えているだけの映像を見せながら、評価の際の基準を児童に気付かせる。

児童と話し合いながら、一緒にルーブリックを共創する際などにも応用でき、主体的に学ぶ態度の育成にもつながる。



⑤ 単元末での Look Back で、Can Do を意識したふり返し場面が設定されている

**Look Back** 児童が学習をふりかえり、できるようになることを目指して、ふりかえりを行っています。

1 できるようになったことにチェックマークを書きましょう。

- 何時に何をすることを言うことができる。
- 家での仕事をどのくらいしているかを言うことができる。
- 自分の1日の過ごし方を伝えることができる。

2 Unit 3 で学習した英語を、実際のどんな場面でも使えるように練習します。

**下位項目の Can Do**

**Goal の Can Do**

各 Unit の具体的な活動における Can Do (下位項目) と、単元全体を通して目指す Goal の Can Do が示されている。

⑥ 「書くこと」を教科書紙面で段階的に積み上げている

**Step 1** (6年 p.29): In \_\_\_\_\_ you can see \_\_\_\_\_.

**Step 2** (6年 p.31): Choose a good place. You can see \_\_\_\_\_.

**Step 3** (6年 p.33): Write a paragraph about your favorite place.

書くことの活動を、誌面上で繰り返し、段階的に扱うことで、児童は無理なく、少しずつ書けるようになっていく達成感を感じられる、Small Step が設けられている。

⑦ 複数単元をまたいだ活動で、思考力・判断力・表現力や主体を見取る活動設計

**REVIEW ③** 複数の Unit で学習したことをまとめた活動です。学期末に行えるように各学年3か所に設けています。

**Try** Try は学期末のパフォーマンステストに使うことも目指しています。

お別れ遠足の行き先として、次の3つが候補になっています。それぞれのしぜつについての説明を聞いて、先生から出された条件内で、自分が行きたい場所を選びましょう。そして、自分が選んだ場所を理由とともにグループ内で発表しましょう。

目的・場面・状況を設定し、思考力・判断力・表現力がはかれる問題になっています。

- ① Blue Sky Park
- ② Aoi Aquarium
- ③ Sky Museum

メモ

学期末には、いくつかの単元をまたいで、総合的に言語活動を行えるような REVIEW のコーナーが設置されている。

既習事項を活用し、学びをつなげることで、児童の思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学習に取り組む態度の評価にも活用できる。

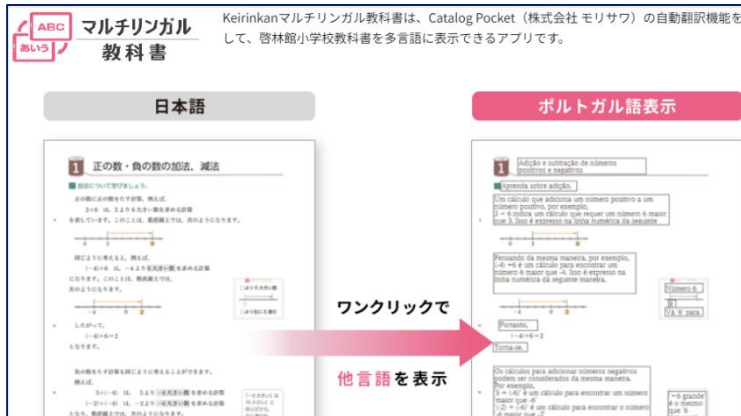
⑧ 実用的な場面を想定した、思考を働かせながら「読む」の活動も設定されている

図のようにグラフや広告などの英語から「必要な情報を読み取って」それらをもとに、英語を聞いたり、英語で伝え合ったりする統合的な活動が設定されている。

実際に英語が使われる場面での、オーセンティックな言語活動が展開できる。



### ⑨ その他(マルチリンガル対応教科書)



外国語の学習に直接関係がある機能ではないが、教室内にいる様々なバックグラウンドの児童の学びに対応するために、マルチリンガル教科書の機能がある。

英語だけでなく、様々な外国語への気付きを生むための教材として使用が期待できる。

### 3. 総評

- ・練習活動 → 言語活動 → 単元をまたいだ言語活動と段階を意識した活動設計がある
- ・知識・技能を活用しながら、思考・判断・表現につなげる活動が設定されている
- ・ボトムアップとトップダウンを意識した「読むこと」「書くこと」の指導が用意
- ・学習者用デジタル教科書に音声機能を搭載し、児童の主体的な学びを促す
- ・児童も教師も、ゴール活動がイメージしやすいよう映像などでサポートされている
- ・単元内、単元末と Can Do を意識したふり返り場面が多く設定がされている
- ・学習者用デジタル教材に、音声や動画など、児童が主体的に学べるしかけがある
- ・他教科、SDGs、多言語など、発展的な活動への広がり意識している
- ・フォント、4 線、リフローなど、ユニバーサル・デザインに配慮している

# 令和 6 年度版 *Junior Sunshine* (開隆堂) 教科書分析

黒川愛子 (帝塚山大学) ・ 森本敦子 (高野山大学)

## 1. デジタル教科書の活用の工夫

### ◇ デジタル教材機能一覧

<https://www.kairyudo.co.jp/2024/digital.html>

### ◇ デジタル教材体験版 (指導者用)

[https://www.kairyudo.co.jp/contents/01\\_sho/2024/eigo/digital-textbook\\_sample/en\\_trial/](https://www.kairyudo.co.jp/contents/01_sho/2024/eigo/digital-textbook_sample/en_trial/)

### ◇ デジタル教材体験版 (学習者用)

[https://www.kairyudo.co.jp/contents/01\\_sho/2024/eigo/digital-textbook\\_sample/en\\_s\\_trial/](https://www.kairyudo.co.jp/contents/01_sho/2024/eigo/digital-textbook_sample/en_s_trial/)

### ① 個別最適な学びへの支援の充実

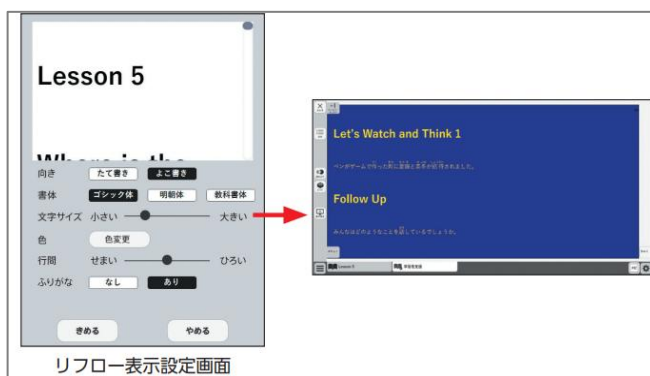
デジタル教科書のプラットフォームには「みらいスクール」が採用され、ペン、マーカー、スタンプ、ふせん、ポインターなどの従来の基本機能に加え、「総ルビ表示、音声読み上げ、白黒反転、リフロー表示、テンキーで入力ページに直接ジャンプできる等の機能を搭載している。児童ひとりひとりが自分の使いやすいようにカスタマイズすることが可能であり、ネイティブ・スピーカーの音声で英語の自然な発音を確認できる。特別支援を意識し、児童が自身の学びを選択する学習者中心の学びを支援しようとする工夫が観察される。



### ② 児童にとっての使いやすさと学習者支援

学習者支援として、文字表示が白黒で反転したり、総ルビを打つふりがな表示、文字の大きさ、行間、表示の向き、書体、文字の色を変えて表示するリフロー機能がある。また、音声を用いての活動において、1文のみ、どこの英文から、どのような速度で聞き練習するかを選択が、選択箇所にある多様な機能を選択して、学習者自身が選択して練習を行う利点がより高まっている。

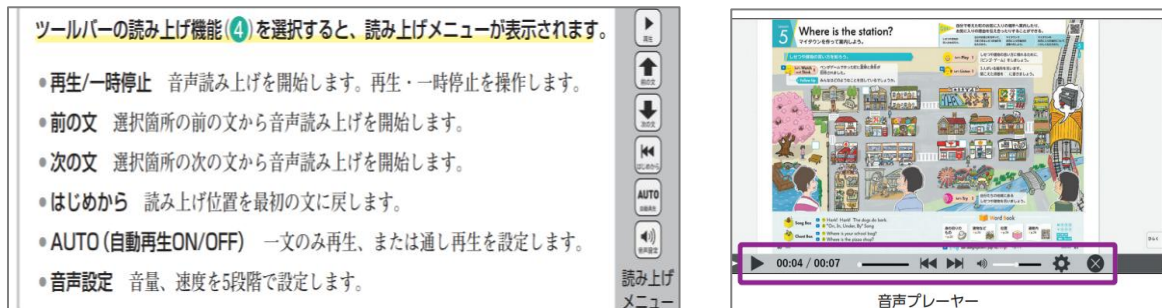
使いやすさとして、ログイン後に表示された本棚画面で選択したデジタル教科書がブラウザの別タブで開き、本棚画面のタブは消えずに残っている。(令和 2 年度版では残らなかった。) また、ログアウト時には書き込みしていた内容や開いていたページ情報が保存される。(令和 2 年度版教科書では保存されないデジタル教科書もあった。)





### ③ 音声を用いての活動への支援

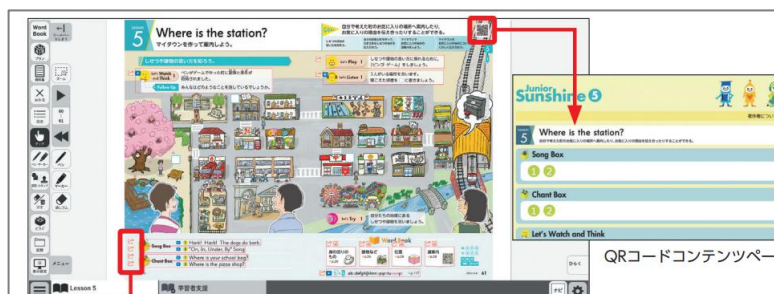
音声を用いての活動において、朗読ボタンを押すと朗読モードに切り替わり、画面下部に出る音声プレイヤーが用意され、音声プレイヤーのスライダーを調整すると好きな場所から再生ができ音量や再生速度も変更でき、「どこの英文から、どのような速度で聞き練習するか」という選択が選択箇所にある多様な機能を選択して、学習者自身が選択して練習を行うことができる。



Let's Watch and Think における教科書の登場人物のアニメーションでは内容理解を促す工夫が行われている。読むことへの支援として、「一文ずつ読むコーナー」があり、Let's Listen and Read では児童は自身の端末で音声を聞きつつ文字を追う活動を行うことができる。

### ④ 主体的な学びを支援するコンテンツ

「1人1台端末環境に対応して『個別最適な学び』と『協働的な学び』を充実させるための豊富なデジタルコンテンツ」「学ぶ目的にあわせてアニメーションや実写映像などを使いながら、自分のペースで学習を進めることができる」とし、「学習の理解を深めるための豊富な QR コンテンツを簡単に参照可能であること」や「子どもたちの発達段階や習熟度によって、適切に学習に取り組める工夫」がある。具体的には紙面上の QR コードコンテンツからも Web コンテンツにアクセスでき、コンテンツへの個別リンクも用意され、リンクをクリックすると直接該当のコンテンツを開くことができ、児童が自身の端末から音声を聞くことができるという紙面教科書との連動がある。



### ⑤ 指導者用デジタル教科書を並行して用いる利点

指導者用デジタル教科書(以下、指導者 DT)と学習者用デジタル教科書(以下、学習者 DT)が全く同じ作りではない点が特徴である。以下が、両者の相違である。

- 1) 指導者 DT にはカラオケ動画も入っており、Chant Box をカラオケ動画を用いて練習できるが、学習者用デジタル教科書にはその機能はない。
- 2) 指導者 DT には Let's Listen の動画があり、動画は音声に合わせて文字が変わるため、文を指で追う活動に入る前に、動画で文字と音のつながりを確認することができるようになっているが、学習者用デジタル教科書にはその機能はない。
- 3) 指導者 DT では一文ごとの音声をきくことができる音声ボタンがあり、一文ずつ文字を指で追う活動を積み重ねながら徐々にまとまりのある英文を読む活動へつなげることができるが、学習者用デジタル教科書にはその機能はない。

上記の相違は本教科書を用いる上での利点であると捉え、両者を並行して用いることで一斉授業と個別学習の方法を工夫できると考えられる。指導者 DT だけにある機能を活かしての指導としては、以下が考えられる。

- 1) フラッシュカード機能を用いての音と文字の一致を行いつつの語彙指導、再生する語句、順番、数をカスタマイズした指導
- 2) Chant Box のカラオケ動画を用いての練習
- 3) Let's Listen and Read での音声に合わせて文字の色が変わる動画視聴による、文字を指で追う活動に入る前の、文字と音のつながりを確認、
- 4) 一文ごとの音声を聞くことができる音声ボタンを用いての、一文ずつ文字を指で追う活動を積み重ね、徐々にまとまりのある英文を読む活動が可能となる。



教員は、指導者 DT と学習者 DT の機能の相違を把握し、授業内では指導者 DT にしかない機能をフル活用し、学習者 DT 内にある内容を個別学習や家庭学習において復習として効果的に活用できるための工夫を行うことができると考えられる。その併用を児童の実態に合わせて教員が創意工夫することで、4 技能 5 領域の向上に貢献すると考えられる。

- ◆本教科書のデジタル教科書については、上記で紹介した指導者 DT と学習者 DT の相違を教員が長所と捉えて、活用することが重要であると考えられる。
- ◆一斉授業でこそ行える学びを指導者 DT を用いて行い、個別最適な学びを学習者 DT の機能を活かす方向で活用することは、児童が個別学習において何を行っていくのかの学びの明確さにもつながると考えられる。

## 2. 教科書紙面上の工夫

### ◇内容解説資料

[https://www.kairyudo.co.jp/2024/kwp\\_2024/wpcontent/uploads/2023/04/JS\\_naiyokaisetsu.pdf](https://www.kairyudo.co.jp/2024/kwp_2024/wpcontent/uploads/2023/04/JS_naiyokaisetsu.pdf)

#### ① 児童にとっての魅力的な学びが見える構成・題材・設定

「学習に見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりすることを少ない負担で計画的に行える構成」であり、新3観点での評価に対応し、児童の頑張りが見えるようにすることで、学習への主体性を育むことが重要視されている。また、「話したくなる題材・設定」「子どもたちが学習することに興味・関心をもてるような題材の工夫」「2年間を通した教科書ストーリーで、個性豊かな同世代の子どもたちを主人公にして共感を呼ぶ場面展開」「他教科等との関連を踏まえて外国の文化や生活などの紹介」を強調している。

#### ② 音声から文字への学びのつながりの重視

音声から文字への学習が円滑につながるように、Let's Watch and Think, Let's Play, Let's Listen, Let's Try, と英語をたっぷりと聞き、使ってみることを繰り返し、音声で慣れ親しんだ英語を

文字と結びつける Let's Listen and Read で英語を文字と結び付ける活動を行い、Let's Write でて手本や例文を見ながら書く活動へと進む構成となっており、「読むこと」「書くこと」への支援が工夫されている。

### ③ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けての工夫

巻末にはポートフォリオ形式の Can-Do チェックシートが配置され、児童が自己調整をしながら学習を進めたり、自ら学習に見通しを立てて取り組めたり、適宜振り返ったりすることが可能である。各単元の領域別の学習到達目標を、主体的に学習する態度の育成やその看取りに活用できるまた「わかる」と「使える」に分けて書くコーナーがあり、メタ認知を育てるための道筋を児童にわかりやすい平易な言葉で構成するなどの工夫がみられる。



### ④ 音声指導(リズム・イントネーション)の指導への支援

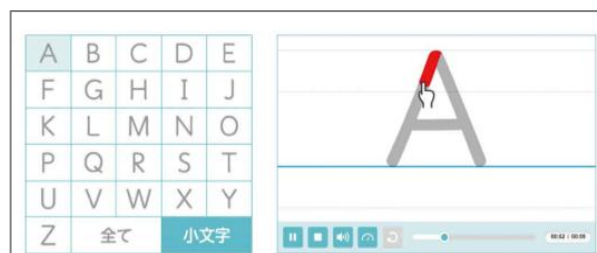
Song Box は英語圏で古くから伝わる童謡が中心にあり、児童の興味関心を惹きつけるアニメーションで楽しみつつ英語の音声やリズムに触れることができる。児童は自身の端末でも再度聞いたり、Chant Box を用いてチャンツを繰り返し聞き、表現を練習することができる。Let's Watch and Think における教科書の登場人物のアニメーションでは内容理解を促す工夫が行われている。

### ⑤ 異文化理解への支援

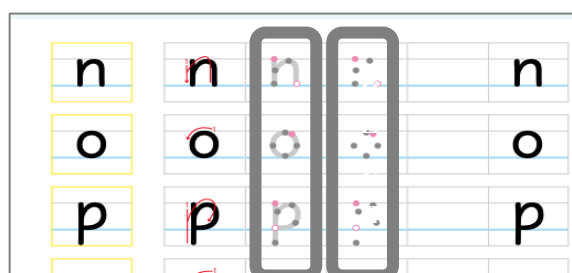
Around the World 内の動画視聴による学習テーマにちなんだ異文化理解への支援として、視聴の前後にその国の場所を地図で確認することも可能である。

### ⑥ 「書くこと」への支援

アルファベットの書き順を示す動画があり、授業中に動画を視聴した後にクラス全員で一文字ずつ、そら書きしたり、26 文字までまとめて確認したりする活動が行える工夫がある。動画ではどの文字を書いているのかがわかるようになっている。



Sound Box 及び Letter Box には、大文字・小文字の共通点・相違点、英語の音の特徴が学習できるようになっており、次の動画を見たいくなるような仕掛けが行われている。書く学習、文字の学習を教科書に書き込んで行えるようにしてあり、教科書を開けば、各児童が自身の学習のあゆみを確かめられることができ、教科書を児童の頑張りを





記録するポートフォリオとして活用できる。

また、アルファベットの書取りにおいて、文字の特徴を捉えやすくするため起点のみ記されたドットに加え、途中のカーブの部分や終わり部分にもドットを配置するなど、児童が少しずつアルファベットの形に慣れ、書けるような工夫が施され、日本語が苦手な学習者への対応も実施している。

### ⑦ 教科書内に含まれるペーパーテストとパフォーマンステスト

紙面の教科書内に年間 3 回分のペーパーテスト(Let's Check)とパフォーマンステスト(Interview)を含み、学期末に実施できるように配置されている。これらのテストを利用することにより、4 技能の習熟度を測ることが可能となる。教科書内に含むことから、児童は自身の学習状況を把握することが可能であり、これらの総括的 4 評価の実施により、試験の観点からの小中連携としてのつながりにも期待することもできる。

### ⑧ 児童が学びに集中できる工夫

複数回登場するコーナーである Let's Check や Around the World のページをすぐに開いて授業に集中できるよう、紙面上に工夫が施されている。それは Let's Check のページがすぐに開きやすいよう、また同じコーナーでのまとまりを出すように、Let's Check はチェック柄、Around the World はストライプ柄等、教科書の周辺の余白部分も児童に優しい配慮が見られる。



- ◆紙面教科書の構成は、第二言語習得を意識し、児童の興味関心を高めつつ英語学習に取り組める工夫が網羅されていると考えられる。
- ◆また、紙面教科書内だけで、すべての領域と観点の評価をバランスよく少ない負担で行うことができるようにという教員への支援も行われていると考えられる。
- ◆多様なデジタルコンテンツを効果的に用いることができる工夫も紙面教科書内から観察される。

## 3. 総評

・本教科書は、個別最適な学びを児童が選択して学んでいく学習者中心の学びを支援しようとする工夫や、授業づくりに関連する教員への支援も手厚いと考えられる。

・多様な児童の状況や発達段階を考慮して、どの児童も学びやすいデジタル教科書、紙面教科書となるようにという配慮も観察される。

・本教科書は、先述したように、指導者 DT と学習者 DT が全く同じつくりではないという点が特徴であり、上記で述べたような工夫を教員が行うことできる点が利点であると考えられる。その工夫は、児童が授業に集中して取り組んだ後に、個別最適な学習を見出していく支援にもなると考えられる。その工夫は、4 技能 5 領域の向上に大きく貢献すると推察される。

・学習 DT 内で、児童が自己変容、自己成長の過程がポートフォリオとして、可視化されていき、それらの軌跡を中学校まで引き継ぐことができれば、小中接続にも大きく貢献できると考えられる

# 令和 6 年度版 CROWN Jr.(三省堂)教科書分析

田縁眞弓（京都光華女子大学）・大田亜紀（別府大学短期大学部）

## 1. デジタル教科書の活用の工夫

◇令和 6 年度版 Crown Jr. 内容解説資料

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/>

◇デジタル教材機能一覧

[https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/images/top/06CJ\\_dtdigest.pdf](https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/images/top/06CJ_dtdigest.pdf)

① QR コードコンテンツと連携し、教科書の学びをさらに充実

・ビューワは Lentrance® Reader を利用

・教科書紙面の 176 か所に配置した二次元コードにより、955 種類のモデル動画や音声などのデジタルコンテンツに触れることができる。

（モデル動画 38 点、アニメーション 100 点、音声 522 点、画像やPDF等 206 点）

・紙面に掲載された QR コードコンテンツにデジタル教科書からアクセスし使用できる。

・音声や動画はボタン一つで簡単に再生できる。

・Panorama や My Dictionary ではイラストをタッチすると単語の音が聞ける。

・音声の再生は音声に合わせて英文がハイライトされる。ルビや背景・文字色など児童の特性に合わせて変更が可能

・紙面の拡大・朗読音声の再生機能なども容易

・音声に合わせてイラストを強調する「効果」機能で理解を助けることができる。

・用意された動画や音声などのコンテンツを視聴したり、「活動のしかた」などを簡単に参照したりすることができる。







・学習した語句や表現を使いながら発表活動をする際のゴールとなるモデル動画を視聴し、自己表現の参考にしたり、表現の確かめや練習をしたりすることができる。



友だちや先生に自己紹介をして、自分のことをもっと知ってもらおう。

Hello.  
My name is Waka.  
My birthday is February 20th.  
I like karate.  
I practice karate on Saturdays.  
Thank you.

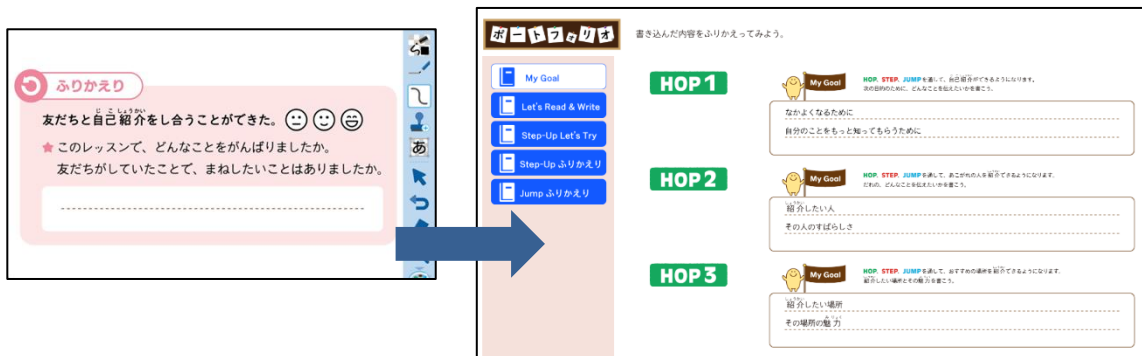
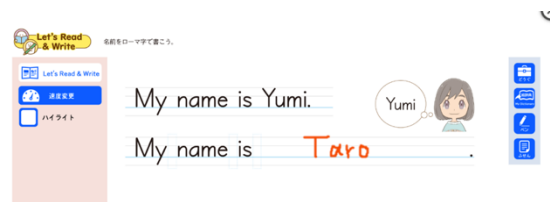
#### ④ ポートフォリオ機能搭載

・各 Part の Let's Read & Write やふりかえりで書き溜めたことを一覧できるポートフォリオ機能が搭載

・紙面上の 4 線シートに直接書き込める。

・ゴールの達成度、工夫したことなどを記録することができる。

・学習者用デジタル教科書内にポートフォリオ機能があることで、2 年間の学びが蓄積され、自己変容、自己成長の過程が可視化される。



- ◆ポートフォリオに書き溜めたことの一覧表示
- ◆児童の自己調整や指導者の指導改善におけるポートフォリオ機能の活用
- ◆学習者用デジタル教科書内に、「英語でこんなことができた!」(CanDo)の機能掲載

## 2. 教科書紙面上の工夫

◇令和 6 年度版 *Crown Jr. 5* 編修趣意書

[https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/images/top/06crown\\_jr5\\_aim.pdf](https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/images/top/06crown_jr5_aim.pdf)

◇令和 6 年度版 *Crown Jr. 6* 編修趣意書

[https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/images/top/06crown\\_jr6\\_aim.pdf](https://tb.sanseido-publ.co.jp/06cjpr/images/top/06crown_jr6_aim.pdf)



### ③ 読むこと・書くことの指導の充実

・楽しみながら文字や音を学ぶ ABC Fun Box や Story Time 新設

・絵を参考に内容を類推したり、児童が知っている昔話をもとに先行知識を使って音・文字・意味を結びつけるイメージトリタラシー（リタラシー発言）を活性化と意図している。

・2年版では、ワードチャンツの単語を入れた毎回異なるショートストーリーであったが、6年版においては「ケンの冒険」(新設)という5つのエピソードが2冊に登場。ワクワクするお話で物語に発展性を持たせて、児童が読みたくなる仕掛けとしている。

また、各エピソードは、会話文、ラインのメッセージ文、手紙文など異なる読みの形も取り入れている。毎回ストーリーの後には、知識技能を問う問題、絵と文字を結びつける問題以外に思考判断表現を問う問題が必ずQAとして入れられており、言語活動としての読みの活動を意図したもものになっている点は、Crown Jr.独自の紙面の工夫である。



◆教科書巻末「英語でこんなことができた!」、別冊絵辞典 My Dictionary「英語でできること【CANDO】」の効果的活用(指導者、児童)」

### 3. 総評

・各レッスンの内容に合わせて紙面上に二次元コード(音声や動画、ゲーム、発話例、ワークシート、ふりかえりシート等)が示されており、デジタルコンテンツが非常に豊富である。指導者は、どのコンテンツをどの場でどう活用するとよいか、デジタル教科書の構成をまずはしっかり把握しておく必要はあるだろう。また、児童が必要に応じて動画や音声を確認したり、繰り返し練習したりできる。操作が平易なので、児童が取り扱いやすい仕様になっており、個の学びのための支援が充実している。

・紙面では、02版と同様に、1年間で3つの大きな言語活動、HOP—STEP—JUMPで一つのUnitとして構成されており、子どもたちが見通しをもって主体的に学ぶことができるようになっている。その学びの流れがわかりやすく「見える化」されており、自分の目標を立て、その達成に向けた学びを繰り返しながら、自律して学ぶ力をつけることができる。

・評価においては、一つのLesson内での評価ではなく、長いスパンで指導を行った後(Unit全体で育て、最後のJUMPで)評価をするため、評価場面が厳選されており、いつ、どの場面で評価を行うのか指導者にとってわかりやすい。

# 令和6年度版 *NEW HORIZON Elementary*(東京書籍)教科書分析

アレン玉井光江 (青山学院大学)  
俣野知里 (京都市立二条城北小学校)  
山川拓 (京都市立九条塔南小学校)

## 1. デジタル教科書の活用の工夫

### ◇デジタル教材機能一覧

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/textbook/e/13/567/>

### ◇デジタル教材体験版

(<https://ten.tokyoshoseki.co.jp/text/shou/digitallearning/use/>)

ユーザーID:R6toshō

パスワード:sample

① Lentrance を継続して利用しており、大きなプラットフォームの変更はない。

### ア) 教科書本体と Picture Dictionary

東京書籍のデジタル教科書は、教科書本体と Picture Dictionary の2編がセットになっており、必要に応じて選択して使用するだけでなく、教科書本編の内容から Picture Dictionary を参照したり、2編を左右並列で同時開きにして両方活用したりすることもできる。

### イ) QRコードによる外部コンテンツとのリンク

内容は紙の教科書と同一ではあるが、QRコードの部分については、クリックすればすぐに教科書会社HP内のリンクに飛ぶことができるようになっており、利便性が高まっている。また、各ページの内容について外部コンテンツとリンクすることで、発表のモデルややや長めの動画など、教科書内に収まりきらない内容を参照することができるようになっている。



### ウ) 外部コンテンツの充実

外部コンテンツへに収められているデータ豊富である。外部コンテンツにおいては、全ての単位について、活動ごと音声データやモデル動画、参考動画などが作られている。参照できるコンテンツの一例として、“Digital Map”では、日本だけではなく、世界各国の英語での言い方や名所などがま



とめられたコンテンツがあり、発表に向けて自分たちで学びを深めることができる。



## エ) 読むことや書くことへの指導につながる支援

発表に向けてお手本となる文章が書かれている部分について、文章と音声を一致させるため、英語の文を読み上げる部分は、背景が変わり、今どこを読んでいるのかが分かりやすくなっている。また、書くことについても、ペン機能で書き込んだものをスクリーンショットで切り抜くことができるため、teams やロイロノートなど、児童と教員間でデータをやり取りできるアプリと連携すれば、書いた文や単語、作った作品などを提出したり、交流したりすることも可能である。

## ② 個別最適を目指して

### ア) 各種支援機能の充実

各ページのコンテンツでは、読み上げ速度やルビに加え、日本語のフォントの変更や行間の変更、背景色の変更も可能となっており、児童にとって最適な環境を自分で設定できるようになっている。

## イ) Chant, Song

Chant や Song は、QR コードを使って外部コンテンツに音声が入っており、8段階でスピードを切りかえることができる。また、繰り返し再生や字幕のあり/なしも選択でき、個別最適化の学習に適している。しかし、スピードに関していうと、特に標準速度より遅くしていくと、音声にゆがみが生じることがおおく、音声をしっかり聞くのに適しているとはいいがたいものもある。



## ③ 書き込んだ内容を保存

各種コンテンツの写真及びその書き込みについて、スクリーンショット機能がついており、クリップボードにコピーしたうえで、Word など各種文書ソフトやプレゼンテーションソフトに貼り付けられるようになっている。このことから、自分で編集したり、まとめたりすることが容易になっている。本編巻末には各単元で活用できる「コミュニケーションカード」がつけられているが、デジタル教科書では、それらをスクリーンショット機能で複製、編集しやすくなっており、児童用 PC を活用した言語活動に活用しやすくなっている。





- ◆ 読み上げるデータは、基本的には教科書に書かれている文章をそのまま読み上げており、活動の説明として不十分な点が見られる。
- ◆ デジタル教科書内の設問に付けられている音声については、一つずつの読み上げはできるが、一括で流すことができない。そのため、例えば①～④など一括で流すためには、外部リンクを参照する必要がある。
- ◆ 書き込みについて、音声を聞いて自分で書くようにすることはできるが、正答が見られないものがあり、自己採点を行うことができないものがある。
- ◆ 設問と解答欄が一つのページに入っていないものがある。解答のスペースを広くとっているという利点があるが、質問内容を確認するためには解答欄上部の矢印(<、>)を操作する必要がある。
- ◆ Let's listen などは、QR コードによる外部コンテンツに音声が入っているため、デジタル教科書内で回答をするためには、Lentrance Reader のタブに加え、外部リンクのタブを行き来しながら操作を行う必要がある。
- ◆ 録音や録画機能は付与されていないため、自分の発音や発表の様子などを記録するためには、別のソフトやアプリが必要となる。

## 2. 教科書紙面上の工夫

### ◇編集の趣旨と特色

[https://tokyo-shoseki.meclib.jp/R6eigo/book/#target/page\\_no=13](https://tokyo-shoseki.meclib.jp/R6eigo/book/#target/page_no=13)

#### ① より充実した場面・状況の設定

・登場人物の 1 人が簡単に場面・状況の説明をするコマを新設し、活動によりエンゲージするようにしている。

・Watch and Think を新設し、目標の言語活動におけて、学習者に質問をする形態で、Enjoy Communication への橋渡しの役割となる。



② 活動の振り返りを充実させ、自律した学習者へと

- ・言語活動をする前に、児童は自分が気を付けたいことを書き込み、活動後は振り返りを書き込むコーナーが新設され、意識を持って言語活動に取り組むように促している。
- ・Can-Do 評価により自分の学習またその成果を4段階で自己評価できるコーナーを新設している。これは、知識・技能を高め Your Turn、また学びを深める Over the Horizon においても同様に、Can-Do 評価が設置されている。



③ 読み書き指導の変化

- ・Sounds and Letters は、教科書の巻末ではなく各レッスンの後に置かれた。これにより R2 年本では、飛ばされていた可能性がある読み書き指導が徹底される。
- ・R2 年本で導入していた音つなぎ活動による単語のデコーディング力を高めるものがなくなった。一方学習した知識を使って単語を類推して音読みをする活動を新設。



- ◆言語活動のさらなる充実や読み書きに関わる学びの充実に向けた教科書紙面の設計になっているが、指導者がその意図を十分に理解した上で指導しなければ十分な効果が期待できない可能性がある。
- ◆教科書紙面上に児童が書いた文字や文を点検する際、全員の教科書の回収・持ち運びは難しい場合もある(特に自教室をもたない専科教員等)ため、学習支援ソフトと連携する等して提出方法を工夫するのも一案である。
- ◆Can-Do リストや振り返り等を書き込むコーナーは準備されているが、振り返りの視点については、指導者が児童の実態や単元目標等を踏まえて具体的に示す必要がある。

### 3. 総評

- ・全体として、言語活動のさらなる充実を図るため、スモールステップで単元が構成され、単元の初めには登場人物による場面・状況の説明を設ける等して、学習内容をより自分事として捉え、活動によりエンゲージしやすいつくりになっている。
- ・読み書きに関わる点では、これまで教科書巻末に配置されていた Sounds and Letters が Unit 末に配置され、ボトムアップスキルの確実な育成が目指されている。さらに、「物語探検」の新設によるトップダウン的な試みも増加している。
- ・また、児童が単元の見通しをもつことができる Your Plan、言語活動の前後で児童がめあてや振り返りを書き込むコーナーや Can-Do 評価(4段階)で自己評価をするコーナーも新設され、児童が自らの目標に向かって学びを調整するための工夫がなされている。さらに、教科書紙面自体に豊富な書き込みスペースが設けられており、児童が学びの足跡を残したり、指導者がそれらを評価に活用したりすることも想定されている。デジタル教科書においても、スクリーンショットの機能をいかし、他の学習支援ソフトと併用することで、ポートフォリオ的な活用も考えられる。
- ・デジタル教科書においては、個別最適な学びを支えるため、学びに活用できる機能がこれまで以上に充実していることから、指導者、学習者がそれらを活用するためのスキルを高めることでより効果的な活用が実現すると考えられる。

# 研究成果中間報告書

## 「デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と自律的な態度を育む外国語科の評価」

2022～2025年度科学研究費補助金基盤研究（B）

研究代表者：泉恵美子（関西学院大学）

（研究課題番号：22H00684）

### 研究概要

#### 1 本研究の目的と概要

2020年度より小学校中学年で外国語活動が、高学年で外国語が実施され、高学年では教科化に伴い文部科学省の文科省検定教科書を用いて指導と評価を行うことになった。また、GIGAスクール構想により、2022年度より一人一台端末が配布され、2024年度からは外国語科で学習者用デジタル教科書の使用が始まった。現在は教育DX、AIなども進み、デジタル時代における英語教育をいかに進めるか、ICTをいかに指導や評価に有効に活用するかは大きな課題である。そこで、本研究の目的は、デジタル機器等を用いることで小学校英語の指導と評価がどのように変わるかを研究し、より良い評価の在り方を提案し、検証することであり、これまで日本では未開拓の分野である。また、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日）によれば、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」が目指されているが、学習者特性に応じた学習者用デジタル教科書の活用、タブレットやデジタル機器を活用した小学校英語における評価用タスク、パフォーマンス課題の開発と導入、ルーブリックとCan-Doを合わせた評価尺度の設計と実証、eポートフォリオの開発という体系的な研究を行う。その際、「思考力・判断力・表現力」は内容言語統合学習などの知見も取り入れ、「学びに向かう力」といった評価しにくい部分については、自己調整学習の知見を生かし、各自が目標を設定し、予見－遂行－省察を繰り返しながら、目標を達成することをめざす。その際、授業内タスクや課題を設定し開発することで、児童生徒が当事者として関与を高め、Education 2030が求めている学びの羅針盤をもとに教育におけるウエルビーイングを希求するのみならず、アセスメントリタラシーを高め、自己効力や自律性の向上を高めることもめざしたい。

研究の概要としては、小中接続も視野に入れ、デジタルを効果的に活用して「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」をどのように英語教育で育成し、評価を行うかを考え、デジタルの取り入れにより変革する新たな学びのスタイルに基づいた指導と評価を提案する。さらに、よりよい言語活動への態度と学びの態度の統合的なアプローチにより、児童生徒の学習意欲を促進し、思考や判断を促すタスクや授業設計に基づいたCan-Do評価とパフォーマンス評価（ルーブリック活用）、eポートフォリオの開発を行い、効果的な指導と評価の事例を調査・実践等を通して質的・量的に検証し公開したい。また、それにより、小学校英語に対応する評価プログラムを開発する予定である。

#### 2 2024年度の研究内容

今年度実施した研究内容は主に以下の通りである。

研究に際しては、研究代表者、分担者が各々の専門的立場から役割分担を行い、研究協力者と共に毎月の会議並びに、日常的なメール会議とGoogle Driveの共有により、相互に進捗状況を確認しながら協力して進めた。主な内容は次の通りである。

**(1) 研究成果の発表と普及(教員研修):** 小学校の外国語活動/英語教育における評価について、2022~2023 年度に作成した『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル~教育の DX を志向した指導・学習・評価に向けて~』『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル~学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案~』における単元をつなぐ Can-Do 評価及びパフォーマンス評価尺度、「学びに向かう力」自己調整学習につながる手立て、学習の3段階(予見-遂行統制-振り返り)における教員の支援(手だて)の在り方、e-ポートフォリオなどについて、学会発表やワークショップ、教員研修等で紹介するとともに、研究成果の発表と普及、検証を行った。

また、今年度は「自己調整学習」をどのように育成するのかを考え、学習の3段階(予見-遂行統制-振り返り)における教員の支援(手だて)の在り方、e-ポートフォリオについて考えるワークショップも開催した。さらに、子どもと共に研究する research with children についてパトラー後藤裕子先生より、また、情報活用能力について情報教育を専門とされる倉田伸先生よりご講演・ご指導をいただき学びを深めることができた。

**(2) 学習者用デジタル教科書と令和 06 版文部科学省検定済み教科書小学校「外国語」の分析と指導と評価の在り方の検討:** 学習者用デジタル教科書が今年度から児童に配布されたことに伴い、教科書会社 6 社のデジタル教科書について担当を決めてそれぞれ特徴を分析するとともに、文科省検定済み教科書の旧版と今年度新たに使用される令和 06 版を比較し、紙面上でどのような違いがあり、新たにどのような観点が加わっているかを分析した。また、教科書分析を踏まえ、指導者用と学習者用デジタル教科書、タブレットを用いて、どのように指導や評価を行えばよいかの提案を行った。特に、個別最適な学びと協働的な学びの在り方を模索し、自由進度学習などでもタブレットを用いて学びの足跡を残せる e-ポートフォリオの可能性も検討した。その成果は言語教育エキスポ 2025 で発表し、本冊子でも掲載している。

**(3) e-ポートフォリオの開発と実践:** 昨年度に引き続き、研究者と3名の国公立小学校教諭が協力して模索し e-ポートフォリオを開発し、3校で授業実践を行った。その際、Can-Do 評価を用いた形成的評価から総括的評価につなげ、全国の公立小学校で誰もが使える汎用性の高い e-ポートフォリオをめざし、課題の解決を図り、児童の様子を見ながら児童と教員が使いやすいより良いものにすべく発展させている。また、昨年度と今年度の実践を振り返り、実践者にインタビューを行い、e-ポートフォリオの利点と課題、可能性と実用性についても検討を行った。その成果と課題については福岡キャラバン、第3回のシンポジウムで発表し、本冊子でも報告している。

**(4) 自己調整学習を促進する授業設計と外国語における情報活用能力 Can-Do リストの作成:** これまで、「学びに向かう力」を育て、自律した学習者育成のために、ラーニングマウンテンを活用して児童に各自の目標(めあて)を立てさせ、ルーブリックを児童と共創したり、学習者用デジタル教科書やタブレットを有効活用している優れた授業実践に焦点を当ててきた。本年度は、その実践の中で、児童が思考のツールを用いたり、デジタル教科書を有効活用しながら、どのように「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」といった資質能力を高め、英語によるコミュニケーション能力を高めているのかを、指導案とも関連付けながら、「外国語×ICT」の観点から情報活用能力の研究を基に、デジタル Can-Do 評価尺度作成を試みた。

**(5) 授業実践:** 昨年度に引き続き、小学校外国語活動・外国語科に Can-Do 評価、パフォーマンス評価などを取り入れることで、授業計画や指導がどのように変化し、授業が改善されるかを、児童・保護者、学校への協力の同意を得て、公立・私立小学校で実際の授業を通して検証を行った。その際、一人一台端末が配布されたことも受け、ICT やデジタル機器をいかに活用して授業と評価を行うかについて、研究と実践を行った。幼稚園、低学年、中学年、高学年など発達段階の異なる幼児や児童を対象に、単元目標やルーブリックの共有、タブレットの活用、Can-Do 指標を示したルーブリックを用いたパフォーマンス評価などを行い、児童の振り返りシートを用いた自己評価も参考に、どのように児童の思考力・判断力・表現力を深めることができるかや、学びに向かう力が育っているかなど課題等を洗い出し考察した。

また、指導者の内省シートやビデオ録画した授業や児童のパフォーマンス例を分析し、評価が



指導にどのように影響を与えるかを引き続き検証した。

(6) **リタラシーの指導と評価**：小学校外国語では小中連携も踏まえ、「読むこと」「書くこと」(文字指導)をどのように段階的に指導し評価すればよいかは大きな課題である。そのため、リタラシーの指導と評価のあり方を継続して研究し、トップダウンとボトムアップの視点からの目標と指導・評価について検討を行い、Can-Do 評価を用いてどのように中・長期的に力を見取るのかについても検討を行った。引き続き、テスト問題等を開発し、公立・私立の小学校で実施した。また、絵本を用いた Learning by Storytelling (LBS)の指導でも Can-Do 評価を用いて児童に自己評価をさせ、その効果検証も行った。

(7) **HP の更新**：科研の HP の更新を随時行い、ワークショップやシンポジウムの予定やチラシを掲載し広報に務めた。また、2024 年度の間報報告書冊子を作成し、アップロードする予定である。  
(<http://www.izumi-lab.jp/easel.html> 参照)

### 3 2024 年度の活動報告

#### (1) 科研ミーティング

第1回	2024年4月28日(日)	@Zoom
第2回	2024年6月2日(日)	@Zoom
第3回	2024年7月7日(日)	@Zoom
第4回	2024年7月14日(日)	@山口+Zoom
第5回	2024年8月12日(月)	@Zoom バトラー先生夏季研修会
第6回	2024年9月23日(月・祝)	@Zoom
第7回	2024年10月20日(日)	@Zoom
第8回	2024年11月30日(土)	@Zoom
第9回	2025年1月13日(月・祝)	@Zoom
第10回	2025年2月11日(火・祝)	@Zoom
第11回	2025年3月20日(木・祝)	@京都光華女子大学+Zoom
*その他、別途個別 MTG や WS, 学会発表など打ち合わせ等もあり		

(2) **ワークショップ他 (EASEL 2024 年度「デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と自律的な態度を育む外国語科の評価」)**

① **小学校英語教育学会 (JES) 第 24 回中国・山口大会ワークショップ**：7月14日@山口大学  
「小学校英語における自己調整を促す評価のあり方—Can-Do 評価とポートフォリオ評価を中心に—」発表者：泉恵美子，長沼君主，大田亜紀，奥平明香

目的と概要：学習指導要領では、3つの資質・能力を育成し、指導と評価の一体化をめざし、観点別に評価や評定を行うことになっている。観点の一つ「主体的に学習に取り組む態度」においては、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と「粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面を評価することが求められる。そこで、コミュニケーションの達成に向けて、粘り強く取り組み続ける上でも、児童の自己調整能力は重要である。本 WS では、自己調整を促す評価のあり方に焦点を絞り、どのように児童の自己調整能力を高める工夫をすればよいかを考える。その際、小学校での優れた実践の工夫を紹介しながら、自己調整学習のプロセスの3段階、プランニング(予見)、モニタリング(遂行統制)、リフレクション(自己省察)において、指導者がどのような手立てを用いて学習者を支援すればよいかを考える。

(1) Can-Do 評価と自己調整学習のプロセスの説明

(2) 学びを促す活動の工夫(各フェーズの説明, ディスカッション, 共有)

1) プランニング(予見)：学習開始段階(目標設定・達成の工夫) / 診断的評価

2) モニタリング (遂行統制) : 学習途中段階 (中間指導・目標調整) / 形成的評価 (①②を中心に。奥平先生の事例を示しながら)

3) リフレクション (自己省察) : 学習終了段階 (変容の自覚・理由) / 総括的評価

(3) まとめ

\*本WSではプランニングとモニタリングの段階を中心に扱い、実践事例を紹介しつつ、単元内や単元間の学びをつなげるCan-Do評価の活用について考える。

## ② 小学校英語研究会 (EASEL) 事例検討会@福岡:eポートフォリオの実践報告と協議

2025年1月11日(土)@VILLENT 博多グラン414号室

発表者:内田綾先生(春日市立春日南小学校),友池奈緒先生(糸島市立波多江小学校),  
林由布子先生(長崎大学教育学部附属小学校)

## ③ 言語教育エキスポ2025:2025年3月2日(日)@中央大学,オンライン

「学習者用デジタル教科書の分析を通して~学びと指導の可能性を探る~」

発表者:泉恵美子,長沼君主,加藤拓由,奥平明香,黒川愛子,森本敦子,大田亜紀,俣野知里,山川拓

## ④ EASEL 2024 年度 第 2 回 講演& ディスカッション @京都:

2025年3月20日(木・祝)@京都光華女子大学 光耀館 2階

「デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と自律的な態度を育む外国語科の評価」  
~児童・生徒と共に創る、学習計画と評価~

講演:石井英真先生(京都大学大学院 教育学研究科)

「学習評価改革の方向性—真正性のある学習と評価の一体的実現に向けて—」

事例報告:

①「児童の視点から考える学び~第2学年の実践をもとに~」俣野知里

②「単元のゴールに向けて、児童と共に創る単元計画の工夫」針谷亜衣先生(さいたま市立与野八幡小学校)

2024年度科研報告:泉恵美子

パネルディスカッション・全体討議

「ポートフォリオを活かした真正性のある授業づくりと評価の深め方」

ファシリテーター:長沼君主

パネリスト:奥平明香,大田亜紀,倉田伸,長沼君主

## (3) 雑誌論文・図書など

### 【論文】

アレン玉井光江(2024)「ストーリーに基づく活動へのエンゲージメントとその影響—ストーリーが小学校英語教育にもたらすもの—」『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』43, 33-49.

アレン玉井光江(2025)「小学校英語教育におけるストーリー活動の効果:小学生はストーリー活動から何を学ぶのか?」『青山学院大学文学部紀要』66, 19-34.

泉恵美子・長沼君主・奥平明香(2024)「小学校英語の思考と学びを促す評価におけるICT活用の可能性—Can-Do評価尺度に基づいた指導者の振り返りと実践を通して—」『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』43, 223-238.

小野尚美・泉恵美子・赤枝康隆(2024)「絵本を活用したLearning by Storytellingの実践—2つの公立小学校での試み—」『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』43, 161-174.

泉恵美子(2025)「児童の思考力と自己効力感を高め、自律的な学びを育む指導と評価」*KELES Journal*, 10.

倉田伸・竹内愛 (2024) 「日本の大学生がCOILで用いるチャットのリアクションを支援者が把握する際に留意すべき点を検討する探索的研究」 『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』 10(2) No. 14-

黒川愛子 (2025) 「検定教科書を有意義に用いたデジタル時代のラウンド制指導法の活用—小中接続を意識した中3段階の4技能5領域の向上に向けて—」 『帝塚山大学子育て支援センター紀要』 第6号, 1-10.

Jeon, Kyoungwha, Tabuchi, Mayumi, & Strickland, Zach (2025) Examining Early Childhood Education Through the University-Kindergarten Program: From the Perspective of Social Emotional Learning 『京都光華女子大学こども教育研究』 第5号, 17-24.

森本敦子 (2025) 「英語運用力育成のための小学校英語行事におけるCLIL(内容言語統合型学習)活動の実践」 『綜藝』 高野山大学文学部教育学科紀要, 第4号

#### 【図書】

アレン玉井光江 (2024) 『エレン・ベーカー先生はじめての英語教室』 東京書籍.

アレン玉井光江 (編集代表) (2024) 『New Horizon Elementary 5 & 6, Picture Dictionary』 東京書籍.

アレン玉井光江 (2025) 『幼児・児童を対象とした早期英語教育におけるリタラシー指導: 21世紀型リタラシー獲得を目指した英語プログラムの理論と検証』 学文社.

アレン玉井光江 (2025) 『物語が育てる言葉と心: ストーリー活動と英語教育』 学文社.

アレン玉井光江 (監) (2024) 『英語がきける! よめる! 話せる! フォニックス①アルファベット』 国土社.

アレン玉井光江 (監) (2025) 『英語がきける! よめる! 話せる! フォニックス②子音』 国土社.

アレン玉井光江 (監) (2025) 『英語がきける! よめる! 話せる! フォニックス③短母音と2文字子音』 国土社.

アレン玉井光江 (監) (2025) 『英語がきける! よめる! 話せる! フォニックス④長母音』 国土社.

アレン玉井光江 (監) (2025) 『イラストでわかるカタカナ語じてん』 成美堂.

樺山敏郎 (編) 奥平明香 (分担執筆) (2024) 『個別最適な学び・協働的な学びを実現する学びの文脈2』 明治図書.

廣森友人・和田玲 (編著), 櫻村祐志・奥貫明子・俣野知里, 他9名 (著) (2024) 『エンゲージメントを促す英語授業—やる気と行動をつなぐ新しい動機づけ概念』 大修館書店.

廣森友人・小金丸倫隆 (編著), 俣野知里・胡子美由紀・高木俊輔 (著) (2024) 『エンゲージメント×英語授業—「やる気」と「意欲」を引き出す授業のつくり方』 明治図書.

現代保育問題研究会, 山崎英明他10名, 森本敦子 (分担執筆) (2024) 「園から小学校、将来へとつながる英語教育を目指して—園の行事と連携した効果的な英語レッスンの探究—」 『現代保育内容研究シリーズ⑨ 現代保育と教育の理論と実践』 一藝社.

#### (4) 学会発表・講演・研修講師など

##### 【学会発表】場所の記載のないものは全てオンライン (Zoomにて)

アレン玉井光江・小林悠・塚原麻衣・小池成未 「公立小学校におけるストーリーを使った外国語指導—言語的・文化的学びの促進において—」 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第44回全国大会, 大阪成蹊大学 (2024. 6. 29)

アレン玉井光江 「子どもたちの未来を拓く英語教育を考える—保幼小中高をつなぐ【シンポジウム】」 日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第44回全国大会, 大阪成蹊大学 (2024. 6. 30)

アレン玉井光江・田縁真弓 「小学校における英語のリタラシー教育—その指導と評価について—」 小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 14)

アレン玉井光江 「小学校英語における物語を題材とした活動の指導効果について—獲得した英語スキルとエンゲージメント—」 日本教育心理学会第66回総会, アクトシティ浜松 コンgressセンター (2024. 9. 16)

泉恵美子・奥平明香 「児童の学習調整を促す e-portfolio の効果的活用の提案—学習過程の記録を活かし学習改善を行うための活用—」 小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会,

- 山口大学 (2024. 7. 15)
- 小野尚美・泉恵美子・赤枝康隆「絵本を活用した Learning by Storytelling 指導法の実践 —公立小学校での2年間の縦断研究の効果—」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 14)
- 泉恵美子・齊藤倫子・吹原顕子・田邊義隆「小学校英語教員養成における学生の意識の変容と課題—3年間の縦断的研究を踏まえて—」日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第44回秋季研究大会, 名城大学 (2024. 10. 6)
- 泉恵美子・長沼君主・加藤拓由・奥平明香・黒川愛子・森本敦子・大田亜紀・俣野知里・山川拓「学習者用デジタル教科書の分析を通して～学びと指導の可能性を探る～」JACET 教育問題研究会主催言語教育エキスポ (2025. 3. 2)
- 大江太津志「1年生児童と学習のための道具の関わり: 児童が英語カルタを使い慣れていく過程」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 15)
- 大田亜紀「汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオを活用した小学校外国語科の授業実践をととした成果と課題の検討」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 14)
- 大田亜紀「これからの小学校外国語教育を見据え、現状について語る」日本児童英語教育学会 (JASTEC) 九州沖縄支部大会, 博多駅前貸会議室 (2024. 11. 16)
- 大田亜紀「小学校小学校外国語教育についての座談会」小学校英語教育学会 (JES) 九州北部セミナー, 天神貸会議室 (2025. 2. 15)
- 奥平明香・黒木愛・中島裕美「「伝えたい！」思いを大切に育む小学校外国語の言語活動—フラット・スタンレー「ご当地交流」プロジェクトを通して—」言語教育エキスポ2024 (2025. 3. 10)
- 奥平明香・黒木愛・中島裕美「遠隔協働学習で育む相手意識の醸成—Flat Me Project 英語の文通交流を通して—」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 14)
- 奥平明香「言語活動を通して「見方・考え方」を育成する—児童発話の変容の分析を通して—」日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第44回全国大会 (2024. 6. 29)
- 加藤拓由「ICT, デジタル教科書・個別最適な学び, 協働的な学びを旨として—学習者用デジタル教科書は、どんな力を育成するのか?—」日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第44回全国大会, 大阪成蹊大学 相川キャンパス (2024. 6. 30)
- 加藤拓由「小学校外国語科における情報活用能力の育成とその意義—学習者用デジタル教科書活用の実践研究の視点から—」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 15)
- 黒川愛子「デジタル時代における検定教科書を有意義に用いたラウンド制指導法の活用—小中接続を意識した中3段階の4技能5領域の向上に向けて—」全国英語教育学会, 福岡工業大学 (2024. 8. 25)
- 田縁真弓「ICT を活かした英語絵本指導—ストーリーを使った『聞いて読んで話して書く活動』」日本児童英語教育学会 (JASTEC) 第44回全国大会, 大阪成蹊大学 (2024. 6. 29)
- 小野尚美・田縁真弓・オーガスティン真智・吉本連「英語の読みを助ける絵本を使った音韻認識活動」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 15)
- 小野尚美・田縁真弓・オーガスティン真智・吉本連「Learning by Storytelling: the Development of Effective English Activities for 3rd Graders Through Storytelling with Picture Books」Hawaiian International Conference On Education, Hawaii, USA (2025. 1. 6)
- 廣森友人・俣野知里・胡子美由紀・泉澤誠「エンゲージメントの向上につながる授業の検討—小学校外国語における実践をもとに—」全国英語教育学会第49回福岡研究大会課題研究フォーラム, 福岡工業大学 (2024. 8. 24)
- 森本敦子・黒川愛子「小中外国語科をつなぐ小学校段階での「読むこと」の一考察」日本児童英語教育学会第44回全国大会, 大阪成蹊大学 (2024. 6. 29)
- 森本敦子・黒川愛子「幼児期の英語活動を活かした小学校外国語活動・外国語科の展開—身体性に着目した幼小接続の観点から—」小学校英語教育学会 (JES) 第24回中国・山口大会, 山口大学 (2024. 7. 14)

## 【講演】

<泉恵美子>

- ・京都光華女子大学 第4回英語教育フォーラム～つなぐ・つなげる・つながる明日の英語教育～「子どもたちの明日を拓く英語教育～学びと評価の観点から～」京都光華女子大学(2024.9.8)
- ・関西英語教育学会 第62回 KELES セミナー「児童の思考力と自己効力感を高め、自律的な学びを育む指導と評価」龍谷大学梅田キャンパス研修室(2024.12.22)

<田縁真弓>

- ・京都光華女子大学 第4回英語教育フォーラム「つなぐ・つなげる・つながる英語教育」京都光華女子大学(2024.9.8)
- ・三重県松坂市教育委員会外国語活動・外国語科研修「小学校英語とICT活用」三重県松坂市立小野江小学校(2024.11.7)
- ・大阪市小学校教育英語部研究会英語部 第40回大阪市総合研究発表会「英語を使って主体的に考えや気持ちを伝えあおうとする子ども育成」大阪市放出小学校(2025.2.7)
- ・神奈川県相模原市教育委員会・外国語研究部 神奈川県相模原市総合研究大会「子ども一人一人が楽しさを実感できる外国語授業とは」神奈川県相模原市橋本小学校(2025.2.12)

## 【研修・セミナー等講師】 場所の記載がないものはオンラインにて

<アレン玉井光江>

- ・滋賀県教育委員会 令和6年度外国語活動・外国語科指導力アップ研修「子供が主体となる外国語活動・外国語科の教科指導の在り方」滋賀県総合教育センター(2024.7.22)
- ・福井県教育委員会「令和の新しい授業づくり 一人一人の児童生徒を主語にする授業を目指して”音声を大切に英語の読み書きで、自律学習を促す”」福井県教育総合研究所(2024.7.24)
- ・品川区教育委員会 令和6年度第5回JTE連絡会「21世紀型リタラシー学習の指導を目指して」品川区役所(2024.12.18)
- ・2024年度 ELEC 小学校英語教育ワークショップ「小学校英語の文字指導」千代田プラットフォームスクエア(2024.12.27)
- ・品川区教育会英語部研究会 小中連携による英語教育の推進「小学校英語のリタラシー教育：卒業前までのCan-do」品川区立浜川中学校(2025.2.5)

<泉恵美子>

- ・令和6年度奈良市中堅教諭等資質向上研修 外国語科教育(小)研修講座「小学校外国語科における授業展開と工夫」奈良市教育センター(2024.8.2)

<大田亜紀>

- ・竹田市小学校英語授業力向上研修「小学校外国語の授業づくり」大分県竹田市役所(2024.7.22)
- ・南風小学校校内研修「外国語活動の指導の在り方」福岡県糸島市南風小学校(2024.7.23)
- ・光貞小学校校内研修会・北小英研夏季研修会「小学校外国語の授業づくり」北九州市立光貞小学校(2024.7.29)
- ・大分市小学校外国語研究会「小学校外国語の授業づくり」大分市下郡小学校(2024.7.30)
- ・糸島市小学校教科等研究協議会 外国語活動・外国語部会「小学校外国語の授業づくりで大切にしたいこと」糸島市加布里小学校(2024.7.31)
- ・豊後高田市学校組織マネジメント・リーダー研修会 香々地地区英語教育特例校における教育課程等改善研修会「「読むこと」「書くこと」における小中のつなぎについて」大分県豊後高田市香々地中学校(2024.8.6)
- ・竹田市中学校英語授業力向上研修「小学校から中学校へのつなぎを意識した授業づくり」大分県竹田市役所(2024.8.19)
- ・久原小学校校内研修「外国語活動の授業づくり」福岡県久原小学校(2024.8.23)
- ・宇佐市英語担当者研修会「小学校外国語の授業づくり」宇佐市(2024.8.27)
- ・「小学校外国語指導スキルアップ講座」「言語活動を促進するための教材・教具の効果的な活用」Gakken(2024.11.24)

<奥平明香>

- ・小学校外国語授業づくり研究会 Summer Special Seminar「普段使いの外国語科の授業～あんなことやこんなこと～」(2024.8.12)



- ・岐阜聖徳学園大学加藤ゼミへの講習「ICTを活用した小学校の教科横断型授業づくり」岐阜聖徳学園大学（2024.10.14）
  - ・光村図書小学校英語オンラインセミナー「個別最適な学びと協働的な学びの充実～デジタル教科書でできること～」実践事例～学習者用デジタル教科書活用術の紹介～（2024.12.8）
  - ・琉球大学津田ゼミ講座「小学校外国語授業づくりと指導と評価」ゆたか小学校（2024.12.25）
- <加藤拓由>
- ・本巣市教育委員会本巣市小中義英語研修「言語活動を通じた小学校外国語科の指導～学習者用デジタル教科書の活用～」岐阜県本巣市立真桑小学校ほか（2024.5.14, 2024.7.31, 2025.1.21）
  - ・令和6年度 専門性向上研修 授業づくり研修 国際コミュニケーション科・外国語科「『真正性』のある言語活動とその評価」寝屋川市総合教育研修センター（2024.5.16）
  - ・羽島市教育委員会力量アップ講座「「はた・らく」ための授業改善と評価～評価が変われば、授業も変わる～Can-Do 評価を活用した指導改善」羽島市役所ほか（2024.5.17, 2025.2.13）
  - ・くわな教研研修会 くわな教研小学校外国語部会 くわな生き生き教育研究協議会（2024.6.12）
  - ・校内現職教育研修会 あま市立正則小学校 校内現職教育 愛知県あま市立正則小学校（2024.6.20, 2024.7.4）
  - ・岐阜県恵那市教育委員会 令和6年度第1回外国語（活動）英語科担当者研修会「言語活動を通じた小中学校の授業作り～指導と評価の一体化をめざして～」（2024.7.5）
  - ・春日井市立鳥居松小学校校内研修「主体的・対話的な学びを実現する授業づくり～CANVA や生成AI を用いた授業づくり～」春日井市立鳥居松小学校（2024.7.25）
  - ・静岡県磐周地区教育研究講座「言語活動を通して行う外国語科の指導と評価～考えながら話す児童生徒の育成をめざして～」磐周教育研究所ソフィア（2024.7.30）
  - ・尾教研丹葉支部英語部会研究集会「自らの学びを振り返り主体的に学ぶ児童生徒の育成～学習者用デジタル教科書を活用して～」大口町健康文化センター（2024.8.2）
  - ・一宮市教育委員会教育部一宮市夏期集中研修講師「小中学校外国語（活動）の言語活動と評価」一宮市教育センター（2024.8.2）
  - ・但馬市小学校教育研究会外国語部会研修講師「言語活動を通して指導を行う外国語科の指導と評価～学習者用デジタル教科書活用の意義～」日高地区コミュニティーセンター（2024.8.8）
  - ・昭島市立公立小学校教育研究会「相手意識をもって、楽しんでコミュニケーションを図る児童の育成～児童が話したくなる授業の工夫を通して～」昭島市立中神小学校（2024.9.11）
  - ・神戸市小学校教育実践研修 外国語・国際教育グループ研修講師「「主体的な学び」を育てる外国語の指導と評価」神戸市産業振興センター（2024.9.17）
  - ・春日井市英語研究会 郡市別中間発表会講演「自律的な学びを促進する自由進度学習のアプローチ～学習者用デジタル教科書を活用した言語活動の視点から～」レディヤンかすがい（2024.10.11）
  - ・広島県小学校教育研究会外国語部会秋期研修会「新しい教科書で学ぶ、小学校外国語の指導について」広島市立原小学校（2024.10.17）
  - ・城東地区外国語研究部会 地区別研究授業及び講演会「学習者用デジタル教科書で創る小学校外国語科の学び～学習内容の定着から学習方略の育成へ～」姫路市立古知小学校（2024.10.30）
  - ・系魚川市教育研究会英語・外国語活動部会 英語研修会「コミュニケーション能力の育成に商店を当てた指導の工夫」系魚川市立田沢小学校（2024.11.8）
- <黒川愛子>
- ・滋賀県教育委員会主催令和6年度外国語指導助手の指導力等向上研修「身体性を活かしたデジタル時代の小学校外国語活動・外国語科一円滑な小中接続に向け、Team Teaching をどう進めるか～」ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター（2024.11.14）
  - ・教職トライコース授業「学校の先生とは？夢をもって進み、身に付けたいこと」大阪府立八尾翠翔高等学校（2024.5.17）
  - ・夢ナビ株式会社フロムページ 夢ナビ編集部 夢ナビ講義「体の動きを通して習得！～デジタル時代の外国語教育～」（2024.10.20）
- <田縁真弓>
- ・足立区教育委員会小学校外国語活動研修「低学年と絵本指導」足立区洲江小学校（2024.7.4）
  - ・足立区教育委員会小学校外国語研修「音から文字への指導～ICT とストーリー～」足立区洲江小

学校 (2024.10.25)

- ・小学校外国語授業づくり研究会 プレミアムセミナー「ICT 活用のボトムアップとトップダウン文字指導」(2024.6.9)
  - ・三重県松阪市教育委員会 外国語活動・外国語科研修「小学校英語と ICT 活用」三重県松阪市立小野江小学校 (2024.11.7)
  - ・東大阪市教育委員会小学校 英語・外国語活動研修「主体的に伝え合う発信力と即興力の育成」東大阪市教育センター (2024.11.14)
  - ・大阪市小学校教育研究部英語部 小学校英語・外国語活動研修「低学年の外国語活動」大阪市立玉造小学校 (2024.10.18)
  - ・大阪市小学校教育研究部英語部 小学校英語・外国語活動研修「中学年の外国語活動」大阪市立東中本小学校 (2024.9.27)
  - ・大阪市小学校教育研究部英語部 小学校英語・外国語活動研修「高学年の外国語」大阪市立五条小学校 (2024.10.11)
  - ・LBS 指導法研究会 LBS 指導法ワークショップ京都キャラバン 京都光華女子大学 (2024.5.26)
  - ・LBS 指導法研究会・JES 小学校英語教育学会愛知支部 LBS 指導法ワークショップ名古屋キャラバン愛知県立大学サテライト講義室 (2024.9.28)
- <森本敦子>
- ・河内長野市教育研究会 小学校外国語部会「子どもたちがいきいきと輝く外国語活動の授業づくり～学習指導要領から考える～」(2024.6.20)

その他、多くのメンバーが、教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・高等学校等での教員研修に携わった。

(文責 泉恵美子)

## プロジェクト報告

### 汎用的なクラウドサービスを用いた小学校英語教育における e-ポートフォリオの開発と子どもの学びに向かう力の育成を目指した教師の手立て ～前年度の課題をふまえた取組の中間報告：事例検討会（2024 福岡）報告～

大田亜紀（別府大学短期大学部）

内田綾（福岡県春日市立春日南小学校）

友池奈緒（福岡県糸島市立波多江小学校）

林由布子（長崎大学教育学部附属小学校）

倉田伸（長崎大学）

#### 1 はじめに

昨年度より、小学校外国語科の授業において、汎用的なクラウドサービスを活用した e-ポートフォリオの開発を進めてきた。昨年度の取組みを通じて得られた成果と課題を踏まえ、本年度は 3 名の小学校教諭の担当学年を考慮し、外国語科のみならず外国語活動を含めた実践を行いながら、e-ポートフォリオの開発研究を継続した。さらに、中学年における e-ポートフォリオの活用についても新たに取組んだ。

令和 7 年 1 月 11 日には、小学校英語評価研究会（EASEL）のメンバーによる事例検討会を実施し、本プロジェクトに関する議論を行った。本検討会では、昨年度までの e-ポートフォリオの取組みにおける成果と課題を整理し、本年度の改善点や実践の継続状況について、3 名の小学校教諭が進捗報告を行った。

本稿では、これらの実践内容について報告する。

#### 2 実践 A: Google スプレッドシートを活用した e-ポートフォリオの実践

##### 2.1 取組みの概要

昨年度、本実践では、小学校英語教育において e-ポートフォリオを活用し、児童の学習の振り返りを促進する方法を試みた。当初は紙媒体で振り返りを行っていたが、Unit ごとに 1 枚のワークシートを作成し、ファイリングすることで、児童が既習の内容を振り返りやすい環境を整えた。しかし、紙の管理が難しい児童がいることや、教師が毎時間の記述を回収・確認するのに時間がかかる点、学級全体の傾向を把握するのに手間を要する点が課題となった。

これらの課題を解決するために、Google フォームを活用した振り返りを導入した。この方法では、児童一人ひとりの振り返りを短時間で確認できるようになり、自動集計機能を活かして学習状況の把握と管理が容易になった。また、児童が自身の成果物である動画を見返し、客観的に振り返ることで、自己の学びを深めたり、友達の表現を参考にしたりすることが可能になった。さらに、振り返りの共有を通じて、児童自身が学びを創る意識が高まる効果も見られた。

一方で、フォームでは前回の振り返りを参照しにくく、自己の変容を自覚しづらいという課題が浮上した。また、児童からは教師のフィードバックを求める声も多く上がった。

これらの課題を受け、次のステップとして、本年度は Google スプレッドシートを活用した振り返りへと移行した。これにより、児童は前回までの振り返りを容易に確認できるようになり、単元を通して自己の成長を意識することができるようになった。また、教師からのフィードバックを受け取る仕組みを導入し、児童の学習意欲の向上を図った。

## 2.2 成果と課題

スプレッドシートの活用により、児童は自身の振り返りをより容易に確認でき、学習の変化を意識しやすくなった。さらに、児童同士が互いの振り返りを自由に閲覧し、参考にしたり助言を与えたりすることで、学び合いが促進された。また、「使いたい表現」を基にワードブックを作成し、児童が自身の学習意欲に沿った形でツールを活用できるようになった。

一方で、スプレッドシートの操作に慣れない児童が設定を誤って変更してしまったり、誤ってデータを削除してしまったりする問題が発生した。また、Google フォームの自動集計機能がなくなったため、集計作業に手間がかかるようになったが、振り返りの目的が自己の変容を自覚することにあるため、自動集計の必要性はあまり感じられなかった。さらに、児童同士が互いの振り返りや成果物を見る時間を確保することが難しい点も課題として残った。

## 2.3 今後の展望

今後は、パソコン操作に不慣れな児童でも扱いやすいようにスプレッドシートの改良を進めるとともに、同じ項目を一覧で確認できる工夫を施し、学習状況の把握をしやすくする。また、相互評価の場面でペアのシートに直接入力できる仕組みを導入することで、より効果的な学び合いの場を構築することを目指していく。

### 【実践 A 参考資料：事例検討会スライド資料より】

#### これまでの実践

令和 5 年度 5 年生外国語科において

① 紙媒体での振り返り

- Unit で 1 枚だから、前時の内容を振り返ることができる。
- ファイリングして子どもの手元にあるため、既習の単元についても読み返すことができる。
- ▲ 紛失等、管理が上手くいかない子どもがいる。
- ▲ 毎時限、回収して内容を確認するのに時間を要する。
- ▲ 一人ずつ確認するため、集計しようとする手帳がなくなり、学級の傾向を把握するのに時間を要する。

② Google フォームを活用した振り返り

- 一人一人の振り返り確認する時間が大幅に短くなった。
- 自動的に集計されるため、把握・管理がしやすくなった。
- 子どもが成果物の動画を見ることができ、自分の姿を客観的に見たり、友達の様子を参考にしたりすることができた。
- 振り返りを共有することで、子どもが自分で学びをつくる意識が高まった。
- ▲ 前の時限の内容や自分の振り返りを見ることできない。
- ▲ 友達の様子（動画）を見る時間を取りにくい。
- ▲ 動画を撮ることによって、記録に残ることや人に見られることが気になり、正しさを求めてしまったり、記録に残すことができるが、それを有効活用できていない。教師からのフィードバックがほしい。

#### Google フォームを活用した振り返り

教師にとって、効率的であり、子どもの学習状況を見取るのにも有効だった。

子どもにとって、友達と成果物（動画等）を共有できるのは、学びの見通しをもつことに有効だった。一方で、フォームだと前時の自分の振り返りが見えにくく、自己内での変容を自覚することが難しかった。また、教師からのフィードバックがほしいという声もあがった。

#### Google スプレッドシートを活用した振り返り 導入！

- これまでフォームを使った振り返りをしているため、子どもはパソコンの扱いに慣れている。
- 自分の、前時までの振り返りを確認しやすくなる。
- 単元を通して、自己の変容を自覚することができる。
- 教師からのフィードバックが得られる。

#### 外国語活動授業における ICT 活用場面

Let's Try! ② Unit 6 alphabet

学習過程	ICT活用場面
Small Talk	○ 前時の振り返り
Today's Goal	○ Today's Goalの入力
言語活動①	○ 課題解決のツール ○ 撮影
My Goal	○ My Goalの入力
共有タイム	○ 課題の共有 ○ 課題解決のツール
言語活動①	○ 課題解決のツール ○ 撮影
言語活動②	○ 課題解決のツール ○ 撮影
共有タイム	○ 課題の共有 ○ 課題解決のツール
言語活動②	○ 課題解決のツール ○ 撮影
振り返り	○ 自己評価(My Goalに対して) ○ 相互評価 ○ 使いたい表現 ○ 成果の共有 ○ 感想・次したいこと

#### 外国語科授業における ICT 活用場面

学習過程	ICT活用場面
Small Talk	○ 前時の振り返り
Today's Goal	○ Today's Goalの入力
言語活動①	○ 課題解決のツール ○ 撮影
My Goal	○ My Goalの入力
共有タイム	○ 課題の共有 ○ 課題解決のツール
言語活動①	○ 課題解決のツール ○ 撮影
言語活動②	○ 課題解決のツール ○ 撮影
共有タイム	○ 課題の共有 ○ 課題解決のツール
言語活動②	○ 課題解決のツール ○ 撮影
振り返り	○ 自己評価(My Goalに対して) ○ 相互評価 ○ 使いたい表現 ○ 成果の共有 ○ 感想・次したいこと

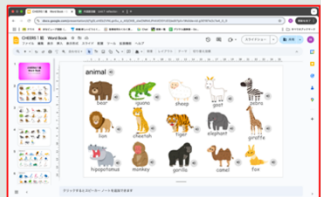
- ・ 言語活動①を試行後、本時の目指す姿として、My Goalを入力する。
- ・ 試行の際の自分の姿や課題意識を基に、Unit Goal達成のために必要なことを考えて設定する。

#### 外国語科授業における ICT 活用場面

学習過程	ICT活用場面
Small Talk	○ 前時の振り返り
Today's Goal	○ Today's Goalの入力
言語活動①	○ 課題解決のツール ○ 撮影
My Goal	○ My Goalの入力
共有タイム	○ 課題の共有 ○ 課題解決のツール
言語活動①	○ 課題解決のツール ○ 撮影
言語活動②	○ 課題解決のツール ○ 撮影
共有タイム	○ 課題の共有 ○ 課題解決のツール
言語活動②	○ 課題解決のツール ○ 撮影
振り返り	○ 自己評価(My Goalに対して) ○ 相互評価 ○ 使いたい表現 ○ 成果の共有 ○ 感想・次したいこと

- ・ 言語活動中、分からないけれど使いたいと思った表現を入力する。→ワードブックに掲載
- ・ 課題解決のツールの一つとして、ワードブックを活用する。

## ワードブックの作成・活用



- 既習の表現や、以前使いたいと思った表現について、ワードブックを活用して確認・練習する。
- ワードブックは音声絵辞書であり、クリックすると音声の流れ、発音を確認することができる。  
(アルファベットの単元で文字を追記)

## Reflectionの共有



- 一人一人の振り返りのフォルダを、子どもと共有する。(子どもは「閲覧者」)  
→友達の振り返りを見て、書き方の参考にしたり、課題だと思っていることに対して助言し合ったりすることができる。

## Googleスプレッドシートを活用した e-ポートフォリオ評価の成果と課題

### 成果

- 自分の前時の振り返りが確認しやすくなり、自己の変容を自覚することができるようになった。
- 子どもが互いの振り返りを自由に見ることができるため、参考にしたり助言を与えたりすることができ、子ども同士での学び合いが促進された。
- 「使いたい表現」を基に、ワードブックを作っていくことで、子どもの意欲に沿って課題解決のツールを活用することができるようになった。

## e-ポートフォリオ評価の今後

- パソコン操作に不慣れな子どもでも、使いやすいものに改良していきたい。
- 同じ項目を一覧で見ることができれば、より把握しやすくなるのではないかな。
- 相互評価の際、ペアのシートに入力することができればよりよい。

## 外国語科授業における ICT活用場面

学習場面	ICT活用場面
Small Talk	<input type="checkbox"/> 前時の振り返り
Today's Goal	<input type="checkbox"/> Today's Goalの入力
言語活動①	<input type="checkbox"/> 課題解決のツール <input type="checkbox"/> 確認
My Goal	<input type="checkbox"/> My Goalの入力
共有タイム	<input type="checkbox"/> 課題の共有 <input type="checkbox"/> 課題解決のツール
言語活動②	<input type="checkbox"/> 課題解決のツール <input type="checkbox"/> 確認
言語活動③	<input type="checkbox"/> 課題解決のツール <input type="checkbox"/> 確認
共有タイム	<input type="checkbox"/> 課題の共有 <input type="checkbox"/> 課題解決のツール
言語活動④	<input type="checkbox"/> 課題解決のツール <input type="checkbox"/> 確認
振り返り	<input type="checkbox"/> 自己評価(My Goal)に対して <input type="checkbox"/> 相互評価 <input type="checkbox"/> 良い表現 <input type="checkbox"/> 成果の共有 <input type="checkbox"/> 感想・楽しみに込

自己評価	理由
理由	
友達へのよき	
使いたい表現	
成果物など	
先生から	

- 自己評価(3段階)と理由
- 友達のよさやがんばり
- 次したいこと、できるようにしたいこと
- 成果物など
- 先生から

## Reflectionの共有



- Googleスプレッドシートに添付した成果物を子ども同士で見ることができるようにする。  
→友達の動画を見て、伝え方の参考にしたり、課題を共有したりすることができる。

## Googleスプレッドシートを活用した e-ポートフォリオ評価の成果と課題

### 課題

- ▲入力中に、セルの設定などを変えてしまったり、誤って全て消してしまったりすることがある。
- ▲Googleフォームのときのように自動で集計はできなくなった。(ただし、自動集計の必要性をあまり感じていない。)
- ▲友達の振り返りや成果物を見る時間を取りにくい。

## 3 実践 B: 高学年外国語科(6年) Google フォームを活用した e-ポートフォリオの実践

### 3.1 取り組みの概要

本実践では、児童が目標を形だけのものにせず、実際の学びへと結びつけることを目的に、毎時間の振り返りを徹底した。児童は、その時間でできるようになったことや難しかったこと、次回の課題について記述し、その振り返りに対して教師がフィードバックを行ったり、次の授業の冒頭で全体に共有したりすることで、課題への意識を継続できるようにした。

さらに、マイゴールや単元のゴールを定期的に確認する時間を設け、教師の声かけを通じて、児童が自ら課題を意識しながら表現活動に取り組めるよう促した。このような振り返りのサイクルを丁寧に繰り返すことで、児童が自己調整を図りながら学習に取り組む姿が見られるようになった。

### 3.2 成果と課題

本実践の成果として、児童の実態分析が容易になり、指導に生かしやすくなったことが挙げられる。教師が即時的に全体へフィードバックを提示しやすくなり、児童の学習状況に応じた指導を行うことが可能になった。また、振り返りを通じて過去の記録と比較することで、児童自身が次の課題を明確にし、自己調整を図



するためのツールとして活用できるようになった。

一方で、児童同士が互いの記録や振り返りを共有する時間を確保することが難しい点が課題として残った。また、児童の自信につながるような効果的なフィードバックの方法について、さらなる工夫が求められることも明らかになった。

### 3.3 教師の意識の変化と今後の展望

本実践を通じて、教師の意識にも変化が見られた。言語活動を行う際の目的や場面、状況をより意識した授業設計を行うようになり、単元の終末における表現や内容の評価だけでなく、児童がどのように自己調整を図っているのかに着目した授業計画・評価を行うようになった。また、児童の普段の学習記録や動画などを蓄積し、比較することで、客観的な視点から指導改善を図ることが可能になった。今後は、児童の振り返りの時間をより確保しやすくするための授業デザインを検討するとともに、児童の自信を高めるフィードバックの手法をさらに研究していく。また、自己調整を促進するための具体的な支援の在り方を探求し、児童が主体的に学びを深められる環境を整えていく。

#### 【実践 B 参考資料：事例検討会スライド資料より】

はじめに(昨年度までの取組から)

汎用的なクラウドサービス  
Google フォーム・Google スプレッドシート  
⇒ アンケート機能の活用  
外国語科の学習の振り返り・共有

はじめに(昨年度までの取組から)

児童が主体的に学ぶ姿をみとめるために

○ 振り返りシートの活用

- 単元のマイゴールの設定
- 振り返りの記述の共有

○ 一人一台端末の活用

- 話したい内容の記録(カメラ機能)

はじめに(昨年度までの取組から)

【質問項目】

チャレンジタイム  
↓  
個人での活動の把握

マイゴール  
↓  
一人一人の目標を設定

はじめに

E-ポートフォリオ(デジタル)のよさ

児童  
→ 自分の一単元のふり返りを確認できる。  
前の学びと比較し、よりよい表現に工夫できる。

教師  
→ 学びを一覧で確認できる。  
→ 指導改善に生かしやすい。

☆ 少し設定を変更するだけで、動画を友達と振り返りや動画を共有することができ、活用できる。

実践事例 指導の実際【ふり返りの場面設定】

できるようになったこと、難しかったこと、次の時間への課題などの記述

課題意識の継続  
よりよい表現に向けての工夫(自分や友達の動画からのふり返り)

できるようになったこと、...

次時のはじめに  
全体共有  
☆ 振り返った内容や動画の共有がドライブから容易にできる。

児童の表現に対する評価・指導  
☆ 録画をして児童自身が表現を振り返る  
☆ 送信された動画を全体で共有

指導の実際

振り返りシート  
マイゴールの写真の送付

今⇒ゴールの I can へ



児童自身が学習の達成度を実感できるようにした。

#### 4.2 成果と課題

昨年度の高学年での実践の成果として、教師にとっては児童の実態分析が容易になり、より適切な指導につなげることが可能になった。また、高学年の児童にとっては、過去の振り返りを比較することで次の目標が明確になり、自己調整の道具として機能し始めている。一方で、課題としては、活動に必要な時間の確保や精選が求められること、児童同士が互いの記録や振り返りを十分に活用できていないことが挙げられた。また、児童がより個に応じた適切な選択を行い、その良さを実感できる工夫が必要であることや、単元別に整理した振り返りを、年間を通じてどのようにまとめるか、学級ごとの記録の量が膨大になる点、学年をまたいだ記録の扱い方などの課題が浮かび上がった。

今年度の3年生の取り組みでは、e-ポートフォリオの活用によって児童の意欲が向上し、「もっとできるようになりたい」と試行錯誤する姿が見られるようになった。一方で、時間の確保やICTリテラシーの向上といった課題もあり、経年的に活用するためには、学校全体での取り組みが必要であると考えられる。

#### 4.3 今後の展望

学習の記録を積み重ねることで、児童が自身の成長を実感できる学びのログとしての活用を推進し、より効果的なe-ポートフォリオの運用を目指していく。

#### 【実践C 参考資料：事例検討会スライド資料より】

はじめに 主な手立て 実際 成果と課題

外国語活動入門期におけるe-ポートフォリオの活用

慣れ親しむ活動から言語活動へのスモールステップ

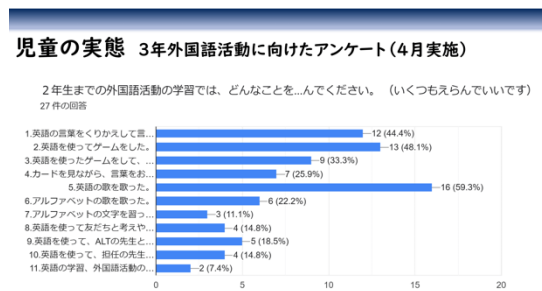
### 外国語活動入門期段階におけるe-ポートフォリオの活用

- 主体的に学習に取り組む態度
- 知識・技能 記録→記憶へ 学びログ
- 思考・判断・表現

中学年→慣れ親しみを促進 高学年につなぐ対話方略

主体的に 学びに向かう態度・意欲

“もっとできるようになりたい”



はじめに 主な手立て 実際 成果と課題

使用する汎用的なクラウドサービス for e-ポートフォリオ

【昨年度の実践から】

振り返りをformsに入力、スプレッドシートに集約

Google Classroomの[授業]に[課題]としてforms、[資料]としてスプレッドシートを投稿

授業終了、振り返りカードに言語活動や中間指導での気付きを記入

はじめに 主な手立て 実際 成果と課題

(1)実践I

(1)実践I①

単元 LT!!\_Unit2 How are you?

使用した汎用的なクラウドサービス

→Google formsからスプレッドシート

- 自己評価(4段階評価)
- 振り返りカードの画像添付



主な手立て 実際 成果と課題

(1) 実践1

(1) 実践1-②  
単元 LT!!\_Unit3 How many?

使用した汎用的なクラウドサービス  
→Google formsからスプレッドシート

- ・単元内容に応じた設問の設定
- ・振り返りカードの画像添付

主な手立て 実際 成果と課題

(2) 実践2

(2) 実践2  
単元 LT!!\_Unit4 I like blue.

使用した汎用的なクラウドサービス  
→Google classroom  
→[授業]→[課題]→[提出]

- ・単元末の自己紹介動画を提出  
(記録を記憶につなぐツール)

※ 提出する前に何度も撮り直す姿が見られた。

実践2 単元 LT!!\_Unit4 I like blue.

Unit4動画①  
26 5  
提出済み 残り当て読み  
提出を受け付けています

05\_外国語活動

- Unit4 I like blue.動画①
- Unit3 How many?外国語活動ふりかえり
- Unit2 How are you?外国語活動ふりかえり

課題なし

1. ふりがえりフォームに入力しましょう。
2. ふりがえりカードを写真にとって、ていねいにしましょう。

Google Forms: Sign-in  
<https://docs.google.com/forms>

児童1 児童2  
児童3 児童4

実践2 単元 LT!!\_Unit4 I like blue.

Unit4動画①  
26 5  
提出済み 残り当て読み  
提出を受け付けています

→ R3の1心をつないで Unit4動画① - 込

児童1 児童2  
児童3 児童4

マイドライブ\_クラスルーム\_Unit4動画①

主な手立て 実際 成果と課題

(3) 実践3

(3) 実践3  
単元 LT!!\_Unit5 What do you like?単元末

使用した汎用的なクラウドサービス  
Google スライド

- ・単元毎の動画リンクを添付  
(記録を記憶につなぐツール)

→「My words box (3年生)」  
(児童用CAN-DOリスト\_学年1枚版)

Googleスライド「My words box (3年生)」 児童用CAN-DOリスト\_学年1枚版

同じ画像を上から重ねている

この画像を選択  
→ [リンクを挿入]  
→撮影しておいた動画データのリンクをコピー&ペースト  
→担当教師も閲覧可能に [共有] 権限を追加

☆3年 My words box  
ファイル 編集 表示 挿

1

VID\_20241223\_114636.mp4

児童5 がオーナーです  
このファイルを閲覧したことはありません

3rd Grade

[今後の展望]  
自身の成長を感じられる  
経年での学びのログへ

☆My word list ☆  
ファイル 編集 表示

1

3年

6年生  
5年生  
4年生  
3年生

## [今後の展望]


主体的な学びに向かう態度を育むことで、生涯にわたって外国語（英語）を学び続ける態度を育む

	短期的（一単位時間）	中期的（単元）	長期的（単元間、年間、学年間）
Planning ・自己内省ツール ・他者参照ツール	導入／展開後段／終末	単元導入／単元終末	なりたい姿 できるよにならないうこと
Monitoring ・自己内省（現状成長可視化） ・自己調整（action）に 必要なツール ・他者参照ツール	展開	単元中盤	なりたい姿と現状比較
Reflection ・自己内省ツール （学びの言語化）	展開中段／終末	毎時間／単元終末 単元間	なった姿 できるようになったこと

はじめに 主な手立て 実際 成果と課題

昨年度の実践から～今後の展望～

- ★カリキュラムマネジメント
  - 聞くから話すへのスモールステップの中に  
学びたい6（タイム）を学習活動として単元計画に位置付ける
  - 言語活動と発問の精選
- ★友達の気持ちを学びに生かす（学習経験として）
- ★学びの指標
  - CAN-DOリスト画像リンク
  - 話題別CAN-DOリスト（トピックシート）
  - 対話を続けるコミュニケーションポイント
- ★学びのログ
  - 経年比較



はじめに 主な手立て 実際 成果と課題

成果と課題

(1) 昨年度までの成果と課題

- （教師）実態分析が容易になり、指導に生かしやすい。
- （高学年児童）  
比較することで次のめあてが明確に。道具となりつつある。

- 時間の確保及び活動の精選が必要。
- 互いの記録や振り返りが見られるよさを生かし切れていない。

※ 児童自身の選択がより個別最適化され、よさを実感できること

※ 時間の確保、単元計画のフォーマット

※ 単元別にしたが、年間通じてまとめてもよい  
個人は、昇順にすれば読みやすい。学級だと量が膨大になる。  
学年またぐときはどうするか。

はじめに 主な手立て 実際 成果と課題

成果と課題

(2) 今年度（3年生）の成果と課題

- 意欲アップ、試行錯誤する姿  
「もっとできるようになりたい」

- 時間の確保、リテラシー、  
経年でやるには学校規模で

[今後の展望]  
経年で自身の成長を感じられる 学びのログへ

## 5 まとめ

本研究は、小学校外国語教育における e-ポートフォリオの有効性と実践的運用について検討してきた。Google フォームや Google スプレッドシートなどのクラウドサービスを活用することで、児童の学びの記録と振り返りを支援する手段として有効であることが明らかになった。

実践 A では、Google フォームを利用した振り返りの実践から Google スプレッドシートを用いた方法へと移行することで、児童自身が自己の成長を意識しやすくなるという効果が見られた。一方で、ICT 機器の操作に不慣れな児童への支援が必要であることも明らかになった。

実践 B においては、Google フォームを活用することで、児童が振り返りを行いやすい環境を構築することができた。この実践により、児童の学習の進行状況をより明確に把握できるようになったが、振り返りの時間確保が課題として残った。また、児童の学びに対する自信を高める効果的なフィードバックの方法について、さらなる工夫が求められることも分かった。

実践 C では、外国語活動の入門期における e-ポートフォリオの活用を試み、児童の学習意欲向上に寄与する可能性が示された。特に、学習の記録を学びログとして蓄積することで、児童が自身の成長を実感しやすくなる効果が確認された。しかし、時間の確保や ICT リテラシーの向上が課題として挙げられ、学校全体での取り組みが必要であることが示唆された。

今後の課題として、不慣れな児童でも無理なく活用できるシステムの構築と小学生が中長期的に学習の成長を意識できるような e-ポートフォリオの運用方法の確立に向けて、さらなる実践研究を進めていきたい。

## 6 参考文献

文部科学省（2017）.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』

文部科学省.

大田亜紀・内田綾・友池奈緒・林由布子・倉田伸「プロジェクト報告 汎用のクラウドツールによるポートフォリオを活用した小学校外国語科の実践報告」（2024）.『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度評価マニュアルー学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案ー』. Pp102-114. 小学校英語評価研究会.



## 実践報告

### 「情報活用能力ベーシック」を活用した授業づくり —「聞くこと」における思考力・判断力の育成と 「話すこと」における表現力の育成のつながり—

奥平 明香（沖縄県豊見城市立ゆたか小学校）

#### 1. はじめに

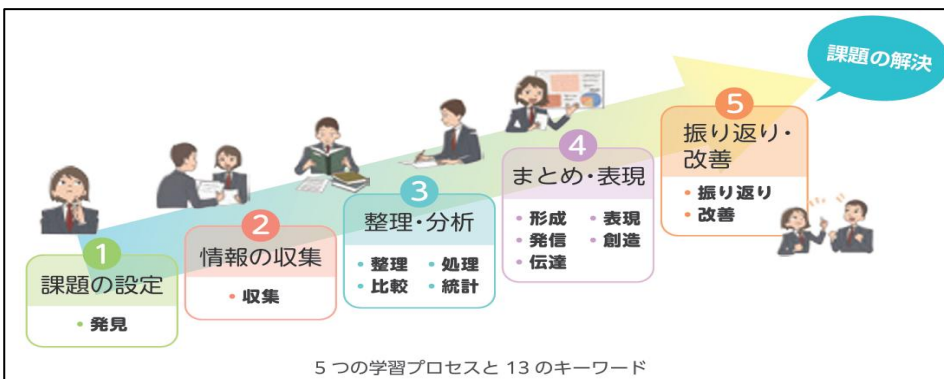
##### 1.1 実践の背景

平成29年に告示された学習指導要領において、情報活用能力は、言語能力、問題発見・解決能力と並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」の一つとして位置付けられた（第1章第2の2(1)）。また、「情報活用能力」は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力であることも明記されている。具体的には、「学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力である」ということも明確に示され、情報活用能力の育成が重要であることが叫ばれている。

##### 1.2 小学校外国語科における情報活用能力の育成

様々な情報活用能力に関する表や整理が出ているが、実際の学校現場では「分かりにくい」「使いにくい」という声が多かった。それを受け、2020年9月にJAPET&CEC日本教育情報科振興会は、全面実施された小学校学習指導要領をもとにして、「情報活用能力ベーシック小学校版」として、授業を実施する際に基本となる探究的な学びの5つの学習プロセスとして、【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り・改善】及び13のキーワード（発見・収集・整理・比較・処理・統計・形成・発信・伝達・表現・創造・振り返り・改善）から構成されている「情報活用能力ベーシック」を発表した。情報活用能力を開発・発行している（図1）。

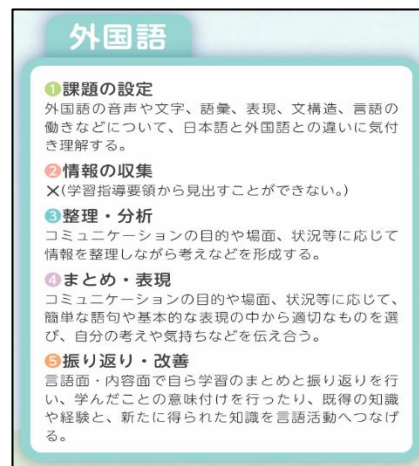
図1 情報活用能力5つの学習プロセスと13のキーワード



全国の小・中・高で、情報活用能力を育成するための授業実践が行われ、優れた実践事例が事例集として発信・共有されているが、小学校外国語科での事例は現時点では見当たらない。また、先述した「情報活用能力ベーシック小学校版」には、各教科の情報活用能力を位置づけた5つの学習プロセスの展開例において、小学校外国語科について、「情報の収集においては、学習指導要領から見い出すことができない。」と記載されている(図2)。

このことから、小学校外国語科で授業を担う教師において、指導要領が拠り所になりにくく、現場での実践が生まれにくいという原因の一つになっていることが考えられる。

図2 5つの学習プロセスの展開例



### 1.3 小学校外国語科における「情報の収集」の現状

小学校外国語科は2020年に新しい教科として位置付けられた教科であり、他の歴史が長い教科と比較して、実践事例自体が豊富ではないことから、情報活用能力と授業実践の関連付けや整理がされていない状況であろう。しかしながら、小学校外国語科では、学習者用デジタル教科書が他教科に先駆けて、全国の小学校に無償で配布された。このことにより、音声中心の小学校外国語科において、いつでも音声に触れられる機会が保障された。一人一台端末を活用した「聞くこと」の活動は盛んに行われている。つまり、「聞くこと」において「音声情報」を十分に取り入れていると考えることができる。このことは、良質な音声の取り込みにより、「話すこと【発表】」の活動(発表活動・言語活動)では、児童の思考力・判断力・表現力等をさらに充実させることに繋がるはずである。

#### ① 学習者用デジタル教科書の活用事例

令和5年1月に出版された「すぐに使える学習者用デジタル教科書活用事例集 小学校編」で示された活用事例の概要を引用し、以下に整理する。スタンダード編とエキストラ編の2事例が紹介されていた。キーワードとなる文言を抜き出し、次の表に整理する(図3)。

図3 すぐに使える学習者用デジタル教科書活用事例集 小学校編 外国語をもとに筆者作成

スタンダード編(5年生)	エキストラ編(6年生)
ねらい: 誕生日や欲しいものについて聞いたり答えたりできるようにする。	ねらい: 食材の産地を表現する言い方を学ぶ。食品・産地の語彙を使えるようになる。
1. 前時の復習 ①動画を見てQ&A ②なりきり発音練習(動画視聴)	1. 状況や話題を捉える ⑤映像を見て内容理解を行う。 ⑥映像の音声を聞いてワークにまとめる。
2. 基本表現の発音練習 ③発音練習(Let's Chant) ④表現のパターンをリズムとともに定着させる活動(Let's Chant) ⑤スピードの調整(Let's Chant) ⑥各自の練習時間(授業内) ⑦家での発音練習(宿題)	2. ターゲット文を言う活動 ⑦ターゲット文(質問の文 答えの文)の言い方練習 ⑧表現+情報Iでのパターンプラクティス ⑨Point and Say game
3. 語句の導入と発音練習 ⑧チャンツを利用した発音練習 ⑨自分のことを表す語句に入れ替えて言う練習 ⑩カルタなどのゲームを行う際に聞く活動 ⑪聞いてイラストを動かす(結び付ける)活動 ⑫ビンゴなどのゲームを行う際に聞く活動	
4. やり取りを行う場面 ⑬やり取りを行う際に、表現をモニターに映し出す ⑭やり取りの途中の発音練習	

さらに、別頁には、スタンダードな活用の4事例と、エキストラな活用の4事例がそれぞれ紹介されている。別頁の内容も合わせて整理すると、「動画を視聴して予習・復習を行う。音声教材を利用して、発音練習を行う。内容理解をする。⑳オーバーラッピング練習」という文で示されていた。活用方法をまとめると、音声を取り込む状況においては、①～㉑の活用方法が示されていた。これらの活動は、聞き慣れる活動、発話の練習活動、内容理解の3つに分類できることが分かる。

一方、現場としては、「学習者用デジタル教科書をうまく活用することができない。」「活用方法が分からない。」という声が上がっている。活用方法の提供のニーズを受け、筆者は、2024年12月8日に、光村図書主催の小学校英語オンラインセミナーにおいて、「学習者用デジタル教科書活用術の紹介」を発表している。そこでは議題の柱として、「内容理解の次のフェーズをねらった活用方法」を提案した。提案内容としては、情報活用能力の育成を目指した活用方法についての実践事例の紹介である。筆者が児童の実態を踏まえて開発した独自の活用方法であるが、児童の発話内容の変容や聞き方の方略(音声情報の取り込み方)に効果があった。

具体的には、「話し方」つまり「論の展開」にフォーカスした聞き方をすることで、聞き手の印象が変わるというものである。本稿での実践では、内容を理解した後に、次は「主語に着目して聞く」という方法をとった。このことは、自分が伝えたいことをよりよく伝えるための聞き方の工夫(方略)である。また、この聞き方は、小学校国語科では、低学年の「読むこと」で身に付けてきた方法であり、そのことを踏まえて「書くこと」においても活用している。国語科で身に付けた資質・能力を、外国語科の資質・能力と関連付けることで教科横断型の深い学びにつながる。このような視点から、小学校外国語科では「情報活用能力ベーシック 小学校版」「情報の収集」の根拠が学習指導要領上で見つけることができなかつたとしても、国語科で身に付け育んできた能力と合わせて指導することが可能であり、このことが指導の根拠となる。次に、「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」も参照する。

## ②学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン

平成30年12月に文部科学省より発行、令和3年3月に改訂された「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」の附属資料「2. 各教科等における学習者用デジタル教科書・学習者用デジタル教材の活用例」には、各教科における活用例が紹介されている。そこで、外国語【図4】と国語科【図5】の活用例を比較しながら以下に示す。

図4 附属資料より 外国語

### (5) 外国語における学習者用デジタル教科書・学習者用デジタル教材の活用例

- I. 英語を読む学習(音読)
- II. 文章を書く学習
- III. 英語を話す活動

図5 附属資料より 国語

### (1) 国語における学習者用デジタル教科書・学習者用デジタル教材の活用例

- I. 文章の構造と内容を把握する学習
- II. 言葉の響きやリズムに親しむ学習
- III. 表現を工夫して話したり、進め方を検討しながら話し合ったりする学習

本資料は、小学校に特化したものではないが、各教科の特性が顕著に表れている。ここでも、I.Ⅲ.に示されている通り、外国語の活用例は読んだり、話したりと英語(言語)を音声として表出することがポイントになっている。それに比べて国語科においては、文章の構造や表現の工夫など、言語の働きを理解し、思考しながら操作することがポイントになっている。母語と外国語という大きな違いはあるが、音声情報の取り込みの段階を内容理解から一歩進んで、整理・分析まで行うことで思考力・判断力が育成され、その過程を経て、表現・発信の際には思考の過程が発話と繋がっていく学習過程を示している。小学校外国語科においては、これまでの多くの実践事例で、聞いて分かったことを真似て言う(一部自分の事に置き換えて言う)、聞いて分かったことは内容理解としてそこで完結する。という聞くことの活動が主であった。しかし、文字でなくても音声も情報であることから、情報の収集をしたからには、他教科と同じように、その情報の整理・分析が行えるはずである。指導要領では、小学校外国語科は、思考力・判断力・表現力等の観点において、「話すこと【発表】」は、「内容を整理した上で」という文言が含まれている。筆者は、音声であっても情報の取り込み(情報収集)と発信・表現の間にある「整理・分析」の部分の見えづらさを明確にしていくことが情報能力活用と思考力・判断力・表現力等のどちらにも効果的に働きかける指導となると考えている。ここまでを踏まえると、小学校外国語科の聞くことの指導において、今後の指導改善の視点が明確になった。

これらの課題を踏まえ、本実践では、小学校外国語科の授業において、情報活用能力を育成するための具体的な授業構想を探り、実践を通して、児童の情報活用能力の育成にどのようにつながったかについて整理する。その際には、日本教育情報科振興会より開発・発行されている「情報活用能力ベーシック 小学校版」を軸に、授業を実施する際に基本となる5つの学習プロセス【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り・改善】)及び13のキーワード(発見・収集・整理・比較・処理・統計・形成・発信・伝達・表現・創造・振り返り・改善)から構成される情報活用能力ベーシックを参照する。

## 2. 実践概要

本実践において使用した教科書は光村図書 Here We Go6 の *Unit 8 My Best Memory* と、*You can do it!* 3を合わせて行った。評価領域は、「話すこと【発表】」である。次に、本実践での学習過程の概要を、先述した「情報活用能力ベーシック」で示されている5つの学習プロセス【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り・改善】の観点から、特徴的な部分を示す。

### 2.1 5つの学習プロセスを観点とした学習過程の概要(単元構成)

#### 《1》【課題の設定】

単元目標について教科書では、「思い出を共有するために、学校行事の出来事や感想を発表することができる。」と示されている。単元目標を設定するにあたり、児童の学習の自己関連性を強める手立てとして、筆者は次の工夫を行った。児童一人ひとりが単元の第1時間目に立てたマイ・ミッション(単元のゴールでなりたい自分像)を、生成AIを活用して集約した。すると、「思い出の共有と共感をテーマに、友達と協力しながら、自分達らしい方法で発表できる。」と集約された。そこで、教科の指導事項と児童が単元の学びを通してなりたい自分像を合わせて以下のように設定した。

【単元目標】思い出(したこと)を表す表現を使って、思い出の共有と共感をテーマに、友達と協力しながら、自分達らしい方法で発表できる。聞き手に楽しんでもらえるように聞き手の思い出も引き出しながら、一人一人が自分らしい内容で詳しく伝えることができる。

第2時以降は、児童と共創した単元目標を拠り所として授業を行ってきた。単元末のパフォーマンス課題は「話すこと[発表]」であり、学年全体での発表会「English Festival(教科書で提示されている会名)」にチャレンジしてみようという流れになった。本校6年生は、共有と共感を意識できるよう、「思い出シェア会」というタイトルで実施することにした。児童は、「思い出シェア会」に向けて、思い出を学級の枠を超えて学年全体で伝え合うゴールの活動について、不安交じりでありながらも楽しみにしており、学習動機の原因力となっていた。

## 《2》【情報の収集】【整理・分析】

この観点については、学習者用デジタル教材を児童が活用した「聞くこと」による情報の収集と、整理・分析を観点として実践を行った。学習過程における時間数で表すと、第3時間目と第4時間目である。本章の「2.2 実践」に、第4時間目の指導案を掲載する。また、実際の授業実践をもとにデジタル Can-Do の提案頁にも記載する。

## 《3》【まとめ・表現】

【まとめ】については、単元内の6～8時間目に、協働でのプロジェクト学習として行った。それぞれのチームが、これまでの学習経験から英語で思い出を伝える際に挑戦してみたいと思う方法で表現するための準備期間である。表現方法は Canva でのプレゼンテーションを目指した共同編集によるスライド作成や、絵本やまんがなど、それぞれのチームメンバーの得意な事や個性が活かされるよう工夫して制作している。表現方法は多様であるが、評価基準については、第5時間目に児童と共創してきた「学年ルーブリック」を用いて3観点での総括的評価を行うことを共通理解している。【表現】については、「思い出シェア会」という発表会を学年全体で体育館を使用して行った。

## 《4》【振り返り・改善】

このプロセスでは、ロイロノートを活用した「山登り型の e-portfolio」について紹介する。山登り型の e-portfolio とは、国語科の学習において紙媒体で行ってきた「ラーニング・マウンテン(樺山 2022)」を、音声を記録するために一人一台端末を活用してデジタル化し、音声記録を残すことができるようにしたデジタル版の振り返りシートの事である。毎時間の授業でも授業の終盤に行く。単元では、単元の最後に、振り返りの時間として1時間を使って単元全体の振り返りを行っている。内容は、パフォーマンスを音声で記録することと、振り返りカードに記述することである。

## 2.2 実施学年並びに実施時期,児童の学習経験

実施学年は、沖縄県公立小学校 第6学年 実施時期は令和6年度1月後半～2月(全時間)である。当該児童は、これまでに、学期に1度の発表の機会(パフォーマンス課題)やルーブリックを学級のみなどと一緒に考案してパフォーマンス課題に取り組んできた学習経験がある。また、振り返りカードと併せて、簡単な Can-Do 評価を取り入れた振り返りも継続的に行ってきた。さらに、単元計画表を教師と一緒にバックワードデザインして、毎時間の学習計画を作成するという学習経験も持ち合わせている。

## 2.3 実践内容

次に学習指導案を示しながら、実践内容に関して詳述する。



## 第6学年 外国語科学習指導案

令和7年 1月 24日(金)

ゆたか小学校 6年1組 26名

指導者 奥平 明香(専科)

### 1 単元名 U6 My Best Memory [Here We Go! 6 光村図書]

### 2 単元目標(生成 AI を活用し,児童と教師で共創)

【単元目標】思い出(したこと)を表す表現を使って,思い出の共有と共感をテーマに,友達と協力しながら,自分達らしい方法で発表できる。聞き手に楽しんでもらえるように聞き手の思い出も引き出しながら,一人一人が自分らしい内容で詳しく伝えることができる。

### 3 関連する学習指導要領における領域目標 ※下線部は指導者による加筆。(ゆたか小 CAN DO リストより)

話すこと	やり取り ※本時	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について,簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして, <u>自分らしく</u> 伝え合うことができる。
	発表 ※ 単元末	ウ 身近で簡単な事柄について,伝えようとする内容を整理した上で,自分の考えや気持ちなどを,簡単な語句や基本的な表現を用いて <u>自分らしく</u> 話すことができる。

### 4 本時のめあて「第4/9時間目時」「話すこと[やり取り]」

友だちの心に残った思い出について詳しく知るために,したことや感想などについて先生や友だちと何度もやりとりをしながら,互いの思いを尋ね合い,詳しく伝え合うことができる。

### 5 情報活用能力説明(デジタル Can-Do より)

小学校外国語では,情報を収集する場面は,音声を聞く場面,動画等を視聴する場面が主である。本実践では,後の発話につなげていく目的をもって,「聞くこと」により音声情報を取り入れる活動を行う。児童は複数の音声情報を聞き,話されている内容を理解するだけでなく,話し方による印象の違いについて比較・分析・分類を行う。自分に必要な情報を収集する場面で,1人1台端末を活用して,目的をもって,音声情報を聞き取る。次に,自分の伝えたいこと(思い出)をよりよく伝えるには,誰の話し方が参考になるかについて選択・判断する。複数の情報を比較・分析・分類しながら捉えた2つの特徴を基に,自分に必要な話し方を選択するための判断をする。自分の考えを選択・判断するために,音声情報をもとに比較・分類している場面で情報活用能力を育成する。

### 6 R6 校内研究との関連

研究テーマ「自ら考え,判断し,行動する,主体性のある児童の育成(1年次)

～自己調整学習を活かした授業デザイン 学習計画の共創と振り返りの工夫を通して～

#### ① 導入時「音声中心の指導」「見通しをもった本時の学習への働きかけ」

・児童が,本時の課題の達成に向けて,目標を持って学習に取り組むようになっているか。

#### ② 展開時「言語活動を通した指導」「学習調整」

・外国語科の本質である言語活動を通して「活用→修正→定着」していくような授業構成になっているか。

・児童が主体的な学習者となるように、教科の特質を活かした学習方略に気づきながら学べるような工夫はあるか。

③ 終末時「自律した学習者を育成するための振り返り」

・学習の到達度と学習調整の効果をメタ認知し、次時以降の学習に繋がられるような振り返りを行えるようになっているか。

④ 次の自己調整チェックリスト(木村 2023)と関連させ、児童の見取りについて視点をもった授業構想となっているか。

見通す	課題	課題理解	<input type="checkbox"/> 課題を分解していたか	<input type="checkbox"/> 分解した課題の関係を考えていたか	<input type="checkbox"/> 解決策を考えていたか	
		課題興味	<input type="checkbox"/> 課題に興味を示していたか	<input type="checkbox"/> 課題に価値を感じていたか		
	目標	目標設定	<input type="checkbox"/> 問いを広げていたか	<input type="checkbox"/> 問いを順序立てていたか	<input type="checkbox"/> 問いを絞っていたか	
		目標志向	<input type="checkbox"/> 目標がどのような能力を向上させることに結びつけているのかを考えていたか			
		結果予期	<input type="checkbox"/> 学習の最後に創り上げるもの(価値)を予想していたか			
計画	計画立案	<input type="checkbox"/> 学習活動を決めていたか	<input type="checkbox"/> 方法・方略を決めていたか	<input type="checkbox"/> 時間配分を決めていたか		
	自己効力	<input type="checkbox"/> 学習をうまく実行することができるかを考えていたか				
実行する	確認	実行確認	<input type="checkbox"/> 課題・目標を確認していたか	<input type="checkbox"/> 方法・方略を確認していたか	<input type="checkbox"/> 時間配分を確認していたか	
		自己指導	<input type="checkbox"/> 自分に質問するようにして学習の進捗を確認したり、内容の理解を深めようとしたりしていたか			
		自己記録	<input type="checkbox"/> 学習の進捗について確認したことや、学習中に大切だと思ったことを記録していたか			
	調節	意識観察	<input type="checkbox"/> 学習に向かう自らの意識(気持ち)を確認しようとしていたか			
		実行調節	<input type="checkbox"/> 課題・目標を調節していたか	<input type="checkbox"/> 方法・方略を調節していたか	<input type="checkbox"/> 時間配分を調節していたか	
		興味促進	<input type="checkbox"/> 困難な課題をやりがいのある挑戦に転換しようとしていたか			
振り返る	評価	自己評価	<input type="checkbox"/> うまくいったことが何かを考えていたか			
	帰属	原因帰属	<input type="checkbox"/> 評価結果の理由を考えていたか			
	自己満足	<input type="checkbox"/> 自らの学習結果に納得した上で、その後の学習に活かそうなことについて考えていたか				
適用	適用	<input type="checkbox"/> 次の学習にどう活かすかを考えていたか				

7 本時の展開と評価 「第4/9時間目」 本時の主な活動【話すこと「やり取り」】

過程	児童の活動 ●情報活用能力 basic	指導者の活動	【評価方法】・形成的評価を行う。 ※自己調整学習チェックリスト
導入 7分	◇目標再確認 ◇めあての確認	・共創した単元目標を児童と再確認する。 ・単元計画表を提示して全体で確認する。	※目標理解 ※課題理解
	め: 友だちの心に残った思い出について詳しく知るために、したことや感想などについて先生や友だちと何度もやりとりをしながら、互いの思い出を尋ね合い、できるだけ詳しく伝え合うことができる。		
	◇やり取り①A (S-S) ◇自己目標の設定 ●①課題の設定	・Let's Listen を用いて本時の課題を捉えさせる。 ・本時のめあてに対し、自分の課題を児童自身が把握する機会を設定する。 ・自分の発話を把握する機会を設定する。 ・全体的な課題を取り上げ、修正指導を行う。 ・Can-Do 尺度から各自到達したい段階を選び、自己目標を明確にもつ時間を設定する。	【観察】※自己評価・メタ認知 ・全体的な課題を把握する。 ・やりとりで課題を抱えている児童を把握する。 【観察】※課題興味・目標志向 ・到達したい段階に印をつけ、自己目標を明確にしているか。
展開 30分	◇リスニング活動 ●②情報の収集(国) ●③整理・分析(外・国)	・自分の思い出で、特に伝えたいことは何かを意識しながら、Let's Listen やオリジナル音声を聞き、複数人の思い出について、伝わり方の印象の違いを捉えながら聞く。 ・特に伝えたいことを、相手に分かりやすく伝えるには、誰の伝え方が参考になるか比較・分類させ、端末	【観察】 ・伝えたいことを表すために、どのように話すと良いか、内容改善のためのイメージをもつことができたか。 ・話し合いの内容や、デジタルカードを見てどこに着眼して聞いているかを

	<p>◇やり取り②B・③C</p> <p>●④表現(外・国)</p> <p>◇学習調整</p> <p>●②情報の収集(国)</p> <p>●③整理・分析(外・国)</p> <p>◇やり取り④D</p> <p>●④表現(外)</p> <p>◇やり取り⑤A</p> <p>●④まとめ(外)</p>	<p>上のデジタルカードにメモを記入し、ペアで話し合っ て分析しながら自分の伝えたい内容を明確にする 機会を設定する。</p> <p>・伝えたい思い出を、聞き手に分かりやすく詳しく話す ための、やり取りを行う場面を設定する。</p> <p>・発話の困り感に応じて中間指導を行う。</p> <p>・中間指導後は、ペアを替えて再度やり取りを行う機 会を設定する。</p> <p>・学習調整の目標(目的・方法)を立てる機会を設定 する。</p> <p>・学習調整の方法を選択決定させ、自己課題の解決 に向かう機会を設定する。</p> <p>・自分の思い出で、特に伝えたいことは何かを意識し ながら、登場人物や担任たちのオリジナル音源を聞き、複数人の思い出について、再度、伝わり方の印象 の違いを捉えながら聞く。</p> <p>・特に伝えたいことを、相手に分かりやすく伝えるに は、誰の伝え方が参考になるか比較・分類させ、ペア で話し合って分析しながら自分の伝えたい内容を 明確にする機会を再度設定する。</p> <p>・比較や分類は思考ツールを使うこともすすめる。</p> <p>・自分の伝えたいことが詳しく伝えられているかを把 握する機会を設定する。モデルとなるペアを全体で 共有する。</p> <p>・最初のペアでやりとりをし、互いの学習状況を共有 させ 協働的な振り返りを行う機会を設定する。</p>	<p>把握する。</p> <p>【観察】</p> <p>・児童の様子を見取り、発話内容から、 中間指導の内容を決定する。</p> <p>【観察】※目標志向・実行調節・援助要請</p> <p>・自己課題解決のための効果的な学 習方法/方略を選択・実行している か。</p> <p>・比較はベン図、分類は X チャートや Y チャートなど、目的に応じたツールを 選択しているか。</p> <p>【観察】※モデリング</p> <p>・友達の発話の良さに気づき、自分の 発話の参考にしようとしているか。</p> <p>【観察】※他者評価・自己評価(尺度評価)</p> <p>・学習調整が行えたかを認知してい るか。</p>
<p>終末 8分</p>	<p>◇振り返り</p> <p>●⑤振り返り・改善 (外)</p> <p>・音声記録</p> <p>・e-portfolio に振 り返りを記入し、ロイ ロノートに提出する。</p>	<p>・言えるようになったことを音声で記録する時間を設 定する。</p> <p>・本時の到達状況と学習方法を振り返る時間を設定 する。(学び方でうまくいったこと・いかなかったこと・ 理由や原因・今後どうするか)</p>	<p>【行動観察】</p> <p>※自己記録・自己評価・原因帰属・適用</p> <p>・最終発話を基に、学習状況の把握が 行えているか。</p> <p>【授業後の学習状況の把握】</p> <p>・学習の到達状況の把握と、学習方略 の状況や効果を把握し次時以降の 指導改善に生かす。</p>

## 8 本時の評価(形成的評価・教師の見取りの視点として)


本時では、「話すこと[やり取り]」の言語活動を通して、自分の思い出をより詳しく表すための基本的な語句や表現を増やしていくことがねらいである。そのため、児童が音声を聞いて情報を収集する際は、後の発話につなげていく目的をもって、情報を取り入れる活動を行うことができるようにする。そうすることで、児童は、聞く目的をもって、複数の音声情報を聞き、内容理解と合わせて、話し方による印象の違いについて比較・分析・分類を行いやすくなる。自分の伝えたいことをよりよく伝えるには、誰の話し方が参考になるかという観点で、音声情報を比較・分析しながら特徴を捉える。

自分に必要な話し方を選択するための判断基準をもつ機会を設定した上で、やり取りを行うことにより、情報活用能力を活用しているかについて形成的評価を行うことができる。

## 9 児童の分析メモと振り返りシート

音声を聞いて内容理解した上で、その情報を基に分析したメモシートと振り返りシートを紹介する。





### ① A先生と、B先生を選択して分析した児童の分析メモ「主語」(タイピング)

	<p>分析メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• we</li> <li>• my</li> <li>• we</li> <li>• i</li> <li>•</li> <li>•</li> <li>•</li> </ul>
	<p>分析メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• we</li> <li>• i</li> <li>• my</li> <li>• i</li> <li>• i</li> <li>•</li> <li>•</li> </ul>

**④【やりとり】友だちの心に残った思い出について詳しく知るために、したことや感想などについて先生や友だちと何度もやりとりをしながら、互いの思いを尋ね合い、詳しく伝え合うことができる。**

第4時間目 今の自分に近いところを〇でかこう!!【やりとり繰り返せカ】

お互いの共有したい小学校の思い出についての考えや思いを伝え合うために

④	思い出について出来事や感想などについて 友だち(登場人物)の伝え方を参考に改善し、前回より詳しく伝えることができた。	
③	思い出について出来事や感想などについて 前回より改善した内容で、内容のだいたいを伝えることができた。	
②	思い出について出来事や感想などについて 自分の伝えたい内容で、少し話すことができた。	
①	自分の伝えたい内容で話すことが、今はまだできなかった。	

今日言えるようになったこと(録音・録画)

学習調整タイムの自分のめあて  
※メニューから選んだり自分の方法でレベルアップする。どんな目的で行うか。

**まだできていない部分があるので、喋って、口をならしたい!!**

学習調整タイムのめあて達成のために取り組んだ方法で、改善できたか?

いっぱいしゃべ

使っていきたいことBANK

学習調整タイム・メニュー

- ①チャンツを聞く・チャンツを真似て歌う
- ②ヒントカードを聞く・シャドウイングする・自分の言葉に言い替えて言う
- ③PD(単語ページ)で言葉調べる
- ④ストーリーで表現の言い方を調べる
- ⑤リスニング問題を聞いて話す内容を増やす
- ⑥世界の友だちを見て内容をふくらませる
- ⑦別の教科書を使う
- ⑧先生と一緒に練習する
- ⑨友達とやりとりや発表練習をする
- ⑩その他自分のアイデアを学び方のアイデア





### ② A先生と、C先生を選択して分析した児童の分析メモ「主語」(手書き)

	<p>分析メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• We</li> <li>• my</li> <li>• We</li> <li>• I</li> <li>•</li> <li>•</li> <li>•</li> </ul>
	<p>分析メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• We</li> <li>• I</li> <li>• We</li> <li>• MY FROST</li> <li>• I</li> <li>• We</li> <li>• I</li> </ul>

④【やりとり】友だちの心に残った思い出について詳しく知るために、したことや感想などについて先生や友だちと何度もやりとりをしながら、互いの思いを尋ね合い、詳しく伝え合うことができる。


第4時間目 今の自分に近いところを○でかこう!!【やりとり練習上げカ】

お互いの共有したい小学校の思い出についての考えや思いを伝え合うために

④	思い出について出来事や感想などについて 友だち(登場人物)の伝え方を参考に改善し、前日より詳しく伝えることができた。	
③	思い出について出来事や感想などについて 前日より改善した内容で、内容のたいを伝えることができた。	
②	思い出について出来事や感想などについて 自分の伝えたい内容で、少し話すことができた。	
①	自分の伝えたい内容で話すことが、今はまだできなかった。	

- 学習調整タイム・メニュー
- ①チャントを聞く・チャントを真似て歌う
  - ②ヒントカードを聞く・シャドウイングする・自分の言葉に言い替えて言う
  - ③PD(単語ページ)で言葉を調べる
  - ④ストーリーで表現の言い方を調べる
  - ⑤リスニング問題を聞いて話す内容を増やす
  - ⑥世界の友だちを見て内容をふくらませる
  - ⑦別の教科書を使う
  - ⑧先生と一緒に練習する
  - ⑨友達とやりとりや発表練習をする
  - ⑩その他自分のオイスな学び方のアイデア

今日言えるようになったこと(録音・録画)



学習調整タイムの自分のめあて  
※メニューから選んだり自分の方法でレベルアップする。どんな目的で行うか。

友達とやりとりをすることで、やり取り力を上げることを目的で行う。

学習調整タイムのめあて達成のために取り組んだ方法で、改善できたか?

いい感じに言えるようになった

使っていきたいことBANK



- ・エイサーの練習をした
- ・難しかった
- ・〇〇が教えてくれた。
- ・とても素晴らしい方だ
- ・エイサーを楽しんだ







- ・A先生のサポートをした
- ・楽しかった

④【やりとり】友だちの心に残った思い出について詳しく知るために、したことや感想などについて先生や友だちと何度もやりとりをしながら、互いの思いを尋ね合い、詳しく伝え合うことができる。

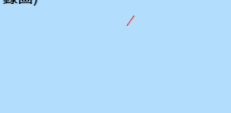
第4時間目 今の自分に近いところを○でかこう!!【やりとり練習上げカ】

お互いの共有したい小学校の思い出についての考えや思いを伝え合うために

④	思い出について出来事や感想などについて 友だち(登場人物)の伝え方を参考に改善し、前日より詳しく伝えることができた。	
③	思い出について出来事や感想などについて 前日より改善した内容で、内容のたいを伝えることができた。	
②	思い出について出来事や感想などについて 自分の伝えたい内容で、少し話すことができた。	
①	自分の伝えたい内容で話すことが、今はまだできなかった。	

- 学習調整タイム・メニュー
- ①チャントを聞く・チャントを真似て歌う
  - ②ヒントカードを聞く・シャドウイングする・自分の言葉に言い替えて言う
  - ③PD(単語ページ)で言葉を調べる
  - ④ストーリーで表現の言い方を調べる
  - ⑤リスニング問題を聞いて話す内容を増やす
  - ⑥世界の友だちを見て内容をふくらませる
  - ⑦別の教科書を使う
  - ⑧先生と一緒に練習する
  - ⑨友達とやりとりや発表練習をする
  - ⑩その他自分のオイスな学び方のアイデア

今日言えるようになったこと(録音・録画)



学習調整タイムの自分のめあて  
※メニューから選んだり自分の方法でレベルアップする。どんな目的で行うか。

まだ言い慣れていない単語や言い方があるから。

学習調整タイムのめあて達成のために取り組んだ方法で、改善できたか?

先生に言い方を聞いて、順番を見直すことができたから、友達だけでなく先生に聞くことも大切だと分かったから、次からわからない単語などがあつたら積極的に先生に聞いて覚えたい。

使っていきたいことBANK

3 i can go home  
4 i like good bye time  
how was it  
2 my Friend ○○ i like ~  
1 i enjoy every day good bye time

## 10 単元のゴールで児童が行った発表方法

言語面を活かした発表を得意とする子

- ①言葉だけで伝える(やりとり型)。 ②やりとり調のクイズで伝える。

ICTを活用した視覚資料を作成して発表を行う子

- ③Canvaでプレゼンを行う。  
④Canvaで実際の写真を使って画像編集し、アルバム(具体物)にしてShow&Tellを行う。  
⑤Canvaでマンガを作成して読んでもらったり、読んであげたりする。



### 絵やイラストが得意な子

- ⑤手書きのオリジナル絵本にしてストーリーテリングをする(表紙のみ画像生成)。
- ⑥絵本(ミニ・ブック)にして読んでもらう(読んであげる)。
- ⑦手書きのまんがを作成し読んでもらう(読んであげる)。

### ダンスが好きで身体表現が得意な子

- ⑧英語で歌詞を書いて、音楽(生成 AI 活用)にしてダンスで伝える。(歌詞は読んでもらう。観客にプレゼントする。)

## 11 単元のゴール「思い出シェア会」

単元のゴールとして、You can do it!で紹介されている「English Festival」を本校では、「思い出シェア会」というタイトルで開催した。このことにより、児童と共創した単元目標が達成されると考えたことによる。また、学年全体での発表会にすることで、思い出を伝える機会を通して、「共有」だけでなく反応し合いながら「共感」もできると考えたからである。「共感」というキーワードは、生成 AI を活用して要約したときに出てきた言葉だが、「English Festival」を開催することで達成できた。さらに、進学先中学校の ALT と中 I 担当英語教諭も参加し、やり取り型の発表に参加したり、後半の舞台発表の後には、英語によるコメントを伝えたりした。中学校の先生方に認めってもらったことで、児童にとって、大きな自信につながったと考える。教師側は、児童の具体的な姿を共有することで、小中連携にもつなげることができた。思い出シェア会の参観後、中学教師からは、手作りの感想動画が届いた。児童はその動画を視聴し、思い出の共有ができたこと、また、中学校教師にも共感してもらえたことを実感でき、とても喜んでいた。すぐに、お礼の手紙を書き、こちら側の思いも届けることができた。

### ①「思い出シェア会」の様子

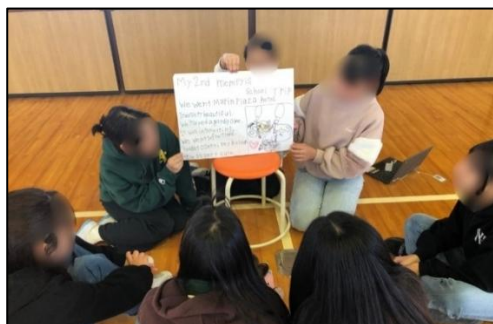
\* 英語で歌詞を作成、音楽(生成 AI)にしてダンスで表現する様子



\* Canva を活用して中学教師と対話型表現をする様子



\* オリジナル絵本でストーリーテリングをする様子



\* 漫画にして読んでもらう様子

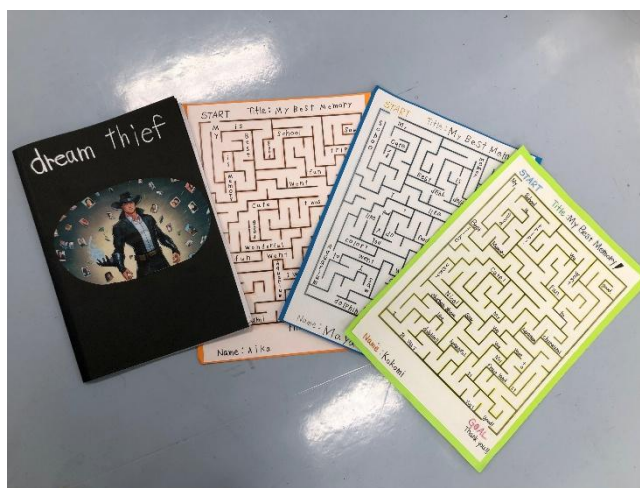


## ② 児童の作品 (一部紹介)

\*手のひらサイズのミニブック



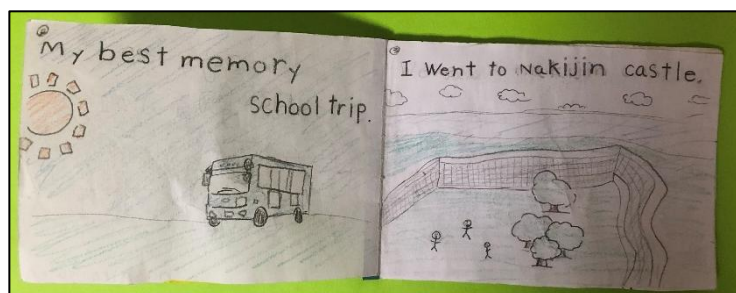
\*オリジナル絵本(左) \*迷路に英作文



\*手書きのまんが



\*ミニブック



## ③ 児童の振り返り(単元全体の振り返り)

- ①この単元でできるようになったこと(身についたこと)
- ・ 見ている人を意識しながら発表できるようになった。
  - ・ 自分の言いたい場面を英語で言えるようになった。
  - ・ 話題にあわせて深ぼり型、広がり型を使い分けれるようになった

- ②この単元で特に工夫したこと
- ・ 声量や、プレゼンテーションの字の大きさを調整した。
  - ・ シャドウイングを使って言えるようにした。
  - ・ アニメのkazuのセリフを聞いて自分の考えに近いものを自分の言葉に変えて発表できた。

- ③マイミッションに対する振り返り(最初に立てたマイミッションは、自分の目指す姿として有効だったか?)
- ・ 何度も練習したおかげで声量、発音ははっきりできた
  - ・ 英語的なめあてを次からはたてるようにしたい。

- ④思い出シェア会を振り返って、(感想やみんなに伝えたいこと)
- 声量、発音は良かったけど、止まってしまったところがあった。

- ①この単元でできるようになったこと(身についたこと)

スペルや、みんなの前で発表する事ができるようになりました。

- ②この単元で特に工夫したこと

Iとweの使い分けを頑張りました

- ③マイミッションに対する振り返り(最初に立てたマイミッションは、自分の目指す姿として有効だったか?)

絵本を可愛く完成できたし、堂々と発表できたので、とてもいいと思います。

- ④思い出シェア会を振り返って、(感想やみんなに伝えたいこと)

いつもの授業だと、途中で、つまんないってなるけど、この授業は、自分が好きなことなので、楽しかったし、発表する力がついていいと思います。

①この単元でできるようになったこと(身についたこと)  
迷路だったので書くこと読むこと、どっちも身につくことができた  
自分で英語の文を書くことが前よりとてもレベルアップした

②この単元で特に工夫したこと  
自分だけの話ではなく、皆としたこと(We)や友達がしたこと  
(My Friend)について話したこと  
相手に伝わるように相手が見えやすい位置や声の大きさを調節した

③マイミッションに対する振り返り(最初に立てたマイミッションは、自分の目指す姿として有効だったか?)  
発表では練習したとおり答え発表を相手に伝わるように説明することができた。ミッション以上にしっかり声の大きさや正解発表の時に相手にわかりやすく伝わるように意識してしっかり発表する事ができた。

④思い出シェア会を振り返って、(感想やみんなに伝えたいこと)  
学年みんなで交流するのは初めてで緊張したけれど、練習通りにしっかり聞こえる声で、説明することができた。  
でも、所々忘れてしまうところがあったけれどもしっかり思い出して発表する事ができました。

①この単元でできるようになったこと(身についたこと)  
人に質問する力が身についた。自分の最高の思い出を言えるようになった。やったことその感想をマスターした

②この単元で特に工夫したこと  
相手に呼びかけたり自分の感想を積極的に言うようにした

③マイミッションに対する振り返り(最初に立てたマイミッションは、自分の目指す姿として有効だったか?)  
マイミッションに対して達成できたと思う。自分なりに表現して発表できた。

四思い出シェア会を振り返って、(感想やみんなに伝えたいこと)  
みんなレベルが高くてびっくりした。みんなに追いついたり追い抜いたりするもくひょうができた。

#### ④中学校教師から届いたサプライズ動画と視聴後に児童が書いたお礼の手紙

\*中学校の正門前で撮影して下さった感想動画



\*児童が書いたお礼の手紙

Dear Meraku&Kansaku  
I want study English hard

今回は、思い出シェア会に来てくれてありがとうございます。今回のシェア会で相手と英語でコミュニケーションを取ることができるようになりました。中学校でもいろんな英語を学んで人とも関わっていきたいです。「。。」

Dear meraku&kansaku

I want to enjoy JHS life.

I want to study English hard in JHS.

メラク先生、かんさく先生来てくれてありがとうございます。私のマイミッションやプレゼンテーションを聞いてくださりありがとうございます。とても褒めてくれて嬉しかったです。メラク先生やかんさく先生のお陰で、相手により伝わるように工夫することができました。ほんとにお世話になりました。中学生になっても頑張るのでもよろしくお願いします。



メラク先生、かんさく先生、思い出シェア会に来ていただきありがとうございます！早く中学校レベルの英語を読んだり書いたりしてみたいです。中学校では難しい単語が出てきそうなので練習しておきます(-ω-;) また中学校で会いましょう～！



## 2.4 実践の成果と課題今後の展望

情報活用能力ベーシックを活用した授業づくりの成果として、児童は、発話に繋げていく目的をもって、必要な情報を聞き取ることを意識することができた。第3時間目、第4時間目の例でいうと、「主語に着目して聞く」ということを意識して聞くこと(情報の収集)を行うことができた。また、聞く時のポイントを自分で判断し、「主語」ではなく、「動詞(したこと・出来事)」に着目して聞いた児童もいる。自分に必要な情報を収集するという視点が明確であれば、聞く時のポイントを児童自身が選択・判断することは重要である。一方で、外国語科の特徴として、聞いて分かった、整理・分析することができたからと言って、即座に流暢に口から出てくるわけではない。この思考と発話のギャップが当事者にとってはもどかしい点であり、外国語科の学びがいのある点でもある。

本時の聞くことによる情報の収集・分析する力が、発話の場面では、「自分の伝えたいこと・共感し合いたいこと」の意図につながり、話す内容が整理された上で言葉や表現にこだわりながら発話に向かう原動力となる。各自、粘り強く学習調整を行うなど、主体性の育成にもつながることを期待する。また、情報活用能力ベーシックを軸として、自分自身の学習指導過程を見直すことで、身に付けさせたい力に向かう流れとなっているか、情報活用能力を育成できる学習となっているかについて分析することができた。本実践を通して、単元全体でも、5つのプロセスの流れはあるが、1時間ごとの授業でも5つのプロセスが位置付けられていれば、情報活用能力を育成できることがわかった。事例の少ない小学校外国語の実践においては、後の授業構想のために大きな示唆を得ることができた。課題としては、比較・分析・分類などの思考場面で、児童が思考ツールを活用できるよう日々の授業で活用方法や活用の効果を実感させておくことが必要である。時間配分の都合上、その場面を割愛することになったが情報活用能力を育成する大切な機会を一つ失ってしまったことが課題である。

## 3. 謝辞

本研究に当たっては関西学院大学の泉恵美子先生、東海大学の長沼君主先生、岐阜聖徳学園大学の加藤拓由先生、放送大学の佐藤幸江先生、放送大学の中川一史先生、小学校評価研究会(EASEL)の先生方から貴重なアドバイスやご指導を頂きました。ここに改めて感謝申し上げます。

## 4. 参考文献など

泉恵美子他『デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と自律的な態度を育む外国語科の評価』

2022年度～2025年度 科学研究費補助金 基盤研究(B)研究成果中間報告書。

樺山敏郎(2024).『学びの文脈』明治図書。

木村明憲(2023).「自己調整学習チェックリスト ver.2」AK-Learning-Teaching materials Site-

<https://drive.google.com/file/d/18hsinoqnhdMVyJ72jtACnBJ3qF4gVjXz/view>

木村明憲(2024).『自己調整学習チェックリスト』さくら社。

日本教育情報振興会(2021).『小学校版 情報活用能力ベーシック』日本教育情報振興会。

日本教育情報振興会(2024).『情報活用能力を育む授業づくりと論理情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集』日本教育情報振興会。

公益財団法人教科書研究センター(2023).「すぐに使える学習者用デジタル教科書活用事例集(小学校編)」

公益財団法人教科書研究センター(2024).「すぐに使える学習者用デジタル教科書活用事例集(中学校編)」

文部科学省(2018).「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」

文部科学省(2024).「情報活用能力育成のためのアイデア集「情報活用能力調査」の結果から見る指導改善のポイント(2025年3月改訂)」

文部科学省(2017).『小学校学習指導要領(平成29年告示)』文部科学省。



## 実践報告

### 学習者用デジタル教科書を活用して児童の思考力・判断力・表現力を育む —Here We Go! 6 UNIT7 “My Dream.” 教師の挑戦—

幡井 理恵(昭和女子大学附属昭和小学校)

#### 1. はじめに

##### 1.1. 2024 年度の実践報告から

本実践の対象者である6年生は、2019年度に入学した学年である。この年の児童といえば、年度末にコロナによる突然の休校によってまとめができないまま1年生を終了し、進級後もオンライン授業や分散登校が行われた子どもたちである。従って、中には低学年で小学校生活の基本的なこと（例えば授業開始時刻には席に着く、授業で使用する教科書・ノートを揃えるなど）ができていないまま、その後の学校生活を過ごしてきた児童もいる。筆者は、この学年の児童を、中・高学年になっても、言われればできるが、言われないとできないというのが課題であると認識して指導を行ってきた。また、学習中に少し難しい課題が出された際には、タブレットで別のことをして課題に取り組もうとしない児童も見られた。

本校は幸いなことに、低学年から週2コマの英語の授業を行っているため、文部科学省の定めている外国語活動・外国語の授業時数210時間よりも多く授業時数を確保することができている。日本人専科教員が指導して授業を行うことで、授業時間内に英語力を高めるのはもちろんのこと、6年間で児童が学習者としてどのように学びに関わっていくのか、その中でも特に小学校段階で育成すべき「学びに向かう力」の育成について意識して指導を行ってきた。具体的には、昨年度5年生時の実践を「学びを促すための教師の働きかけと児童の変容—光村図書 *Here We Go! 5 Unit 5 “He can run fast. She can do kendama.”* と *Unit 9 “My hero is my brother.”* をつないで—」（幡井・人見、2024）として、『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案～』（泉、2024）に報告している。その中では、光村図書 *Here We Go! 5 Unit 5 “He can run fast. She can do kendama.”* の学習において、教師が学び方の例を示しながら学習を進めていき、児童自らが自分の成長を振り返って *Unit 9 “My hero is my brother.”* の学習につなげていった結果、児童がどのように変容していったかを示している。本実践は、その学年が6年生になって学習する際に、授業内でデジタル教科書をはじめ学習支援ツール等のデジタル機器をどのように活用して学びを進めているか、どのような場面で思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学びに向かっているか、その成長を報告するものである。

##### 1.2. 6年生までの指導の実態

6年生での英語学習の成果は1年間の指導だけで得られるものではなく、少なからずそれまでに指導に携わってきた指導者の影響を受けるものと考えている。従って、対象者が今までどのような指導体制で英語の授業を受けてきたかを記しておきたい。対象者は、前述の通り、コロナ禍の影響を大きく受けた学年である。また、低学年から中学年の間は、外国人教員が主導して授業を行ってきた。これは、英語の指導は外国人教員が行うことが私学の売りだという学園側の意向が大きく影響している。しかし、コロナ禍でのオンライン授業においては、画面から英語は聞こえてくるものの、それが自分に向



けて話されているという認識が低かったり、分からない場合でも確認することができなかつたりして、意味理解が十分になされないまま授業が進められていた可能性も否定できない。また、指導者側にも課題があったことも一つの要因と考えられる。2020年度に新規採用された外国人教員に対しては、十分な研修時間が確保できないままオンライン授業がスタートした。その影響で、ゲーム的な要素の強い活動を並べた授業構成になっていたという反省もある。そういった事情を鑑み、検定教科書を使用する5年生からは日本人教員が主導し、その都度過去の学習のふり返し（診断的評価）を行いながら、児童が達成感や自己効力感を育てていけるよう気を配ってきた。

### 1.3. 検定教科書の改訂

2020年度の教科化から5年目を迎える2024年度は、検定教科書改訂の年であった。従って、対象者は5年生の時に光村図書 *Here We Go! 5*（令和2年度版）、6年生では光村図書 *Here We Go! 6*（令和6年度版）を使用している。本校の6年間のカリキュラムとの整合性を保つために、既習単元及び既習事項を精査したのが表1である。

表1 光村図書 *Here We Go! 6*（令和6年度版）と本校カリキュラムのすり合わせ結果

検定教科書の単元	光村図書 <i>Here We Go! 5</i> （令和2年度版の単元）と本校カリキュラムでの既習事項	6年生で実施すべきもの
Unit1 This is me.		○
Unit2 Welcome to Japan.	Unit6 I want to go to Italy.の後に学習済み	
Unit3 What time do you get up?	Unit4 What time do you get up?	
Unit4 My Summer Vacation	5年時の夏休み後に学習済み	
Unit5 We live together.		○
Unit6 I want to go to Italy.	Unit6 I want to go to Italy.	
Unit7 My Dream		○
Unit8 My Best Memory		○

上記すり合わせの結果から、令和6年度版の検定教科書の単元のうち、表の右に示した4単元のみが未習の単元となった。従って、本校ではこの4単元に時間をかけることができるようになったほか、検定教科書の学習に関連する内容を広げて学習することも可能となった。本実践報告では、6年生で実施した授業の中からUnit7 My Dreamでデジタル教科書をはじめ、他のデジタル教材をどのように組み合わせさせていったか、またその際に指導者がどのように学びの支援を行ったかを記す。

## 2. *Here We Go! 6* Unit 7 “My Dream.”の実践

### 2.1. 単元について

この単元は、文部科学省の指導書 *We Can! 2* を使用していた時期から扱われていた単元で、小学校生活の思い出を英語で振り返った後、中学校進学に向けて将来の夢を発表するという一連の流れの中で指導されてきていたものである。小学生にとって身近で想像しやすい事柄であることから、令和6年度版の各社の検定教科書でも扱われているものである。

本校が使用している教科書の R6 年度版 *Here We Go!6* (光村図書出版) でも、6 年生の 3 学期に行う単元として扱われている。なお、指導書に記されている単元目標と領域別目標は次の通りである。

単元目標：自分の将来について考えるために、「夢宣言」をすることができる。

領域別目標：【読む】「夢宣言」から、したいことを等を読み取ることができる

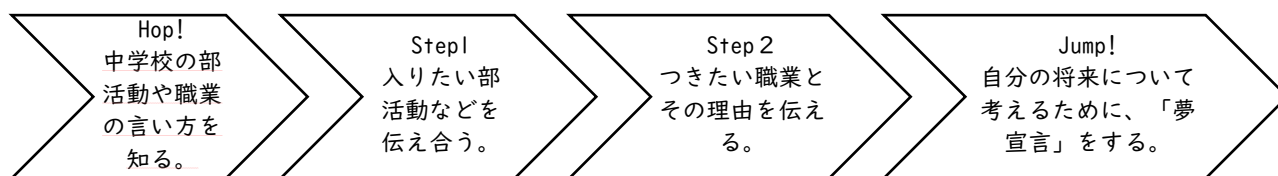
【書く】中学校生活の「夢宣言」を書くことができる。

【話す（発表）】中学校生活の「夢宣言」をくわしく発表することができる。

R6 年度版 *Here We Go!6* (光村図書出版) 指導書より

最終活動は「自分の将来について考えるために、夢宣言をする」発表活動となっている。この目標を達成するために、教科書では以下のように学習の流れ（表 2）が設定されており、単元の配当時間は 7 時間、3 時間目の Step1 Let's Read and Write には中学校でしたいことを伝える文を読むことや書くことが含まれている。また、6・7 時間目には、Let's write and speak. として、教科書を見直すなどして使える表現を探して「夢宣言」を書いた後、書いたことがらについて詳しい発表をするというように、音声と文字が統合して扱われている。

表 2 単元の流れ



## 2.2. 将来の自分をイメージ化できるようにするための言語活動（教師自作の教材）

この単元の以前からの課題としては、小学校段階で夢が決まっていない児童がいること、人前で発表することに難しさを抱えている児童がいること、学校によっては時期的に中学校受験で欠席児童が多い状態があるなど、いくつか課題が表面化していた単元である。そこで、本校では児童の実態に合わせて、いくつかの指導上の工夫を行った。まず、教科書の Hop! 「中学校の部活動や練習の言い方を知る」の活動として、身近な教員の昔の姿を提示した。これは、将来の自分をイメージするために、これから学習する内容に興味を持たせたいと考えたからである。

### (1) 写真を使った T⇔S のやり取り

T: (図 1 に提示した指導者の小学校 6 年生の時の写真のスライドを見せて) My father took this picture thirty-five years ago. Who is this? と問いかける。

S: 先生の昔の写真?

T: Yes, that's right. You can see 12 years-old Hatai sensei.

Ss: え？本当に？ Really?  
 T: (まだ写真全体は見せないで、左側の母親の顔を提示)  
 Ss: 誰？ Who? え？先生じゃないじゃん。  
 T: This is my mother.  
 Ss: Mother? 先生のお母さん？  
 T: Yes. And this is me! (右側も見せる)  
 Ss: えー!?!これ本物？似てるー！(など様々な反応)

昔の写真について少し英語でやり取りをした後、続いて指導者が児童と同じ年齢の時に抱いていた夢の話を伝えた。



図1 指導者の昔の写真

T: (写真の中の自分を指して) What does she want to be? Can you guess?  
 Ss: Teacher! Doctor! パン屋さん！花屋さん！お嫁さん！(当てようと口々に答える。)  
 T: No! Please look at this 漢字. (「飛」と「導」という漢字を見せる)  
 Ss: あ、Pilot! CA!  
 T: (写真の中の昔の自分を指さして) She wants to be a traffic controlor.  
 S: あ、飛行場の塔みたいなところにいる人だ！

このようなやり取りを続け、指導者が今の年齢になるまで、小さな夢をずっと持ち続けてきたことを伝えた。それをまとめたのがオリジナルのスライド教材(図2)である。指導者の小学校6年生の時の夢や、今の夢を聞くことによって、聞き取ることができたという知識・技能だけではなく、夢は小さなものでも良いということ、どの年齢になっても夢は持ち続けられるということ、年齢を重ねる中で夢は変わっていく

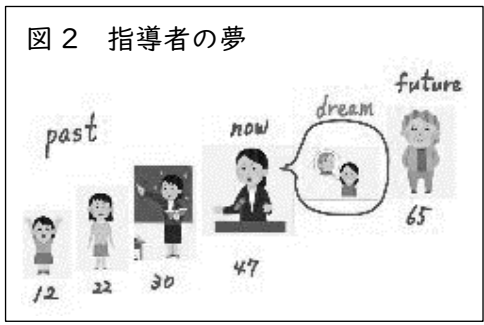


図2 指導者の夢

ということ、実現しない可能性があることでも自信を持って伝えて良いという英語学習以外の面についても、児童へのメッセージとして伝えたいと思ったからである。また、この点については、思考力・判断力・表現力等の観点に関わる部分として、育成すべき力と考えたからである。この後の活動で児童が自分で伝えたいことを考え、何を伝えるか判断して発表内容を決められるように、足場となるオリジナル教材である。

**2.3. つきたい職業を探す練習活動(デジタル教科書の活用)**

2.2.で行った指導者の夢を聞く活動の後、児童から「自分のつきたい職業はあるけれど、その英語での言い方が分からないので、調べて良いですか?」という質問が出た。これは、指導者が児童に言葉を学ぶ必要があるという必然性を持たせることによって、デジタル教科書での学習が意味を成すと考えているからである。教科書には、令和2年度版から各Unitの冒頭Hopに本文のストーリーベースのアニメーション動画がある。令和6年度版ではそれに加えて、キャラクターが語りかける「ミニアニメ」が新設され、問いに答えるものがある。Unit7では、キャラクターが自分の中学校で入りたい部活動と将来の夢が語られている。児童は、それを見る際に、自分が将来つきたい職業が出てくるか期待しながら

聞くことができた。ここでは、robot creter, astronaut, soccer player, vetが出ているが、自分がつきたい職業が出てきた児童は何度も言い方を確認していた。一方、出てこなかった児童は、デジタル教科書にある「まなぶ」の機能から絵辞典を選択して探す姿が見られた。しかし、弁護士や生物学者、救急救命士などは載っていなかったため、単語を調べるなどして、それぞれが自分のつきたい職業を見つける時間を確保した。中には、「いま将来つきたい職業を迷っているので、2つ言っても良いですか？」と尋ねてくる児童もあり、“I want to be a dancer and illustrator.”と練習する様子も見られた。

#### 2.4. つきたい理由を伝える言語活動（学習支援ツールの活用）

次の時間の始めに、アメリカ人教員の小さいころの夢や今抱いている夢を語ってもらい、その理由の部分にイラストや写真を加えながら特に丁寧に伝えてもらうようにした。その内容とその際に使用したスライドの抜粋（図3）を以下に示す。

When I was 5 years old, I wanted to be a manga artist.

I wanted to be a manga artist because my cousin married a Japanese woman.

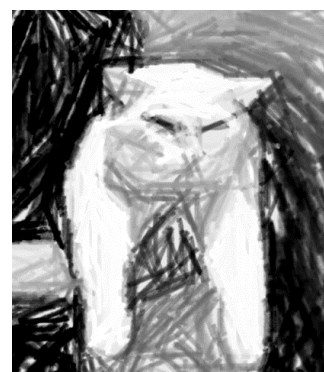
She gave me a lot of presents, so I love Japanese characters like Gundam, Baikinman, Godzilla, and Evangelion.

As I got older, I wanted to go to an American university in Japan, so I went to Temple University Japan Campus.

Now, I am a teacher.

In the future, I want to live happily with a cat.

図3 スライドの抜粋



児童に外国人教員の話が理解できたかを尋ねると、概ねの児童が良く分かったと答えてきた。そこで、なぜ外国人教員の話がよく分かったと思うかを尋ねると、

- ・ 私たちも分かる単語を使っていた
- ・ 先生になるまでの流れを詳しく言っていた
- ・ 小さい頃つきたかった職業と、今の夢を言っていた

などの声が挙がった。そこで、「みんなは、自分のつきたい職業を英語で何というか分かったみたいだけれど、（外国人教員）先生のお話のように伝えられそう？」と尋ねると、児童から「理由を伝えたいけど、準備が必要。」や「どんな言葉で伝えたらよいか考える時間が必要。」という意見が挙がった。

そこで、2時間目の残りの時間と、冬休みを準備の時間として確保し、冬休みの準備期間には、学習支援ツールを使用して発表内容のメモを作成する時間とした。児童は、その中で自分がつきたい職業の

理由につながる表現を集めたり、その伝え方を考えたりしていった。冬休み中にデジタル教科書を見直して準備をする児童や、学習支援ツールを使って分からない部分を質問してくる児童、自分の発表練習の動画を見て欲しいと送ってきたりする児童も見られた。(図4・5)

図4 児童から送られてきた質問に、指導者が回答を返信

マナビューアにある教科書を見ました。p81には、四行しか文章がなかったのですが、学校でのスピーチも四行ぐらいでいいんですか？

教科書はあくまで参考なので、自分の将来の夢をより詳しく語るには英語でどれくらい話せるか、チャレンジしてみてくださいね。

図5 児童からの動画を入れて送られてきたスライド



## 2.5. 発表内容の精選を目指した言語活動（デジタル教科書の活用）

例年冬休みが明けると、中学受験をする児童もいるため、クラスの数名から半数がお休みをしたり、出席の場合と欠席の場合が混ざるため、指導がたいへん難しい時期となる。そこで、欠席の場合にも自宅に対応ができるように、学習支援ツールを最大限に活用し、授業の進度が分かるように進めた。最初の授業で、まずは教科書の Jump! 「自分の将来について考えるために、『夢宣言』をする」というねらいを確認し、Let's Read. の活動を行った。例文は右の通りである。学習支援ツールを使用して、指導者がデジタル教科書のスクリーンショットを配布し、児童が読んで録音した。児童同士で教え合いながら読む姿が見られ、読むこと自体に大きな問題は見られなかった。しかし、児童から「先生、何か変です！」という声が挙がったのである。これは、教師が予想していた反応である。そこで、キャラクターである Shota が自分の友達だったら、どのようにアドバイスするか、読みの録音が終わった児童には記すように促した。以下はその時に出されたいくつかの意見である。

My Dream

I like baseball very much.  
I want to join the baseball team.  
I like school lunch very much, too.  
I want to be a teacher.

教科書の例文より

- ・英語としては合っているけれど、文が繋がっていないかも。僕は野球が好きという後に、「だから」や「なので」という言葉をいれて、つながるようにしたら良いと思う。
- ・なぜ「給食が好き」から「先生になりたい」になるのかが書かれていないな。
- ・前置きが将来の夢とは関係ない気がするよ。流れが、例えば、野球が好きで、先生に教えてもらった経験があり、先生に憧れを抱いたなどのようにしたら良いと思う。

続いて、これらの意見をもとに自分が Shota だったら Shota にどのように書き換えるかと児童に問いかけた。児童が教科書の学習材を自分の経験として捉え、教科書の英文を参考にして自分の言葉で意欲的に再構成する様子が見られた。これは、指導者が教科書の英文を単なる例文としてではなく、児童に自分事として捉えさせたいという意図が伝わった瞬間だと感じている。児童が学習支援ツールに記した英文を以下に示す。(児童の原文のまま)



I like baseball very much because it is fun. So I want to join the baseball team. And I like school lunch very much,too. I want to be a teacher.

My dream  
My dream is to be a teacher.  
Because I want to eat school lunch every day!  
And I like playing baseball too!  
So I join baseball club at school and I want to teach children.

この活動の後、児童らは自分たちの冬休みの課題に立ち返って、自分のつきたい将来の夢とその理由のつながりに不自然さが無いか確かめる様子が見られた。また、多くの児童が発表内容を追加したり、精選したりする様子が見られた。これは、児童が作成した上記のような英文を学習支援ツールを通じて共有し合ったことによって、自然な文の流れにする必要性に気付いたこと、将来つきたい職業が同じ場合でも、伝える人によって使用する表現や順序が異なるということを学んだ結果であると考えている。

### 3. ルーブリックを活用した話すこと（発表）と評価

#### 3.1 ルーブリックの作成

本校では、5年生の学習からルーブリックを使用してやり取りや発表の活動を行っている。そして6年生では、指導者と児童で相談しながらルーブリックを作成している。学年の3クラスで児童が意見を出し合いベースを作成した後、指導者が文言を整え直したものを学年全員に配布している。従って、本単元においても同様の流れで進めた。

初めに規準が記入されている空欄のルーブリックを配布し、自分たちが準備してきた発表内容や前述のデジタル教科書の例文を使った活動をもとに、基準に当たる文言や単語を考えて個人で記入していった。その後、グループで相談し、文言を追加したり、修正したりする時間を設けた。最後に、空欄のルーブリックをプロジェクターに写して児童と指導者とで意見交換を行いながら、指導者がキーワードを書き込んでいった。最終的に出来上がったルーブリックは図6の通りである。

図6 ルーブリック

【話すこと（発表）】児童用		Class: _____	No: _____	Name: _____
評価項目	A	B	C	
単語や表現について (英語に関すること)	自分の将来の夢について、正しい単語と表現を使って伝えている。	自分の将来の夢について、小さな間違いは見られるが、学習した単語や表現を使って伝えている。	自分の将来の夢について、単語だけでも伝えている。	
考えの整理について (内容に関すること)	友達や先生、保護者などに自分のことをよく分かってもらうために、将来に関して考えていることについて、他に自分が英語で伝えること2つ以上と関連づけて伝えている。	友達や先生、保護者などに自分のことをよく分かってもらうために、将来に関して考えていることについて、他に自分が英語で伝えること1つと関連づけて伝えている。	友達や先生、保護者などに自分のことをよく分かってもらうために、将来に関して考えていることについて、内容にまとまりはないが伝えている。	
相手意識 (学習態度に関すること)	友達や先生、保護者などに自分のことをよく分かってもらうために、将来に関して考えていることについて、相手が聞き取りやすい声とスピードでジャスチャーをつけてはっきりと伝えようとしている。	友達や先生、保護者などに自分のことをよく分かってもらうために、将来に関して考えていることについて、相手が聞き取りやすい声ではっきりと伝えようとしている。	友達や先生、保護者などに自分のことをよく分かってもらうために、将来に関して考えていることについて、相手の方を見て伝えようとしている。	

<グループの中でやってみて上手くできたところやできなかったところ、友達にもらったアドバイスを書いておきましょう。>

<次回の学習までに改善したいところやがんばりたいところを書いておきましょう。>

(項目と文言については、参考資料を参照されたい。)

#### 3.2 ルーブリックを活用した発表練習とフィードバック

次の時間からは、作成したルーブリックを使用して練習を行った。練習をする前に発表メモの修正をかける児童、一人でブツブツ練習をする児童、ペアで発表内容を修正し合う児童、グループで発表練習の様子を録画して見返す児童など、それぞれ学び方を考えて進める様子が見られた。また、その際にはデジタル教科書、複数の学習支援ツール、検索サイト、機械翻訳など、様々なデジタルツールを活用して学び進める様子が見られた。

指導者は児童が使用しているデジタルツールに合わせてフィードバックの方法を変更しながら、個別の対応を行った。授業内での対応例を以下に表で示す。

児童の様子	指導者の対応例
デジタル教科書を見直している児童	該当箇所を一緒に探して適切な表現を指導する。
学習支援ツールを使用している児童	同じツールにアクセスし、修正すべき該当個所に下線を引く。
発表練習を行っている児童	ループリックを使用して発表の評価をし、修正点をコメントする。表情が硬い児童には、ジェスチャーで伝える。 周りで聞いている児童に助言を行うように促す。
発表練習を撮影している児童	児童の発表音声が入りやすいように撮影位置を助言する。

ここに示したものは、授業内で行った指導のごく一部であり、様々なデジタルツールを使用している分、指導者の対応は多種多様となる。一斉指導と異なり、事前準備ができない分、指導力や対応力などが問われるが、児童それぞれが必要としている指導ができるという点を考えると、個別最適化に向けた一歩であったと感じている。

### 3.3 相互評価(ループリックを学習支援ツールのアンケート機能に転用)

最終活動である発表本番には、ループリックを学習支援ツールのアンケート機能に転用し、児童数分のスライドを作成した。(図7)発表活動が始まる前にまずアンケート機能の使い方を改めて確認し、ループリックの文言と4段階の文言も全体で確認した。また、中学校入試で発表準備ができていない児童については、外国人教員と「夢」についてやり取りする課題に変更をする旨を伝え、全員が英語を使って「夢宣言」にチャレンジできるような最終活動にした。そして、発表者が前に出た段階で、その児童の出席番号のスライドを全員に配布し、発表を聞き終えたら1分間で相互評価を行ってコメント(任意)も記入することとした。詳細については参考資料に例を示したので参照されたい。

図7 アンケート機能を活用した相互評価



## 4. デジタル機器を活用した授業の成果と課題

デジタル教科書を使用することによって正しい音声に触れることができ、文字での学習に困難を抱えている児童でも常に音声で確認をしながら学習を進めることができたとされる。また、英語を用いて思考力・判断力・表現力等をより磨きたい児童は、デジタル教科書と学習支援ツールを併用して学習を進めていくことができ、既習の表現を活用しながら学び進めることができたとされた。加えて、学習支援ツールを用いて相互評価を行ったことで、単に発表が上手くできたという達成感だけでなく、自分の頑張りが友達に認められたという自己効力感も感じられたとされた。

しかし、本実践を通して指導者が常に直面した課題は、毎回デジタル教科書や学習支援ツールへのアクセスができない児童がいたという点、学習をスタートさせるまでにサポートが必要な児童に対応しな

ければいけなかったという点である。中には、単元の終盤までデジタル教科書にアクセスできなかった児童もあり、英語の授業だけでなく、他教科においても、デジタル教科書や学習支援ツールを用いた指導が行われていれば、それらのアクセス方法を日本語で説明する時間を省くことができ、その分英語の学習に時間を費やすことができたと感じている。

## 5. おわりに

小学校において外国語が教科化されたことによって、教科書を用いたり、教科書付属の教材などを活用したりして、授業を進めること自体は容易になってきたと思われる。しかし、外国語の指導だけでなく担任や複数校を掛け持ちしている専科教員にとっては、授業準備時間の確保が難しいという課題もあるだろう。単元の最終活動に向けて授業構成を考える中で、単にデジタル教科書を使用して一斉指導を行うのではなく、児童にそれらが必要と思えるようにしてから与えることや、デジタルツールをより深い学びに繋がるように工夫して活用することが大事であると考えている。また、数ある学習支援ツールをどのように活用するのか、複数活用する場合には、使い方に戸惑って学びが停滞してしまうことが無いように配慮をして扱うことなど、デジタル化しているからこそ意識をしなければいけない部分も出てくる。教育のDX化に向けて、教材がデジタル化されたということだけに留まらず、指導者の導きによって児童が学びを楽しみ、成長していく姿が増えることで、よりデジタル化の効果を感じられるのではないだろうか。児童の姿が教師の励みとなり、デジタル化によってより魅力のある学校現場が作られると良いと感じている。

本実践の対象者であった6年生は本年度で小学校を卒業していく。卒業式までの日数が残り少なくなった今、児童一人ひとりの1年生の頃の姿を思い浮かべると、十分な学習環境が整えられていない中で大丈夫なのだろうかと不安を感じていたことが嘘のように感じられる。本実践では、児童が学習材を自分事として捉え、一人で学び進めたり、ペアやグループで学んでいたり、ふりかえり学習を進めている姿が見られた。小学校生活最後の1年間で、自分自身で目標を定め、学習が進められるようになっただけでも成長である。この経験を糧に中学校へ行っても更なる成長を期待したい。人の命の尊さを改めて思い知らされたコロナ禍で育った児童だからこそ、様々なデジタルツールを用いて学び続けられることの有難さを感じ続けて成長してもらいたいものである。

## 参考資料

### Q1 単語や表現について（英語に関すること）\*

- A: 正しい単語と表現を使って伝えることができる。（または先生の質問に文でスラスラ答えることができる。）
- B: 小さな間違いは見られるが、学習した単語や表現を使って伝えることができる。（または先生の質問に文で答えることができる。）
- C: 単語だけで伝えることができる。（または先生の質問に単語で答えることができる。）
- D: 英語で反応することがむずかしい。

### Q2 考えの整理について（内容に関すること）\*

- A: 他に自分が英語で言えること2つ以上と関連づけて伝えている。（または、先生の質問に2つ以上答えている。）
- B: 他に自分が英語で言えること1つと関連づけて伝えている。（または、先生の質問に1つ答えている。）
- C: 内容にまとまりはないが伝えている。（または、先生の質問にどうにか答えている。）
- D: 自分の考えを伝えることが難しい。

### Q3 相手意識・伝えるときの工夫について（発表態度に関すること）\*

- A: 友達が聞き取りやすい声とスピードでジェスチャーをつけてはっきりと伝えようとしている。
- B: 友達が聞き取りやすい声ではっきりと伝えようとしている。
- C: 友達の方を見て伝えようとしている。（または、ジェスチャーだけで伝えようとしている。）
- D: 相手の方を見て伝えようとするのがむずかしい。

### Q4 コメントを自由に書いてください。（友達の良いところを見つけたり、夢に向けて励ますことを伝えたりできると良いですね。）\*

## 参考文献

幡井 理恵・人見 礼子(2024). 「学びを促すための教師の働きかけと児童の変容—光村図書 Here We Go! 5 Unit 5 “He can run fast. She can do kendama.” と Unit 9 “My hero is my brother.” をつないで—」 泉恵美子他『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル—学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案—』143-150.

長沼 君主(2024). 「デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル解説—学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案—」 泉恵美子他『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル—学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案—』1-7.

# 研究論文

## 小学校英語教育における汎用のクラウドツールを用いた

### e ポートフォリオのメリットと留意点

大田 亜紀(別府大学短期大学部)

内田 綾(福岡県春日市立春日南小学校)

友池 奈緒(福岡県糸島市立前原小学校)

林 由布子(長崎大学教育学部附属小学校)

倉田 伸(長崎大学)

## 1. はじめに

### 1.1. 小学校外国語科・外国語活動と学びに向かう力

学校教育では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱が重要視されている。特に「学びに向かう力・人間性等」は、児童が社会や世界と関わりながら主体的に学ぶ姿勢を育む要素として位置づけられ、多様性の尊重や協働力などが求められている。小学校外国語科においても、異文化理解や他者への配慮を伴った積極的なコミュニケーション能力を育成することが目標とされている。また、言語の習得は継続的な取り組みが必要であり、学習者としての自律性を養うことが重視される。

外国語学習では、知識や技能を活用しながら思考・判断・表現する経験が重要である。実際のコミュニケーションを通じて適切な言葉を選び、表現を繰り返すことで、学びの定着が図られる。この過程で三つの柱は相互に作用し、「学びに向かう力・人間性等」が涵養される。学習指導要領がこの要素を強調しているのは、児童が主体的に学ぶ態度を育むことの重要性を示している。さらに、小学校外国語教育は、中学・高校、さらには生涯学習の基盤となる。児童が自らの学習目標を設定し、自律的に学び続ける姿勢を養うことが求められ、教師の支援が重要な役割を果たす。単なる言語習得にとどまらず、自己の学習を振り返り、継続する力を育むことが、将来的に社会のさまざまな場面で求められる資質・能力の形成につながる。

こうした学びを支える環境として、日本の学校では 1 人 1 台端末と高速通信環境が整備され、様々なデジタルツールを活用した学習が急速に普及している。これにより、教材共有やコラボレーションの促進、自己主導学習の支援が可能になり、教育の質とアクセシビリティが向上している。しかし、効果的な運用のためには、実践事例の蓄積と分析が不可欠である。デジタルツールの活用事例を共有することで、教育のカスタマイズ、教育格差の縮小、学習効果の向上に貢献し、持続可能な教育改革の推進が期待される。

### 1.2. e ポートフォリオを活用した学び

学びを支えるデジタルツールの1つの e ポートフォリオがある。類似するものとして、デジタルポートフォリオや電子ポートフォリオ、Web ポートフォリオ等の呼び方があるが、今回はデジタルデータを扱うポートフォリオをまとめて e ポートフォリオとする。森本・稲垣(2017)によれば、e ポートフォリオの役割は、「学習の成果を引証づけるエビデンスとしての役割」と「主体的・対話的で深い学びを促進させるツールとしての役割」の2つに大きく分けることができる。図1に e ポートフォリオの二つの役割に関するイメージを示す。



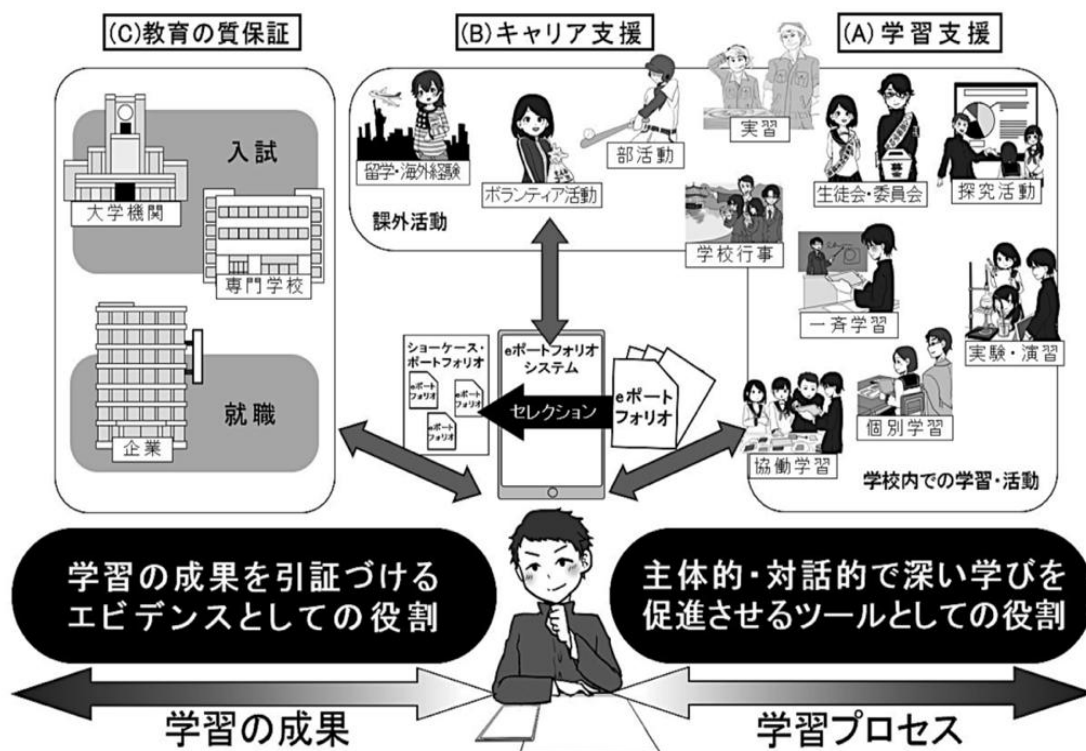


図1 eポートフォリオの二つの役割(森本・稲垣 2017)

eポートフォリオは、エビデンスベースで学習の成果を示すことに加え、学習過程、成果、反省点をデジタル形式で記録し管理できるとともに自己調整能力を育成する上で重要な教育ツールであり、学習者が自身の学習活動を系統的に収集、整理し、振り返ることを可能にする。現在、学校現場においてGIGAスクール構想によって一人一台端末・高速ネットワーク環境が整備され、eポートフォリオ導入の可能性が高くなったと言える。また、eポートフォリオで扱うデータは、森本(2015)によれば、大きく「学習履歴」と「学習記録」の2つの構成要素に分けることができる。eポートフォリオの内容を表1に示す。eポートフォリオ学習履歴とは学習ログ・操作ログといったシステムが自動的に記録する教育データである。学習記録とは主にテスト・学習成果物・振り返りといった学習者自らが作り出した教育データである。eポートフォリオは、前述の教育データをもとに自分の学習進捗を視覚化し、自己調整のための具体的なエビデンスを提供することができる。eポートフォリオを通じて、学習者は目標設定や活動の自己選択においてより意識的になることを促され、学習活動における自己効力感を高める。また、学習者が自らの強みと改善点を特定し、次の学習サイクルに向けて適切な調整を行う機会を提供する。このようにして、eポートフォリオは学習者の自己調整を促進し、継続的な学習と成長を支援する。さらに、eポートフォリオは教師と学習者の間のコミュニケーションを強化し、個別のフィードバックを提供するプラットフォームとしても機能する。これにより、学習者は自分の学習過程についてより深い理解を得ることができ、個人の学習経路をより効果的に調整することが可能になる。したがって、eポートフォリオは自己調整能力の育成において重要な役割を果たし、学習者が21世紀のスキルを身に付け、生涯にわたって学び続ける学習者として成長するための基盤を提供する。

一方、eポートフォリオを導入するだけで学習者は自然と学ぶわけではなく、そこには教師の役割が重要になる。eポートフォリオを活用した主体的・対話的で深い学びを展開するためには、教師の継続的な授業

改善と学習支援が必要である。特に小学校のように未だ学び方が定着していない学習者が多い学校現場では、特に教師の授業改善と学習支援が必要になると考えられる。

表1 eポートフォリオの内容(森本 2015)

分類	説明	項目	主な内容	種類
学習履歴	行動のログ	学習ログ	学習行動の履歴	顕在的データ
		操作ログ	ICT機器の操作履歴	
学習記録	学習活動の記録	テスト・アンケート	テスト	
			アンケート	
			発問	
		学習成果物	作品	
			レポート	
			作業物	
		授業風景	観察の記録	
			学習過程の記録	
		思考プロセス	メモ	
			ワークシート	
会話・対話				
評価活動の記録	評価活動の記録	自己評価	自己評価の記録	潜在的データ
		相互評価	相互評価の記録	
		教員評価	教員評価の記録	
		他者評価	他者評価の記録	

### 1.3. 小学校英語教育における汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオ

教育現場において学習の振り返りや評価の手法として、クラウドツールの活用が注目されてきた。従来の紙媒体による振り返りシートは、学習内容を整理し、蓄積する手段として一定の有効性を持っていたものの、管理の煩雑さや教師の負担の増大といった課題が指摘されていた。また、学習過程の共有や相互評価の促進といった観点においても、紙媒体の活用には限界があった。これらの課題を解決するために、汎用のクラウドツールを導入し、学習の記録・共有・振り返りの方法を再考する試みが進められてきた。

倉田ほか(2024)は、汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオを活用した小学校外国語科の実践を報告した。この実践は、Google フォーム(回答データを出力した Google スプレッドシートを含む)による e ポートフォリオを活用したものである。ここでは、Google フォームをはじめとするクラウドツールを活用した学習の振り返りの実践に焦点を当て、その有効性を検討した。クラウドツールの活用により、個々の学習記録の管理が効率化され、教師による迅速なフィードバックが可能になっただけでなく、学習者同士の成果の共有が促進されることで、相互評価の機会が生まれた。また、学習履歴の一元化によって、児童が自らの学びを振り返り、継続的な学習へとつなげる環境が構築された。さらに、クラウドベースの e ポートフォリオを活用

することで、学習の過程や思考の流れが可視化され、学習者の主体性を支援する試みも行われた。こうした実践は、単なる紙媒体からデジタルツールへの移行にとどまらず、学習プロセスの質的向上を目指すものであった。学習者が自己の学びを整理し、評価し、さらに深化させる機会を提供することは、現代の教育において重要な課題であり、その方法論の検討が求められていた。本研究では、クラウドツールを活用した振り返りの実践を通じて、教育現場における学習支援のあり方を探求し、その可能性を考察した。この実践でいくつかの成果や課題が見えたものの、小学校英語教育における汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオのメリットや留意点は整理されていない。もし前述のメリットや留意点が整理されれば、これから汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオを小学校英語教育で活用しようとする先生方にとって有益な情報となり、子どもたちの学びに向かう力の育成の一助となるため、意義がある。

#### 1.4. 本論のねらい

本論では、小学校英語教育における汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオのメリットや留意点を示すことをねらいとする。そのために、汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオを小学校英語教育で活用したことがある教師を対象に活用の際のメリットや留意点を調査し、ポイントを整理する。具体的には、児童が自己調整しながら学ぶ小学校外国語科・活動の実現におき、汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオを用いた授業の特徴を整理するため、Google for Education のクラウドサービスを用いて開発した e ポートフォリオを小学校英語教育で1年間以上活用したことがある経験を持つ教師らに対して半構造化面接法によるインタビュー調査を行った。インタビュー調査では教師の継続的な授業改善と学習支援の場面に着目し、教師の学習支援を際によくいった点や苦勞した点などを聞き出した。

### 2. e ポートフォリオを用いた学習のメリット

e ポートフォリオを用いた学習のメリットを表2に示す。インタビュー調査結果の整理およびリスト化の結果、メリットに関しては、大分類として【学習の効率化】【学習効果】【自己決定場面増加】【比較活動の高度化】【評価の有用性】の5つの項目に整理された。さらに、【学習の効率化】は[他者参照に関する有効性]と[メディアに関する有効性]、【評価の効率化】は[時間削減]と[評価支援]、【学習効果】は[振り返り内容の質向上]と[パフォーマンス向上]に小分類化できた。各項目の詳細を以下に示す。

#### 2.1. 比較活動の高度化

【比較活動の高度化】とは、表2で示したとおり、今まで不可能だった過去との比較や他者との比較ができるメリットであり、大きく[他者参照に関する有効性]と[メディアに関する有効性]に分けることができる。

[他者参照に関する有効性]は児童全員の学習に関する情報がリアルタイムで共有・参照できるメリットである。例えば、生徒の振り返りが即時に共有されることで教師による指名が容易になるとともに、生徒同士が互いの考えを参照しながら思考を深めることが可能となる点が挙げられる。また、フォルダ共有をとおして他者の学習過程が可視化され、比較活動が促進される点が挙げられる。さらに、スプレッドシートのリアルタイム共有が生徒にとって学習の刺激となり、主体的な学習態度を引き出す要因となる点が挙げられる。つまり、e ポートフォリオの導入により、即時性の向上、他者参照の容易化、学習への動機づけの強化などといった側面から比較活動が促進され、他者参照を通じた比較活動の高度化に寄与できる利点が考えられる。

表2 eポートフォリオを用いた学習のメリット

【大分類】	[小分類]	メリットの概要
比較活動の高度化		今まで不可能だった過去との比較や他者との比較ができること
	他者参照に関する有効性	児童全員の学習に関する情報がリアルタイムで共有・参照できること
	メディアに関する有効性	文字情報だけでなく映像や音声の情報の比較が実現できること。
評価の効率化		さまざまな場面における教師の評価活動の効率性が上がること
	時間削減	児童の学習成果が児童的に一元化されることで教師の評価活動時間が効率化されること
	評価支援	児童の学習成果の全体傾向を把握でき、また授業中の学習過程を確認しながら評価できること
自己決定場面増加		学習者が自らの意思で学び方を選択できる学習場面を増やせること
学習効果		学びの質の向上や変容といった学習効果につながる
	振り返り内容の質向上	児童が自身のパフォーマンスを直接振り返ったり、振り返りの表現力が高まったりすること
	パフォーマンスの質向上	多くの他者から見られる状況によって児童がベストのパフォーマンスを行おうとすること
学習の効率化		今まで実現困難だった学習が効率的にできるようになること

[メディアに関する有効性]は文字情報だけでなく映像や音声の情報の比較が実現できるメリットである。例えば、汎用のクラウドツールを用いたeポートフォリオを活用することで、記録する情報がすべて一元化されることから単元を超えた比較が容易になり、即時的な振り返りが可能になる点が挙げられる。また、紙媒体は蓄積できる特徴はあるものの、自他間問わず横並びで比較するには限界があり、デジタルの方が直感的な比較がしやすいという点が挙げられる。さらに、中学年においては、語彙力が十分ではない児童がいる可能性があるため、動画を用いた直接的なパフォーマンス比較が適している点が挙げられる。つまり、デジタルメディアは比較活動を促進し、特に即時的な振り返りや視覚的な比較を可能にする利点が考えられる。

## 2.2. 評価の効率化

【評価の効率化】とは、表2で示したとおり、さまざまな場面における教師の評価活動の効率性が上がるメリットである。そして、【評価の効率化】は [時間削減]と[評価支援]に大きく分けることができる。

[時間削減]は児童の学習成果が自動的に一元化されることで教師の評価活動時間が効率化されるメリットである。例えば、自己評価をデジタル化し入力するようにしたことで整理が容易になり、児童の理解度や授業内容を振り返る時間が大幅に削減される点が挙げられる。また、自己評価のデジタル化により評価の整理や振り返りの効率が向上し、時間削減につながる点が挙げられる。つまり、評価の効率化にはデジタルツールの活用が有効であり、振り返りの質を維持しながら教師の負担を軽減できる利点が考えられる。

[評価支援]は児童の学習成果の全体傾向を把握でき、また授業中の学習過程を確認しながら評価できるメリットである。例えば、評価の効率化が進むことで、教師がより本質的な内容の分析に注力できるようになる点である。ただし、前述の点は教師自身も子供たちも e ポートフォリオの操作に慣れることが条件である。また、デジタル化により情報が集合として可視化され、傾向が把握しやすくなる点が挙げられる。さらに、評価の効率化によって授業中に子供の姿を直接見ながら、リアルタイムで振り返りシートを確認できるようになり、テレビ画面に映しながらフィードバックを即時に行える点が挙げられる。つまり、評価の効率化は、教師の負担を軽減するだけでなく、分析の質を向上させ、リアルタイムでのフィードバックを可能にすることで、教育の支援につながる利点が考えられる。

## 2.3. 自己決定場面増加

【自己決定場面増加】とは、表2で示したとおり、学習者が自らの意思で学び方を選択できる学習場面を増やせるメリットである。例えば、教師は大きな目標を児童とともに設定し、その達成方法についてクラウドをとおして複数の選択肢を容易に提供・共有できる点が挙げられる。このことで、児童は目標に向かう過程で自ら方法を選択することができ、学習の自由度が広がることにつながる。前述の点は紙媒体でも可能ではあるが、複数の選択肢をすべて準備するとなると非常に教師の負担がかかってしまうため、汎用のクラウドツールを用いた e ポートフォリオを用いることで教師も児童も日頃使い慣れた環境で学びを進めることが可能となる。また、常にクラウド上にデータがあることで、児童が自らの意思で他者の発表を選んで見ることができるようになり、学習の主体性が高まる点も挙げられる。つまり、児童の自己決定場面を増やすことで、学習の柔軟性が高まり、児童の自ら考えて行動する力が育まれる利点が考えられる。

## 2.4. 学習効果

【学習効果】とは表2で示したとおり、学びの質の向上や変容といった学習効果につながるメリットである。そして、【学習効果】は [振り返り内容の質向上]と[パフォーマンスの質向上]に大きく分けることができる。

[振り返り内容の質向上]は児童が自身のパフォーマンスを直接振り返ったり、振り返りの表現力が高まったりするメリットである。例えば、単元ごとに児童のパフォーマンスを記録する動画を活用することで、子供たちが自身の発言や身振り手振りを振り返り、言葉遣いや表現の改善につなげることができる点が挙げられる。また、中学年の児童でも、前の単元で学んだことを後の単元で活用し、学びを発展できる点が挙げられる。さらに、友達の発表を見る時間を十分に確保することで、児童が具体的な表現の仕方を学び、これまで使えなかった言葉を適切に用いられるようになる点が挙げられる。つまり、振り返りの機会が十分に与えられることで児童の表現力が向上し、過去の学びを現在の学習に生かせるようになる利点が考えられる。



[パフォーマンスの質向上]は多くの他者から見られる状況によって児童がベストパフォーマンスを行おうとするメリットである。例えば、自分のパフォーマンスが全ての他者からに視聴されるという状況が学習者にとってパフォーマンスの質を高める要因となり、より丁寧に取り組もうとする動機づけになる点が挙げられる。つまり、自分のパフォーマンスが他者と共有される状況が、学習者の意識を刺激し、結果として学習成果の向上に寄与する利点が考えられる。

## 2.5. 学習の効率化

【学習の効率化】とは、表2で示したとおり、今まで実現困難だった学習が効率的にできるようになるメリットである。例えば、1人1台端末・高速通信環境の導入によって、eポートフォリオを活用した振り返りや動画撮影・視聴をとおした自己の客観視が容易になる点が挙げられる。また、日常的に使いこなしている汎用のクラウドツールを活用することにより、子どもたちが振り返りを行いやすくなる点も挙げられる。つまり、eポートフォリオの導入は学習の効率化に寄与し、特に振り返りのしやすさや自己の客観視を促進する要因となったことが示唆された。

## 3. eポートフォリオを用いた学習の留意点

eポートフォリオを用いた学習の留意点を表3に示す。インタビュー調査結果の整理およびリスト化の結果、留意点に関しては、【難易度】【授業時間】【利点の明示化】【返信方法の制限】の4つの項目に整理された。各項目の詳細を以下に示す。

### 3.1. 難易度

【難易度】とは、表3で示したとおり、技術的スキルを十分に考慮する留意点である。そして、【難易度】は[児童の技術的スキル]、[発達の段階]、[教師の技術的スキル]に大きく分けることができる。

[児童の技術的スキル]は eポートフォリオ導入時期における児童の操作技術不足を考慮する留意点である。例えば、子供たちがeポートフォリオに慣れるまでに時間がかかる点が挙げられる。この点においては、導入時期はジレンマやもどかしさはあるが、1年を通じてその時間が短縮され、結果として子供たちに還元できるものが増えることも合わせて述べたい。また、授業中の言語活動の時間を確保することや、eポートフォリオを活用して学びのログを残すための時間確保が必要である点も挙げられる。この点においては、学年に関わらず eポートフォリオの操作に時間と手間がかかるため、導入初期には授業内容よりも操作に慣れるための時間を十分に確保する対策が必要である。つまり、教師たちは eポートフォリオの導入初期には児童が操作に慣れるまで時間がかかることを留意し、操作の習熟と学習時間の確保のバランスを取ることが重要であることに留意する必要がある。

表3 eポートフォリオを用いた学習の留意点

【大分類】	[小分類]	留意点の概要
難易度		技術的スキルを十分に考慮すること
	児童の技術的スキル	eポートフォリオ導入時期における児童の操作技術不足を考慮すること
	発達の段階	小学校の中学年と高学年で扱える情報の内容や提示する情報量を調整すること
	教師の技術的スキル	eポートフォリオを開発・運用する教師の操作技術不足を考慮すること
授業時間		十分な授業時間を確保する必要があること
利点の明示化		eポートフォリオを活用する意義をまず学習者と共有すること
限定されたフィードバック		成果物へのフィードバックコメントの方法が限定的であること

【発達の段階】は小学校の中学年と高学年で扱える情報の内容や提示する情報量を調整する留意点である。例えば、中学年の児童にとってスプレッドシートの情報量や文字の多さが負担となり、高学年のように素早く情報を見比べることが難しいなど、eポートフォリオの活用において児童の発達段階に応じた難しさがある点が挙げられる。この点においては、導入初期は質問への回答や画像添付から始め、後に自分のパフォーマンスを録画して振り返る形へと徐々に移行していくことが重要である。つまり、eポートフォリオの活用には、児童の発達段階に応じた操作の負担や情報の可読性を考慮し、適切な支援や工夫を行うべきであることに留意する必要がある。

【教師の技術的スキル】はeポートフォリオを開発・運用する教師の操作技術不足を考慮する留意点である。例えば、eポートフォリオの活用に関心を持つ同僚がいたものの、初期設定や画面の見方の難しさが障壁となり、活用が進まない点が挙げられる。つまり、導入のハードルの高さが活用意欲の低下につながるため、教師の操作スキルに応じた導入支援の重要性が示唆され、初期設定や基本操作に関するサポートを充実させることがeポートフォリオの円滑な導入と継続的な活用につなげることに留意する必要がある。

### 3.2. 授業時間

【授業の時間】とは、表2で示したとおり、十分な授業時間を確保する必要がある留意点である。例えば、eポートフォリオを活用することで、児童がデジタルで振り返りを行い、動画を添付するなどの活動がしやすい一方、児童同士の共有まで発展させることができず、時間設定の難しさが課題として残る可能性がある点が考えられる。特に中学年では単元が4時間程度と短かったり、45分の授業時間内に十分な活動を組

み込むことが難しかったりするため、児童同士のやり取りや言語活動の時間確保を保証しながら e ポートフォリオを活用することが重要である。つまり、e ポートフォリオの活用は児童の学習を深める可能性を持つ一方で、授業時間内での実施が難しく、特に児童同士の共有や発展的な活用に時間が十分にあるわけではないことに留意する必要がある。

### 3.3. 利点の明示化

【利点の明示化】とは、表2で示したとおり、e ポートフォリオを活用する意義をまず学習者と共有する留意点である。例えば、「めんどくさい」「難しい」などと児童が感じると学習意欲が低下するため、e ポートフォリオの利点を児童に実感させる必要がある点が挙げられる。この点においては、記録を残す意義を実感させたり、自身の成長を可視化して児童に実感させたりする工夫が重要である。つまり、e ポートフォリオの意義を明確に伝え、活用のメリットを実感させることを実現すべきということに留意すべきである。

### 3.4. 限定されたフィードバック

【限定されたフィードバック】とは、表2で示したとおり、成果物へのフィードバックコメントの方法が限定的であるという留意点である。例えば、e ポートフォリオではすべての生徒に対してフィードバックを返す際、手書きのときのように自由にコメントを書いたり強調したりすることがしづらい点が挙げられる。また、デジタル上でどこにフィードバックを記載すべきか迷う点や、すべての生徒に均等に対応する負担の大きさも挙げられる。つまり、e ポートフォリオではフィードバックの方法が限定され、効率的かつ効果的に対応する工夫を事前に考えておくことに留意すべきである。

## 4. まとめ

今回のねらいは、小学校英語教育における汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオのメリットや留意点を示すことであった。その手段として、汎用のクラウドツールによる e ポートフォリオを小学校英語教育で活用したことがある教師を対象に、活用の際のメリットや留意点を調査し、ポイントを整理した。その結果、メリットに関するポイントは、【学習の効率化】【学習効果】【自己決定場面増加】【比較活動の高度化】【評価の有用性】の5つに大きく整理され、留意点に関するポイントは、【難易度】【授業時間】【利点の明示化】【返信方法の制限】の4つに大きく整理された。今後は、このメリットや留意点を踏まえながら、小学校英語教育における汎用のクラウドツールを用いた e ポートフォリオを教師がどのように活用し、どのように授業改善を進めていったのかを調査・検討する。

## 参考文献

- 森本康彦・稲垣忠(2017). 初等中等教育におけるラーニング・アナリティクスの展望 主体的・対話的で深い学びの促進と高大接続改革における e ポートフォリオ活用の視点から. 日本教育工学会論文誌, 41(3), 209-220.
- 森本康彦(2015). e ポートフォリオとしての教育ビッグデータとラーニングアナリティクス. コンピュータ & エデュケーション, 38, 18-27.
- 泉恵美子ほか(2023). デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～学びを支援する单元をつなぐ Can-Do 評価試案～, <https://izumi-lab.jp/easel.html> (参照日 2025.2.15)

# 研究論文

## 小中接続に向けての小中「外国語科」における 学習者用・指導者用デジタル教科書の活用の工夫

黒川 愛子(帝塚山大学)

### 1. 研究の背景

文部科学省(2017)による2020年度からの小学校外国語活動・外国語の完全実施から5年目を迎えた2024年度には、令和6年版文部科学省小学校外国語検定教科書の使用が開始され、小学校5年生から中学校3年生を対象とした学習者用デジタル教科書(以下、学習者用DT)の導入も始まった。中学校では令和7年度版文部科学省中学校外国語検定教科書の使用も始まる。文部科学省(2024a)では、令和6年度全国学力・学習状況調査結果から、ICT活用に関わって、約9割の児童生徒がICT機器活用の効力感を感じていることや、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほどICT機器活用の効力感が高いことを報告している。文部科学省(2024b)では、「GIGAスクール構想の下で、学校における『デジタル教材』や『学習支援ソフトウェア』等の導入が加速している中、今後も教科書が『質が担保された主たる教材』としての役割を果たしつつ、教科書のデジタル化により、デジタル教材等との接続や連携強化を図ることが学びの充実につながる」とし、「デジタル教科書(以下、DT)自体はシンプルで軽いものとし、デジタルの強みを活かして他の様々な教材やソフトウェアと効果的に組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ことを掲げている。紙面教科書とDTの在り方については、児童生徒の特性や学習内容等に応じてハイブリッドに活用することも強調している。また、文部科学省では令和5年度「英語教育実施状況調査」において、英語授業で児童生徒が英語の授業で児童生徒が学習者用DTを活用した割合は、小学校で約8割、中学校で約9割であることを報告している。

教員の学習者用DTの使用歴については、文部科学省(2024c)では、(1)令和4年度以前に使用したことがある教師は54%で、使用開始時期が「令和5年4月から」である教員が46%と最も多く、授業中の使用頻度が向上していること、(2)小中学生に学習者用DTと紙の教科書の使いやすさを問い、学習者用DTは「いろいろな情報を集めやすい」「図や写真が見やすい」こと、紙の教科書で「書き込みやすい」「自分の学んだことを残しやすい」等の回答が多かったこと、(3)教師が感じている学習者用DTの導入に当たっての思いとしては、これまで手作りしていた素材から、児童生徒の手元の画面上や大型提示装置への表示に切り替えたことで負担軽減を感じている教師が6割を超え、学習者用DTに対する課題感を感じている教師の割合は減少していること、を報告している。課題点として、42.5%の教員が「学習者用DTの効果的な活用方法についての情報が不足している」と回答し、「学習者用DTと指導者用デジタル教科書(以下、指導者用DT)との併用がうまくできない」という意見が前年度の18.7%から24.6%と増えていることも報告している。

齊田他(2024)では、中学校第3学年を対象とした令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を分析し、「受容技能(聞く、読む)」と「発信技能(書く、話す)」の得点分布の形が大きく異なり英語5領域のバランスがとれていないことを指摘し、自分の考えや気持ちを表現する発信技能の向上がこれからの課題であるとしている。本稿は、文部科学省(2023a;2023b)への考察を行い小学校・中学校外国語科(以下、小中外国語科)における文部科学省外国語検定教科書(以下、教科書)内の工夫を活かす指導の提案を行った黒川(2024)の追研究である。

## 2. 先行研究

津村(2024)では、7社の令和2年度版教科書と6社の令和6年度版の教科書の比較分析を行い、当面の間は学習者用DTと紙面教科書の併用において、両者の利点を生かした授業の設計が必要であるとしている。柳田・建内(2024)では中学1年生対象の授業で、教科書の登場人物になりきってのスピーチを行う活動の練習段階で、生徒が書き込みを行った学習用DTを全体で共有して実践を紹介している。佐藤他(2023)はA市54校の5・6年担任と英語専科4名を含む計106名を対象に指導者用DTに関わる調査を行い、大半の担任が授業で日常的にデジタル教材を使用し、チャンツや歌、リスニング問題に効果を感じているが、デジタル教材内のコミュニケーションのモデルをうまく活用できないと考えていることも報告し、デジタル教材のコンテンツが多すぎて上手く活用できていないことを問題点として挙げている。高橋(2024)では小学校6年生34名を対象に一斉授業では指導者用DTを、授業内の個別学習として学習者用DTを用いた指導を3か月間行い、児童にアンケート調査を実施した結果、学習者用DTを用いた指導に対して、29名中25名が肯定的な回答を行い、「聞くことの活動」と「聞いて文字を読む活動」に効果があったと報告している。

令和6年度版小学校教科書において、指導者用DTと学習者用DTの機能が同一である教科書と同一ではない教科書がある。中学校教科書は令和7年度から使用開始となるが、各中学校で用いられる教科書が校区の小学校で用いられていた教科書とは異なる出版社発行の教科書となる場合もある。学習者用DTと指導者用DTの機能が同一ではない場合や小学校と中学校で異なる出版社発行の教科書を用いる場合について調べるといって本研究に意義があると考えられる。

## 3. 本研究の目的

本研究の目的は、児童生徒の4技能5領域における力の向上に向けて、小中外国語科において、教師が小中接続を意識し、教科書の学習者用DT及び指導者用DTを用いて、いかなる授業改善を行うことができるかを調べることである。本研究では、学習者用DT及び指導者用DTの特徴を調べ、それらを活かして、どのような指導を行うことができるかについて提案を行う。本研究では、以下の研究課題を設定する。

研究課題: 学習者用DT及び指導者用DTにはどのような特徴があり、それらを活かし、小中接続を意識し、児童生徒の4技能5領域の向上に向け、いかなる指導を行うことができるか。

## 4. 分析の方法

本研究では2つの分析を行う。1つ目は中学3年生の英語力の状況の分析である。黒川(2024)では令和5年度全国学力・学習状況調査での中学校英語の調査(以下、学力調査)結果(文部科学省, 2023a)とその課題解決(文部科学省, 2023b)について考察を行っている。本稿では、斉田他(2024)による学力調査の分析を中心に行う。2つ目はDTの分析である。本研究では、指導者用DTと学習者用DTが全く同じ機能ではない2社の教科書を用いて分析を行う。指導者用DTの分析は中学生対象の令和3年度版 *NEW HORIZON English Course 1*(以下, *NH1*), *NEW HORIZON English Course 2*(以下, *NH2*), 及び *NEW HORIZON English Course 3*(以下, *NH3*)を、学習者用DTの分析は小学校で用いられている令和6年度版 *Junior Sunshine 5*(以下, *JS5*)及び *Junior Sunshine 6*(*JS6*)を用いて行う。

## 5. 分析結果と考察

### 5.1 学力調査結果における中学3年生の現状と考察

「聞くこと」に関わって、斉田他(2024)では領域得点分布において「聞くこと」はやや高得点側に分布していることを報告している。文部科学省(2023b)では自分の置かれた状況の理解、どういった情報を聞き取らなくてはならないかの把握、自分にとって必要な情報は何かの判断、学んだことの他の場面や状況で



の活用を提案している。黒川(2024)で提案を行った「児童生徒が『自分事』として『聞くこと』に取り組むための内容理解への発問の工夫」を、指導者用 DT を活用して行い、「児童生徒が『聞くこと』取組後にどう生きるかの展望をもって取り組むための支援」に向け、学習者用 DT を用いての個別学習を促す前に、「聞くこと」への動機づけを与えることが必要であると考えられる。

「話すこと」に関わって、斉田他(2024)では、(1)「話すこと」の得点分布において 0 点の生徒の割合が最も高く、完全正答率が 2.8%であった問題もあり準正答率も 10%前後と低いこと、(2) 英語力高層において「書くこと」より「話すこと」の無解答率が高く、「話すこと」の知識・技能の問題で正答率が高いのは高学力層のみで、やや高学力層以下では準正答の割合も非常に低いことを報告し、英語力低層で「話すこと」の問題に 6~7 割は何らかの発話をしており、話そうという意欲の重要性を強調し、意味が正確に伝えられていれば部分点を与えることで、生徒の話す力をより正確に識別できると述べている。斉田他が強調する生徒の「話そうとする意欲」を活かす指導を指導者用 DT 及び学習者用 DT を効果的に用いて進める必要があると考えられる。

「読むこと」に関わっては、斉田他(2024)は「読むこと」における得点分布は左右均等であると報告し、文部科学省(2023a)では日常的な話題に関する文章の概要を捉えることや・内容の具体性のバランスなどを踏まえ英文全体の主題と各段落の主な内容が過不足なく含まれているかを判断することに課題があるとしている。文部科学省(2023b)は「読むこと」に関わる学習過程において DT の書き込み機能の活用も効果的であるとし DT の活用を提案している。「読むこと」に関わって DT が貢献できる点は「音と文字の一致」であると考えられるが、「読むこと」への動機づけ、概要から詳細へと内容理解を進めるための工夫という点からも貢献できると考えられる。

「書くこと」に関わっては、斉田他(2024)では、英語力低層は「話すこと」より「書くこと」の無解答率が高く、短答式・記述式の無解答率が 20%程度と高く、思考・判断・表現の問題では高学力層でも正答率が非常に低く、準正答の割合が最も高く、低学力層では正答率・準正答率ともにほぼ 0 であると報告し、誤答の解答類型では意味は伝えられているものが多く採点基準が厳しかった可能性があるとしている。学習者用 DT への書き込み機能を活用し、生徒の書き込みを共有や添削したり等の「書くこと」への支援も重要となると考えられる。

## 5.2 「聞くこと」に関わる学習者用 DT と指導者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

### 5.2.1 小学校段階の「聞くこと」に関わる学習者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

JS5 及び JS6 の学習者用 DT 内の「聞くこと」に関わる項目には、Let's Watch and Think (以下、LW & T) と Let's Listen (以下、LL) があり、LW&T では児童はアニメ動画を視聴し、登場人物や動画内のイラストをヒントに内容を聴き取り、LL では聴き取るべき内容に関わる質問を見ながら児童は英語を聴き取る。Around the World (以下、AW) では国際理解に関わる写真を見つつ短い英文を聞くが、児童の興味関心を惹きつける写真が登場し、児童が楽しんで「聞くこと」に取り組むための支援であると考えられる。

表 1 に「聞くこと」に関わる JS5 及び JS6 の学習者用 DT の機能を示す。

表 1 「聞くこと」に関わる JS5 及び JS6 の学習者用 DT の機能(児童が行えること)

操作箇所	機能(児童が行えること)
教科書画面左のツールバー	文のポーズ間隔・音量・スピードを自分で選択できる。
教科書画面右上のリンクボタン	自分が取り組みたい項目を選択できる。
教科書画面左の朗読ボタン	画面下部に出た音声プレイヤーから再生して音声を聞く。
音声プレイヤーのスライドバー	調整して、自分が聞きたい箇所から聞くことができる。
教科書画面下の「もくじにもどる」	音声を聞ける全ての項目一覧に戻ることができる。

表1から児童が自分のペースで、自分が復習したい箇所を選択して何度も音声を聞き、聞く項目をすぐに変更もでき、児童が飽きずに「聞くこと」に取り組むといった個別最適な学びにつなげる支援の工夫が観察される。LW&T, LL 及び AW の画面上には文字は提示されず、児童が視覚情報をヒントに「聞くこと」に集中できるための支援であると推察する。

表2に「聞くこと」に関わる2つの活用例を示す。

表2 「聞くこと」に関わる指導者用 DT と学習者用 DT の活用例

活用例	手順
一斉授業先行型	一斉指導で指導者用 DT を用いて「聞くこと」に取り組み、教師と児童のやり取りを通して内容理解を行った後に、個々の学習者用 DT を用いて聞く。
個別学習先行型	個別学習で学習者用 DT を用いて、各児童が先に「聞くこと」に取り組み、その後、一斉授業で指導者用 DT を用いて教師とともに内容理解を行う。

表2に示した2つのどちらを授業のどの場面で行うかを見童の状況と聞き取る英文量や難易度から、事前に教師が判断したり、児童と相談して決めたりと、児童の状況や思いを大切に、児童とともに授業を進めていく姿勢が大切であると考えられる。

### 5.2.2 中学校段階の「聞くこと」に関わる指導者用 DT 内の特徴とそれを活かす指導

NH1, NH2 及び NH3 の指導者用 DT では、音声の再生において、「操作」の箇所にある「再生速度」の欄にある Slow, Normal, Fast を選択して調整可能であり、再生間隔も0から5まで調整できる。リピートには On と Off があり、On にすれば本文を繰り返し聞くことができる。再生時は、本文を全文聞かせたい場合は「連続」を、1文のみを聞かせたい場合は「選択」にして、再生させたい英文を選んで聞かせることができる。生徒の状況から判断して調整することができる。NH1 では本格的な中学校段階の学びとなる Unit 6 以降は本文画面の上のヘッドホンマークの横のクリップのような印（以下、クリップ印）を押すと、本文の内容理解に関わる英問を聞き 3 つの英答から正解を選ぶ活動が始まる。この画面を閉じればすぐに本文画面が登場するため、内容理解が不十分であった場合はすぐに本文を再度聞くという活動を繰り返すことができる。表2で示した「一斉授業先行型」で、生徒の反応から内容理解が難しいと判断した際に、何度も繰り返し再生し聞き直しができる。Unit 6 以降、各 Unit の本文の前に、本文の内容に関わる Preview がある。Preview は二人の登場人物のやり取りで、NH1では対話の英文が教科書内に記載されている。小中接続を意識し、英文と音声の一致への支援が観察される。NH2 及び NH3 内の Preview では英文は提示されず、生徒は「わかったこと」という欄に聴き取った内容を書き込む活動を行う。表2で示した「個別学習先行型」で行えば小学校での学びをつなげることができると推察される。各生徒の学習者用 DT 上の書き込み内容を教師に送信させ、共有することも可能となると考えられる。

### 5.3 「話すこと」に関わる学習者用 DT と指導者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

#### 5.3.1 小学校段階の「話すこと」に関わる学習者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

表3に JS5 及び JS6 の学習者用 DT における「話すこと」に関わる項目とその設定の工夫を示す。表3では Song Box を SB, Chant Box を CB と示し、以下同様とする。表3内の3項目とも児童は学習者 DT 内で音声を聞くことができる。SB, CB では児童は動画内で文字を見つつ音声を聞くことができ文字と音の一致が意図されていると推察される。児童は動画を視聴し一緒に発音していく活動を通して正しい発音を練習する設計で「話すこと」の土台となる項目であろう。

表 3 JS5 及び JS6 の学習者用 DT における「話すこと」に関わる項目の内容とその設定の工夫

項目	「話すこと」に関わる活動設定の工夫
SB	動画を視聴しながら、動画内のイラスト等をヒントに内容理解を行い、一緒に歌うことで、正しい発音を身に付けていけるよう工夫されている。
CB	アニメの動画内の登場人物のやり取りをチャンツのリズムによって視聴し、内容理解を行う。その後、アニメの動画に合わせながら発話練習が行えるよう設定されている。
LW&T	アニメ動画内の登場人物のやり取りを聞く。どちらの発話かがわかりやすい動画であり、自然な英語の発話を、意味理解を伴って聞くことができる設定となっている。

表 3 から、児童が SB, CB に続いて, LW&T でアニメ動画内の自然なやり取りを聞き, 段階的に音声に親しませながら, 徐々に発話ができるように支援しようとする活動設計の意図が観察される。表 3 で示した 3 項目に続く「話すこと」に関わる活動は Let's Play (以下, LP), Let's Try (以下, LT) 及び Activity 内に設定されているやり取りである。これらのやり取りの説明には, 「～するために」という文言が明記されており, 児童が各項目でやり取りの目的や場面, 状況等を意識して取り組むための支援と推察される。活動内容は, LT では「～を予想して言おう」等の児童の思考を促し, 児童が自ら話したい内容となるための活動設計の意図が観察される。学習者 DT 内にはこの 3 項目の英文例を音声で聞く機能はない。そのため, 児童が自分の伝えたいやり取りに取り組めるよう, LW&T で十分な内容理解と, アニメ上の登場人物の発話を練習しておく支援が必要であると考えられる。児童が伝えたい内容を考える際の支援となるものは「Word Box」(以下, 「WB」) である。児童は「WB」の音声を学習者用 DT のツールボックスにある「どうぐばこ」を選択しても, 画面右上のクリックボタンを押しても, すぐに聞くことができる。自分が伝えたい内容を考え, 口頭練習を行う個別学習において, 学習者用 DT は大きく貢献できると考えられる。

### 5.3.2 中学校段階の「話すこと」に関わる指導者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

NH1 における最初の「話すこと」の活動は Enjoy Communication である。小学校段階で生徒が発話してきた内容が英文として提示され文字と音声の一致を行い, ペアワークやインタビュー活動を行う。指導者用 DT を用いて小学校段階での学習内容を口頭練習し復習できる。

表 4 に NH1 の Unit 6 以降, NH2 及び NH3 に共通にある「話すこと」に関わる Warm Up, Practice, Speak and Write (以下, S&W), Unit Activity (以下, UA) での活動設定の工夫を示す。

表 4 NH1, NH2, 及び NH3 における「話すこと」に関わる活動設定の工夫

項目	「話すこと」に関わる活動設定の工夫
Warm Up	表に記載されているキーワードを見ながらやり取りを聞き, そのやり取り例を参考にペアワークを行う設定で, 「聞くこと」から「話すこと」につなげている。
Practice	例文とイラストをヒントに与えられた語彙を適切な語形に変化させて正しい英文を発話する設定で, 基本文型を用いての正しい発話練習を行う支援の工夫がある。
S&W	表内の英文を用いてインタビューを行い, わかったことを英文で書く活動であるが, インタビュー結果を口頭発表する「話すこと」にもつなげることができる。
UA	グループ内でスピーチを行い, 質問し合い, その結果をまとめる等の段階的な活動設計で, 「書くこと」への活動につながる統合的な活動が意図されているが「話すこと」の活動につなげることも可能である。

表 4 で示した活動を行う上で, 教師は指導者用 DT 内の両サイドにある「どうぐばこ」を押し「ジャンル選択」を行い単語リスト及びカードリストを作成できる。「設定」では再生間隔を調整し, カード提示をイラスト

トにするか英語にするか、リスト順提示かランダム提示かを操作することができる。教師のこれらの工夫が、既習語彙を用いての豊富な発話例を練習した後に自身の思考を伝える「話すこと」に取り組むことができることにつながると考えられる。

#### 5.4 「読むこと」に関わる学習者用 DT と指導者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

##### 5.4.1 小学校段階の学習者用 DT 内の「読むこと」に関わる特徴とそれを活かした指導

JS5 及び JS6 の学習者用 DT では、「読むこと」に関わって児童は CB 及び Let's Listen and Read (以下、L&R) において、音声を聞きつつ画面上で文字を見ることができる。しかしながら、両項目とも、音声を聞いていても、学習者用 DT 上では児童は英文の中のどの箇所を読んでいるのかは把握できないため、一斉授業で指導者用 DT を用いて文を指で追う活動を十分に行ってから学習者用 DT を用いての個別学習に進む必要があると考えられる。SB 及び Sounds and Letters は動画であり学習者用 DT 上でどの文字の音声を聞いているのかが児童がわかる設定になっており、学習者 DT において児童が音声と文字の一致を行うための支援が工夫されていることがわかる。

学習者用 DT 上の児童が読む 1 文の長さに関わっては、JS5 Lesson 6 Story Time 内にある You can see a Japanese sweets shop on your right. のような 10 語の長い英文もあり、文字と音声の一致への支援が重要である。学習者用 DT 上で児童が目にする英文数に関わっては、JS5 では 7 文が最も多く、JS6 Lesson 5 Let's Read 1 には、2 つの例文、合計 10 文が一挙に登場する箇所もある。これらの英文の音声は学習者用 DT にはなく教員が朗読する等の支援が必要となる。音声を聞き、まとまった英文を読む活動には各 Lesson にある Story Time があり、児童はタイトルを含めて 10~12 文程度の英文を読む。児童は学習者用 DT を用いて、まとまった英文を通して聞く・一旦停止して聞き直す、途中から聞く等の操作を児童が選択して「聞くこと」・「読むこと」に取り組むことができる。しかしながら、学習者用 DT には画面上の英文の色が音声とともに変わっていく等の機能はなく、児童が聞いた音声は英文内のどこの箇所であるかを把握することは難しいと考えられ、個別学習に入る前に、児童とともに音声を聞きながら、どの英文の音声であるかを確認する活動を教員とともに行う必要がある。

##### 5.4.2 中学校段階の「読むこと」に指導者用 DT における特徴とそれを活かした指導

NH1 の指導者用 DT では、本文の再生の際に、音声は流れている箇所は赤字に、まだ再生されていない箇所は青字となり、生徒はどこの箇所の音声は流されているか、視覚的に見やすい状況となっている。音と文字の一致への工夫であると考えられる。「操作」の「日本語訳 On Off」では、本文の和訳を英文の下に示すことができる。「サイズ」は「標準・拡大・一部」を選択でき、拡大した英文の下の和訳を見たり、一部選択した英文の和訳を示すことができる。「ツール」内のペンやマーカーは 3 種類の太さと 10 色の色から選択して、本文に説明を加えることができ、黒板やホワイトボードで説明することが不要となる。これらの機能は NH2 及び NH3 の指導者用 DT においても同様にある。NH1 では本文が Story として登場する Unit 1 から、本文の上に概要を掴むための質問が掲載されている。指導者用 DT 内の画面上のクリップ印を押すとその質問が提示される。Unit 5 までは日本語の質問が提示され本文を確認しながら概要を掴むことができ、入門期の「読むこと」への支援の工夫であると考えられる。Unit 6 からは本文に関わる英問英答となるが、本文画面上の本のようなマークの横にあるクリップ印を押すと、日本語の質問が登場し、これは最終単元まで同様である。中学 1 年生段階では、内容理解に関わる質問を最後まで日本語で確認することで、「読むこと」への生徒の負担を軽減しようとする配慮が観察される。この内容理解に関わる発問には、例えば、Unit 7 内の「本文に It's sometimes difficult. とありますが、何が困難なのか想像してみましょう。」といった生徒の思考を促すことを意図したと考えられる質問が提示される。指導者用 DT の操作により、内容理解に関わる質問に取り組む際に、すぐに本文を提示できることが何度も「読むこと」に取り組むことへの支援として大きいと考えられる。NH2 に入ると Unit 0 の本文画面にあるクリップ印を押すと英語の問題が 1 つ提示される。ここでもその英答を考えるにあたり、英問の画面を閉じれば、すぐに本文画面を見ること

ができる。英問の画面の A マークを押せば英語の正解例が登場し、大きな読むことへの支援であると考えられる。この英問英答を音読したり、書き写したりすることも一斉授業の中で簡単に行うことができ、NH3 指導者用 DT においても同様である。

## 5.5 「読むこと」に関わる学習者用 DT と指導者用 DT 内の特徴とそれを活かした指導

### 5.5.1 小学校段階の「書くこと」に関わる学習者用 DT 内の工夫とそれを活かした指導

JS5 及び JS6 における各 Lesson 内の最初の「書くこと」に関わる項目は L&R の後に続く Let's Write (以下, LW) である。L&R において文字と音声の一致を行ってから、児童は L&R に掲載されている英文を参考に、文頭を書き写し、その後に自分で書きたい語を選び書き入れる。児童は Word Book で児童が書き写したい語を選ぶことができる。LW の前に Activity (以下, Act) があり、そこに発表例として提示されている英文から、自分が書き写したい語を選び書くことができるという設定になっており、児童が書くことに負担を感じないように支援する工夫も観察される。LW に続くもう一つの「書くこと」に関わる項目は Let's Listen and Read (以下, LL&R) で、児童は四本線上に書かれた英文を、音声を聞きながら文を指で追う活動を行う。学習者用 DT を用いて、児童は何度も英文を聞くことができるが、これも個別学習の前に、教員が児童とともに指なぞりを行い、音声と文字の一致を支援しておく必要があると考えられる。その後、教科書上にある英文の書き写しや LW での自分の好きな語を書き入れる活動に入る必要があると考えられる。

### 5.5.2 中学校段階での「書くこと」に関わる指導者用 DT における工夫とそれを活かす指導

中学校段階での最初の「書くこと」として、小学校段階で練習したアルファベットの復習がある。NH1 の指導者用 DT には画面両側にある「どうぐばこ」を押すとすると、「書き順」のコーナーがあり、アルファベットの発音を聞きながら、書き順を示す動画を見ることができる。動画で非常に見やすく、是非、活用したい箇所であると考えられる。NHE1 における「書くこと」に関わる活動については、小学校段階の復習を意図している Unit 1 から Unit 6 の各 Unit にある Your Turn では、生徒が文頭の語をなぞった後に、生徒が自分で好きな語を書き入れて英文を作る形式である。指導者用 DT の EX の箇所を押すと、例文が登場する。また画面両側の「どうぐばこ」を押せば Picture Dictionary を開くことができるため、例文や様々な語を入れての口頭練習を行ってから生徒が「書くこと」に取り組めるようになっており、小学校段階での「書くこと」を引き継ぎ、生徒が書きたい英文を書けるよう支援する工夫であると考えられる。本格的な中学校段階の学びが始まる Unit 6 からは、Speak & Write (以下, S&W) という項目となり、教科書内にある質問を用いて、やり取りを行い、パートナーの答えを書き込む活動を行った後に、「インタビューでわかったことをまとめよう」という「書くこと」の活動があり、生徒は空欄の箇所を埋め、英文を書く。指導者用 DT にはこの欄にも EX があり、生徒がどのような英語を書けばよいのかを理解してから「書くこと」に取り組むための支援が観察される。音源はないため、教員と音読練習を行ってから、「書くこと」を始める工夫は必要であると考えられる。この「話すこと」の活動から例文を参考に「書くこと」につなげていく設計は 1 年生段階の最終単元まで続く。NH2 では各 Unit の最後にある Read and Think の本文を読み、Round 2 に Focus on Details があり、読んだ内容に関する英問に対する英答を適語補充で完成させる活動がある。「読むこと」から「やり取り」及び「書くこと」につなげていく工夫が観察される。指導者用 DT では正解を 1 問ずつ確認もできれば、「全開」を押して、全ての Q&A の正解を示すこともできるため、1 つずつの Q&A の答えを音読練習することも、全ての Q&A をまとめて音読練習することも可能である。Round 3 の Think and Express Yourself では最初に本文の内容を要約する表内にある英文の中に適語補充を行う活動を行うが、指導者用 DT を用いて、1 文ずつ、または全ての英文の正解を示すことができる。生徒はその表を参考に、本文の内容をパートナーに伝える活動を行う。「読むこと」から「書くこと」「話すこと」につなげていく統合的な活動への工夫が観察される。



## 5.6 学習者用 DT と指導者用 DT 内の特徴を活かしたの統合的な活動に関わる指導例

### 5.6.1 学習者用 DT の特徴を活かした小学校段階での統合的な活動に関わる指導例

表 5 に JS6 Lesson 7 内の「つきたい職業について理由を加えて話そう。」における学習者用 DT の特徴を活かした「聞くこと」から「話すこと」「読むこと」「書くこと」につなげる統合的な活動に関わる指導例を示す。

表 5 学習者用 DT の特徴を活かした統合的な活動に関わる指導例

項目	児童が取り組める個別学習	一斉指導での指導例
LW&T4	「Play」を押して英文を聞く・スピーカーを操作し、わからない箇所を途中から聞き直す。	国、就きたい職業とその理由に関わる内容理解と用いられている表現について児童とやり取りする。
LL3	「動画選択」から就きたい職業について話す3つの動画から選択して視聴し、わかったことを画面上の表に記す。	わかったこと・3名が用いていた表現を児童と確認し、I live in～. I'm good at～. I want to～. I want to be～.等を口頭練習する。
LT3 及び Act 3	就きたい職業とその理由を伝え合うペアワーク・グループワークの前にツールバーの Word Book を押し、使いたい語を選び、音声を聞く。	画面上の I want to～. I like～.I can～.に加えて、自分が伝えたい内容を伝えることができるよう、既習表現を思い出させる支援を行う。
LL&R 2	教科書画面のクリックボタンを押し、LL&R2 を選択し音声を聞き、英文を指なぞりする。	再生されている語の色が変わる機能はないため文字と音声の一致を支援する。
LW2	その職業に就きたい理由を、ペン機能を用いて学習者用 DT 上に書き込む。	消しゴム機能を用いて何度でも書き直してよいことを伝える。最終的に英文を書いた画面を写真に撮ったものを送信させる。

表 5 から、学習者用 DT を用いての個別学習を一斉授業の中で支援しつつ、児童は個別最適な学びを行い、統合的な学習に取り組むことができることがわかる。

### 5.6.2 指導者用 DT の特徴を活かした中学校段階での統合的な活動に関わる指導例

NHE2 の Unit 6 Research your topic 内の Mini Activity にある Listen には写真とイラストを見ながら比較級を用いた英文を聞き、適する写真・イラストを選ぶクイズ形式の活動がある。視覚情報を見ながら繰り返し聞くことができるため、「聞くこと」から自身で比較級を用いたクイズを作る「話すこと」につなげていくことができる。同単元の Read and Think では本文の内容理解後に本文の内容に合う英文を3つの英文から1つ選択する活動があり、続く Think and Express Yourself では本文の内容を表す円グラフと棒グラフを見て、その説明となるように適する英語を入れる活動がある。表 6 にこの活動における指導者用 DT 内の機能と可能となる活動を示す。

表 6 「読むこと」から「話すこと」「書くこと」につなげる指導者 DT 内の特徴

操作する箇所	機能	可能となる活動
画面下の矢印マーク	もとの本文を提示	本文とグラフの両方を見て考えることが可能。
適語補充の下の A 印	各正解の語彙を提示	1つずつ正解を確認できる。
画面右下の A (全開)	全ての正解を提示	グラフと正解を見て説明文の発話練習が可能。
画面下の下矢印マーク	次の活動を提示	グラフの内容を英語で説明する活動に移る。

表 6 から、指導者用 DT 内の機能を活かし、「読むこと」から別の「読むこと」へ、「読むこと」から「話すこと」へ、続いて「書くこと」に円滑につなげていく統合的な活動を行うことが可能となる。一斉授業のなかで指導者用 DT を操作して統合的な活動を行っていくための支援の工夫と考えられ、指導者 DT 内の機能や支援の意図を教員が把握し活かすことが重要であろう。

## 6. まとめ

本稿では令和 6 年度版小学校学習者用 DT 及び、令和 3 年度版中学校指導者用 DT の特徴を調べ、それらを活用してどのような指導を行っていくことができるかについて探究した。2025 年度から使用が開始される令和 7 年度版中学校指導者用 DT 及び学習指導者用 DT は令和 6 年度版小学校指導者用 DT 及び学習者用 DT と同等、あるいは、より優れた機能をもつであろうと推測される。本稿では 2 社の DT を用いての分析を行ったが、結果として、指導者用 DT 及び学習者用 DT における特徴を活かした指導を行うことが児童生徒の 4 技能 5 領域の向上につながるということが推察された。小中外国語科担当教師が使用する教科書の学習者用 DT 及び指導者用 DT の機能を熟知し、効果的に活用し授業改善を進め、互いの授業実践を共有し合っていくことが小中接続に貢献すると考えられる。今後は本稿では分析を行わなかった他社の DT 及び令和 7 年度版中学校 DT を効果的に用いる指導の探究を行いたい。

本研究が児童生徒のための授業改善及び小中接続を考える一提案となれば幸いである。

## 参考文献

- 笠島準一他(2021).*NEW HORIZON English Course 1*.指導者用デジタル教科書.東京書籍.
- 笠島準一他(2021).*NEW HORIZON English Course 2*.指導者用デジタル教科書.東京書籍.
- 笠島準一他(2021).*NEW HORIZON English Course 3*.指導者用デジタル教科書.東京書籍.
- 黒川愛子(2024).「小中接続を意識した小中学校外国語科における単元をつなぐ指導の工夫—全国学力・学習状況調査結果からの考察と提案—」『デジタル時代における小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～学びを支援する単元をつなぐ Can-Do 評価試案～2022 年度～2025 年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果中間報告書』2, 169-178.小学校英語評価研究会.
- 齊田智里・鈴木雅之・高本真寛・大場貴志・西村秀之・登藤直弥(2024)「令和 5 年度『学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究』令和 5 年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析最終報告」[https://www.mext.go.jp/content/20240517-mxt\\_chousa02-000036016\\_06.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240517-mxt_chousa02-000036016_06.pdf)
- 佐藤裕子・龍美来・小川一美・染谷藤重・本田勝久(2023).「小学校外国語科指導者用デジタル教科書を活用した授業実践」『千葉大学教育学部研究紀要』71, 251-258.
- 高橋美由紀(2024).「小学校外国語(英語)教育における学習者用デジタル教科書を活用した授業づくり—Productive Activities につながる効果的な Receptive Activities—」『愛知教育大学研究報告 人文・社会科学編』73, 51-59.
- 津村 敏雄(2024).「改訂版小学校英語教科書の研究(1)—令和 2 年度初版と令和 6 年度改訂版の分析を通して—」『東洋学園大学教職課程年報』6, 17-42.
- 文部科学省(2017).『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)』文部科学省.
- 文部科学省(2023a).「令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果」.  
<https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukouku/report/data/23summary.pdf>

文部科学省(2023b)..「令和5年度全国学力・学習状況調査報告書 児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて 中学校英語」.

[https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng\\_k.pdf](https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng_k.pdf)

文部科学省(2024a).「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)」

<https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24summary.pdf>

文部科学省(2024b).「デジタル教科書をめぐる状況について(令和6年9月4日デジタル教科書推進ワーキンググループ(第1回)資料4)」

[https://www.mext.go.jp/content/20240903-mxt\\_kyokasyo01-000037891\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240903-mxt_kyokasyo01-000037891_4.pdf)

文部科学省(2024c).「大規模アンケート調査等の実施による学習者用デジタル教科書の効果・影響等の把握・分析等に関する実証研究事業成果報告書」

[https://www.mext.go.jp/content/20240617-mxt\\_kyokasyo01-000035395\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240617-mxt_kyokasyo01-000035395_2.pdf)

柳田真弥・建内高昭(2024).「効果的な『協働的な学び』を活性化する英語授業ーデジタル教科書を通してー」『愛知教育大学 共創』2. 144-145.

萬谷隆一他(2024).*Junior Sunshine 5*. 学習者用デジタル教科書.開隆堂出版.

萬谷隆一他(2024).*Junior Sunshine 6*. 学習者用デジタル教科書.開隆堂出版.

# 研究論文

## 学習者用デジタル教科書を活用した主体的に学習に取り組む態度の涵養 —小学校外国語科における自己調整力と情報活用能力の育成—

加藤 拓由(岐阜聖徳学園大学)

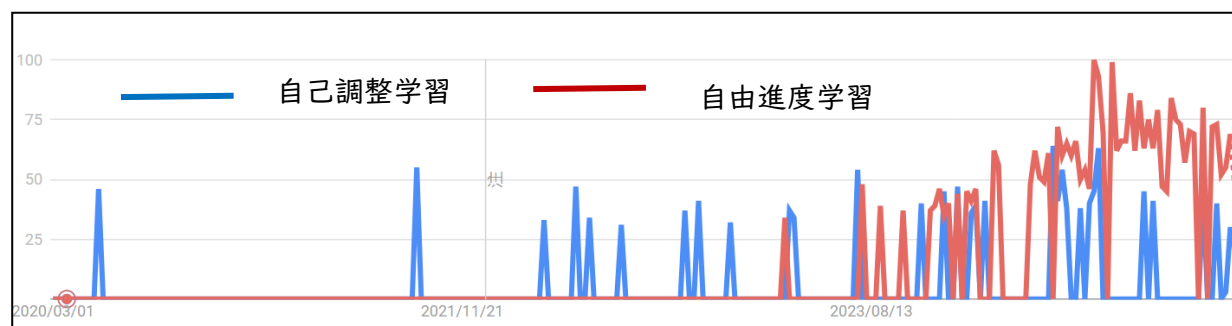
### 1. はじめに

中央教育審議会は、令和3年1月26日の第127回総会において『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』(以下、令和答申と呼ぶ)を発表した。<sup>1)</sup>これは、感染症の拡大や世界情勢の不安定さなど急激に変化する社会背景をふまえ、児童生徒の資質・能力を育成し、学習指導要領の理念を着実に実現することを目指したものである。令和答申は日本の学校教育の成果を評価しつつ「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」という理念のもとに策定された。これは、学習指導要領に基づいて「一人一人の子供を主語にする」という新しい時代の学校教育が目指すべき姿を描いていると考えられる。

また、感染症拡大による学校の臨時休校措置は、それ以前から推進されていた GIGA スクール構想の進展を後押しする一因となった。令和答申においても、GIGA スクール構想により整備された一人一台の ICT 環境を活用するとともに、『少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要である』と指摘している。令和の時代の学校教育は ICT 機器を活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、仲間と共に問題発見・問題解決に取り組む子どもたちの資質・能力を育成することを目指している。

この令和答申が示した「個別最適な学び」の影響を受けたためか、最近の学教現場では自由進度学習や自己調整学習といった学びの在り方が模索されている。下の図1は、過去5年間に Google で検索された「自己調整学習」や「自由進度学習」の検索数の推移を表している。グラフを見ると、2021年以降、「自己調整学習」や「自由

図1 「自己調整」・「自由進度」の過去5年間における Google 検索数の推移



Google Trends (2025.3.1 access) <https://trends.google.co.jp/trends/>

「自由進度学習」というキーワードの検索数が急激に増大していることがわかる。ここ 2 年間は、特に「自由進度学習」への注目度が高く、教育現場でも「自由進度学習」の実践に取り組む教員も増えている印象が強い。

以上のような背景を元に、本論文では「学習者用デジタル教科書を活用した、主体的に学習に取り組む態度の涵養」をテーマに、小学校外国語科の授業において自己調整力や情報活用能力を育成する実践を通して、児童がどのように学びに向かうかや主体的に学ぶ態度を身につけることができるのかを分析・考察していきたい。

## 2. 学習者用デジタル教科書をめぐる議論の整理

文部科学省のデジタル教科書に関する今後の在り方等に関する検討会議は、2021 年 6 月に第一次報告を提出した。<sup>2)</sup>この報告では、デジタル教科書ならではの特性を活かした教育を進めることが、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実や、特別な配慮を必要とする児童生徒の学習上の困難の低減に資するとして、学習者用デジタル教科書を本格的に導入し、従来の紙の教科書の良さも活かしながらデジタル教科書の着実な活用を進めるよう提言した。これを受け、令和 6 年度全国の小中学校で、まず英語の学習者用デジタル教科書が先行導入された。文部科学省は、その実施状況を検証しつつ、将来的には他教科へのデジタル教科書活用の拡大に向けた検討を進めている。この章では、学習者用デジタル教科書の活用を巡る様々な議論を整理していく。

### 2.1 国内における学習者用デジタル教科書の活用状況

実際に学校現場で学習者用デジタル教科書は、どれくらい活用されているのだろうか。令和 6 年 12 月に開催された、デジタル教科書推進ワーキンググループ<sup>3)</sup>(第 4 回)の参考資料「デジタル教科書をめぐる状況について」を見ていこう。まず、国が小学校5年生から中学校3年生を対象に実施している学習者用デジタル教科書の児童生徒への提供状況は、令和6年度、英語は 100%、算数/数学に関しては約 55% となっている。

また、学習者用デジタル教科書を配布している小中学校の教師を対象にした調査(令和6年度調査速報値)では、図2のように、6 割以上の教師が4回に1回程度以上は授業で学習者用デジタル教科書を使用していると回答している。

次に、令和5年度の「英語教育実施状況調査」の結果から、英語の授業で児童生徒が学習者用

デジタル教科書を活用した割合(図3)を見てみよう。小学校では約8割、中学校では約9割、高等学校では4割以上の学校が、何らかの形で、学習者用デジタル教科書を活用していると回答している。これらのデータから、公立の小中学校では、英語の学習者用デジタル教科書が一定程度、学習指導に活用されていることがわかる。

図2 学習者用デジタル教科書の活用状(教師)

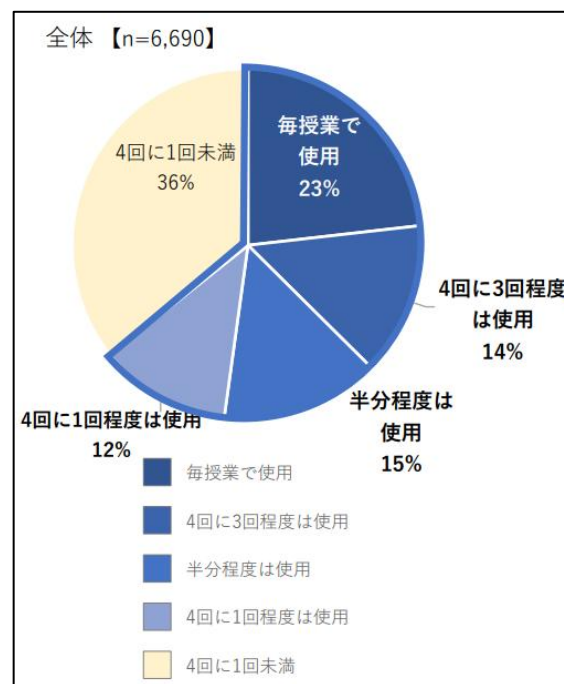
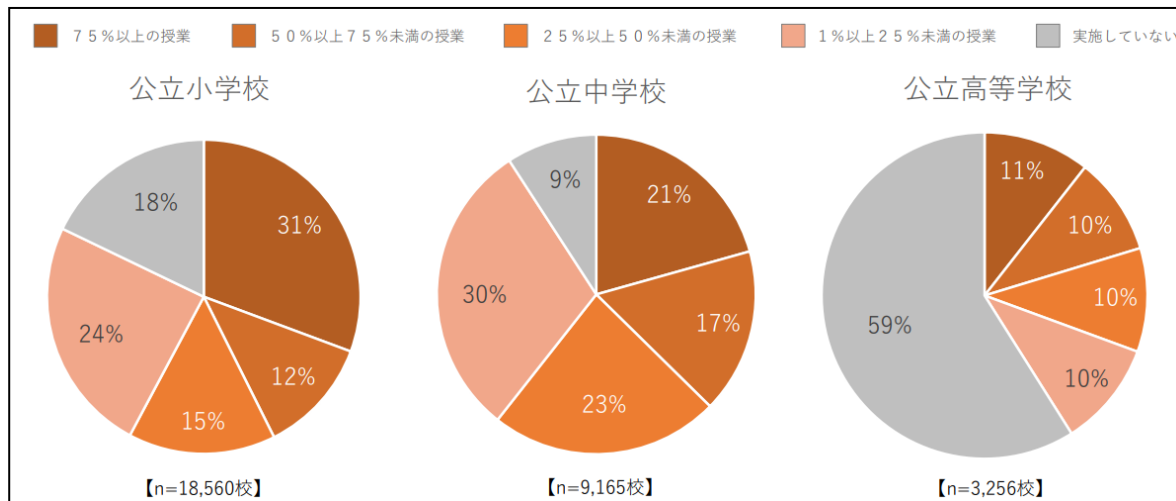




図3 学習者用デジタル教科書の活用状況(全公立小中高校・英語)



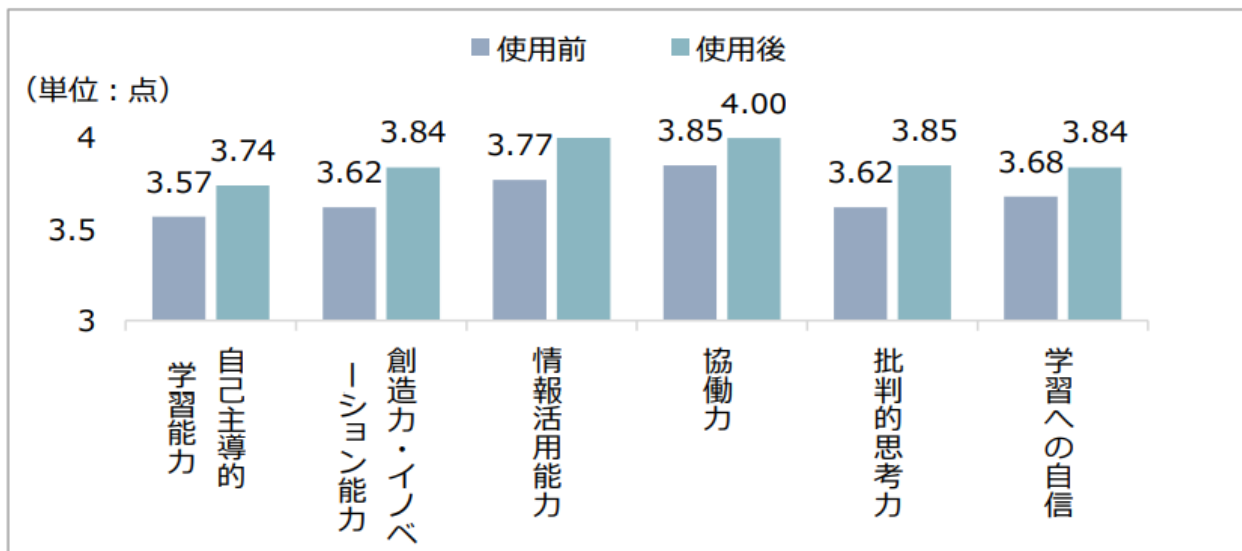
これに対し、教育予算を管理する側である財務省も、学習者用デジタル教科書が現場でどの程度活用されているかを調査している。財務省が令和6年6月に公表した、予算執行調査資料<sup>4)</sup>によれば、令和3年度から小・中学校等を対象にデジタル教科書の提供・普及促進を図る実証事業を実施しており、一部の教科において紙の教科書との併用が行われているものの、文部科学省の実証事業(令和6年3月の成果報告書)で『デジタル教科書を「毎授業で使用」と回答した教員の割合は、英語:18%、算数:13%、数学:8%となっており、十分に活用されているとは言い難い』として、デジタル教科書と紙の教科書が併用されていることに、財政負担の観点からも教科書の在り方を検討する必要があると述べている。

## 2.2 海外における学習者用デジタル教科書の活用状況

ここで、諸外国におけるデジタル教科書の活用状況や、その教育効果についても見ておこう。文部科学省(2024)デジタル教科書推進ワーキンググループ(第3回)配付資料の「諸外国におけるデジタル教科書・教材の使用状況について」によれば、調査対象の国々では、教材としての位置づけはさまざまであるが、「紙の教科書かデジタル教科書か」のどちらかに限定するのではなく、指導目的や指導内容を考慮し、それぞれ効果的に活用されている。特に、韓国やエストニアなどの国々では積極的にデジタル教科書が活用され、PISA 調査などの学力調査でも高い効果が確認されている。

韓国が2014年~2017年に行った調査によれば、デジタル教科書を使用した前後の学習者の能力変化を比較したところ、図4のように、自己主導的学習能力、創造的・イノベーション能力、情報活用能力、協働能力、批判的思考力などが、デジタル教科書を使用した後にいずれも伸びていることがわかる。

図4 研究校におけるデジタル教科書使用前後の学習者の能力の変化(5段階)



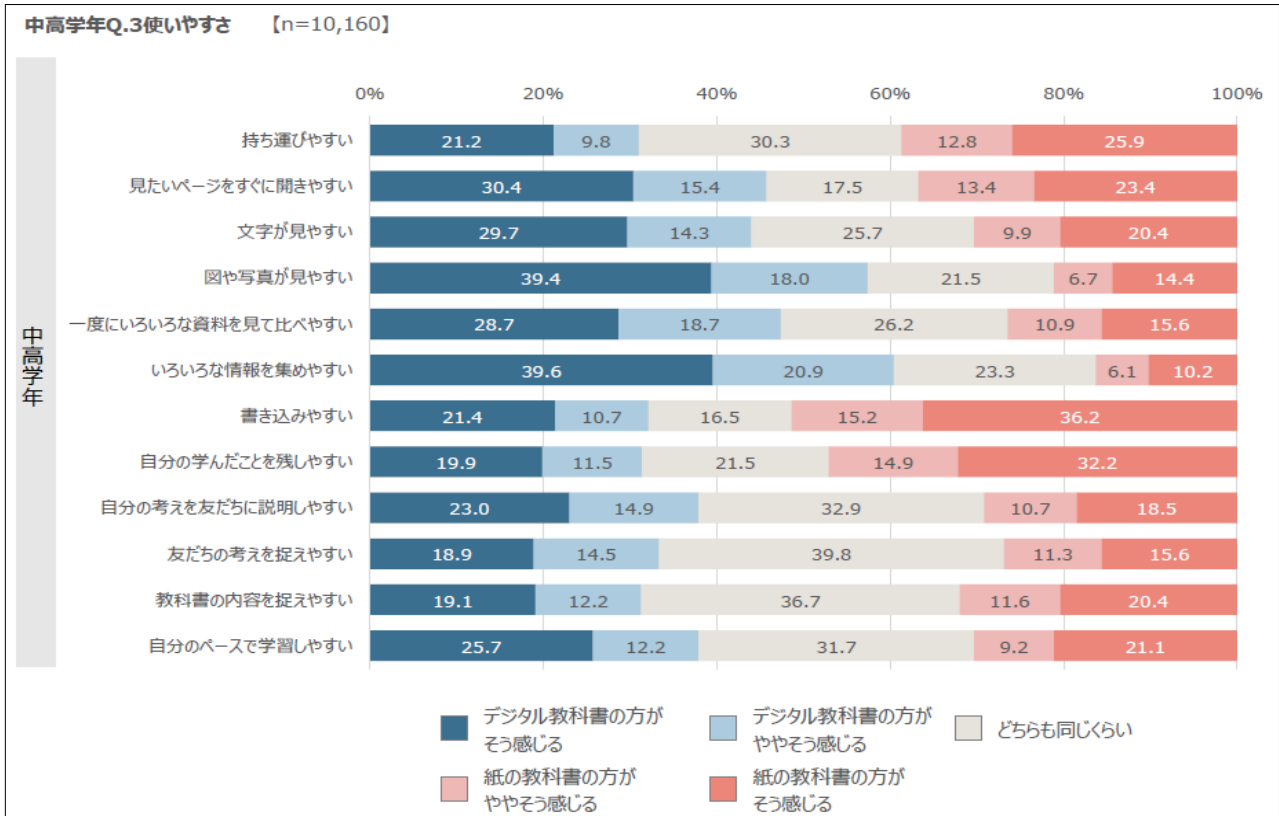
他方、スウェーデンでは、政権交代に伴って教育のデジタル化が見直され、紙の教科書の購入を支援する方向に転換している。また、韓国では、2025年からAIデジタル教科書を導入し始めたが、2026年に導入予定だった国語・技術家庭科の導入取り消しや、社会・科学教科の導入1年延期など計画の見直しも行われている。これらの政策変更の様子から判断しても、国際的には、まだまだ学習者用デジタル教科書の評価は定まっておらず、今後も引き続き調査・研究が必要であると考えられる。

### 2.3 学習者用デジタル教科書の実証研究結果より

本項では、文部科学省が令和5年度に実施した「大規模アンケート調査等の実施による学習者用デジタル教科書の効果・影響等の把握・分析等に関する実証研究事業」<sup>5)</sup>に基づき、学習者用デジタル教科書の活用状況と効果について概観する。本報告書は、デジタル教科書の活用状況やその影響に係る経年変化・要因を把握するため、令和4年度から継続して調査されている。デジタル教科書の活用場面、児童生徒への影響等を調査し、その円滑な導入や、有効活用のための課題を分析するために行われている。アンケートは、小学校教師(n=4,826件)、低学年(n=4,573件)、中学年(n=5,205件)、高学年(n=10,790件)から有効回答を得ており、大規模データを有識者のワーキンググループが分析している。ここでは、紙面の都合上、アンケートの実施手順や分析方法などの説明は省略し、主に外国語の授業が行われる小学校高学年児童の調査結果に注目する。

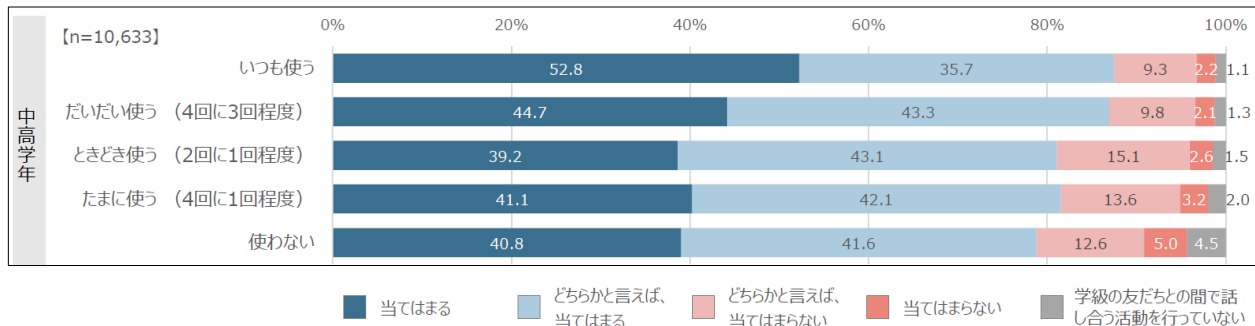
図5のグラフは、「学習者用デジタル教科書と紙の教科書の使用感の違い」について高学年児童に尋ねた調査結果である。デジタル教科書の方が使いやすいと感じるのは「図や写真が見やすい」「一度にいろいろな資料を見て比べやすい」「いろいろな情報を集めやすい」など情報収集や比較・分析などの項目である。一方、紙の教科書の方が使いやすいと感じるのは「書き込みやすい」「学んだことを残しやすい」など、記録性の高さを感じている児童が多い。高学年の児童は、デジタルや紙の教科書、それぞれの特性を活かして効果的に使っている様子が窺える。

図5 児童生徒によるデジタル教科書の使用感(使いやすさ)



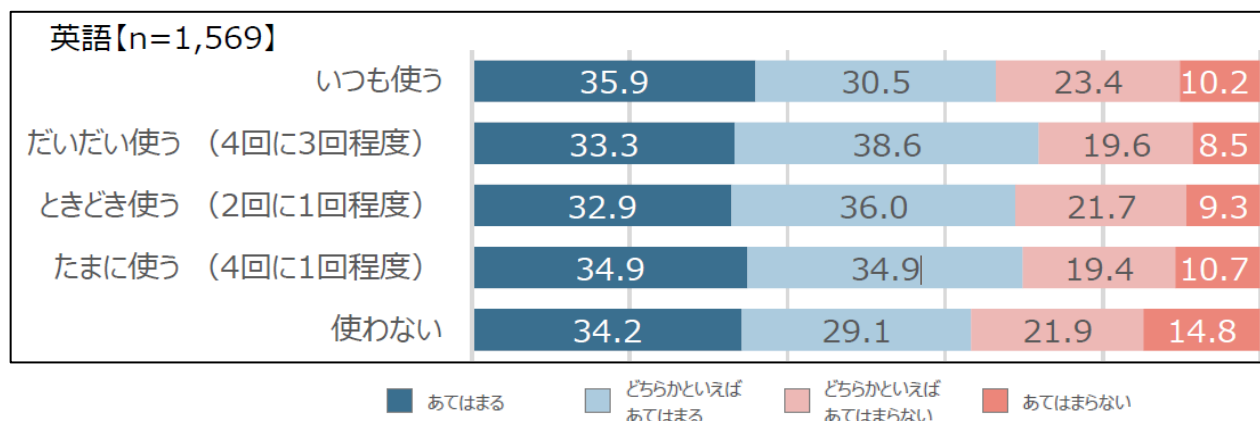
次に、図6のグラフは、「授業において、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」を児童に尋ねた結果である。全体的に学習者用デジタル教科書の使用頻度の高い児童の方が「あてはまる」と答える割合が増えていることがわかる。学習者用デジタル教科書を使えば「対話的で深い学び」ができるというわけではないが、両者に何らかの相関関係があることが覗える。

図6 児童生徒のデジタル教科書の使用頻度と「対話的で深い学び」の関連



最後に、図7のグラフは、「児童生徒のデジタル教科書の使用頻度と『教科が好きか』の関連」を児童に尋ねた結果である。この項目に関しては、学習者用デジタル教科書の使用頻度と、英語の教科の好き嫌いに関しては、明確な関連性は見られない。むしろ、「あてはまらない」、つまり、英語が好きでないと回答した児童が、学習者用デジタル教科書の使用頻度が下がるほど増えている所を見ると、英語の学習に苦手意識を感じている児童にとって、学習者用デジタル教科書が何らかの助けになっている可能性があると思える。

図7 児童生徒のデジタル教科書の使用頻度と「教科が好きか」の関連



以上の実証研究結果からわかるように、学習者用デジタル教科書の効能と児童生徒の学びの変化については現在も調査中であり、明確な答えがあるわけではない。重要なのは「学習者用デジタル教科書か、紙の教科書か」という二項対立的な思考で捉えるのではなく、学習者の特性や発達段階に応じて、それぞれの教材の特性を活かした活用ができるよう、指導者の確かな教材選定力や授業設計力が求められていると考える。

## 2.4 「情報活用能力」の育成

学習者用デジタル教科書を有効活用する上で、児童生徒が身につけるべき力の1つが情報活用能力である。小学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編でも情報活用能力という言葉が繰り返し登場する。では、情報活用能力とは何か。そして、なぜ、情報活用能力を育成する必要があるのだろうか。学習指導要領の総則編には、情報活用能力について以下の様に書かれている。

情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、(中略)こうした情報活用能力は、各教科等の学びを支える基盤であり、これを確実に育てていくためには、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへつながっていくことが一層期待されるものである。

(下線は筆者)

では、学習者用デジタル教科書を活用し小学校の授業を行う場合、情報活用能力をどのように適用すべきだろうか。各教科の学習プロセスに、情報活用能力を位置づけて示した資料が、一般社団法人日本教育情報化振興会が作成した「情報活用能力ベーシック」小学校版<sup>6)</sup>である。

図8 外国語の情報活用能力ベーシック

**外国語**

- ① 課題の設定**  
外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき理解する。
- ② 情報の収集**  
X(学習指導要領から見出すことができない。)
- ③ 整理・分析**  
コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成する。
- ④ まとめ・表現**  
コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、簡単な語句や基本的な表現の中から適切なものを選び、自分の考えや気持ちなどを伝え合う。
- ⑤ 振り返り・改善**  
言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行い、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげる。

これは、学習指導要領等をもとに、情報活用能力が活用される学習プロセスを【①課題の設定】【②情報の収集】【③整理・分析】【④まとめ・表現】【⑤振り返り・改善】という5段階と、13のキーワード(発見・収集・整理・比較・処理・統計・形成・発信・伝達・表現・創造・振り返り・改善)に分類したものである。

左の図8は、小学校外国語科における5つの学習プロセスにおける情報活用能力の具体的な活動場面を整理したものである。これを参考に1時間の授業の中で、学習者用デジタル教科書を活用できそうな場면을想定して授業設計を行えば、児童が学習者用デジタル教科書を有効に使用し、主体的に学習に取り組む態度を育成する際の手がかりにできるのではないかと考える。

### 3. 自己調整学習とその必要性

2章では、主体的な学習者を育成する上で重要な、学習者用デジタル教科書活用のポイントや情報活用能力育成の必要性など、学習者を取り巻く外的要因について述べた。本章では自己調整力の育成という、言わば学習者の内的要因の重要性について考えてみよう。

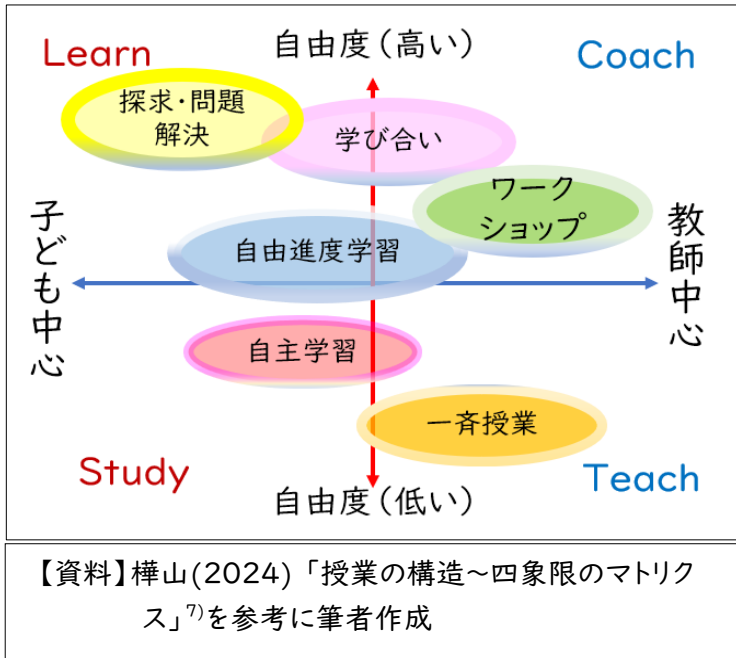
#### 3.1 主体的に学習に取り組む姿勢と自己調整学習

図9は小中学校で一般的に行われる学習方法を分類したものである。横軸は子ども中心の学習か、教師中心の学習か。縦軸は、学習における自由度が低いか、高いかを表している。例えば、一斉授業は教師中心で進められることが多く、子どもの自由度は低いので、右下の象限に位置する。一方、探求や問題解決学習は子どもが自ら課題発見し、課題解決の方法も自分たちで工夫をするので左上の象限に位置する。

どの学習方法で学ぶ場合でも、学習者の主体性は欠かせない。一斉学習でも、学習者は主体的に学ぶことは重要である。つまり、主体的に学習に取り組む態度は、学習方法に関係なく、全ての学習で学びを進める上での原動力となる。



図9 学習方法のマトリクス分類

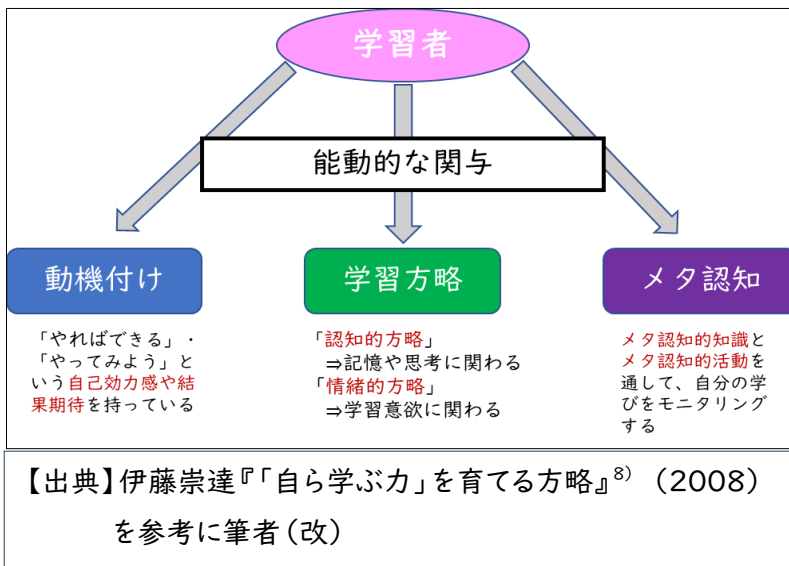


では、学習者が主体的に学ぶようになるには何が必要なのか。それがマトリクス全体に作用すると考えられる「自己調整力」である。自己調整力は、一斉授業において集中力がなくなってきたとき、どうしたらよいかとか、学び合いや探求でグループの進捗状況が思わしくないとき、どうしたらよいかなどに対応する力である。図9の各種学習方法のソフトウェアが起動するための中央制御装置(CPU)が自己調整力にあたると言える。

### 3.2 自己調整と学習者中心の学び・評価

自己調整力を働かせ、学習者が主体的に学ぶようになるためには、どのような心理的な働きが必要なのか。これを、わかりやすく説明したのが図10である。

図10 「主体的に学習に取り組む態度」の育成のしくみ



伊藤によれば、自己調整力を働かせるためには「動機付け」「学習方略」「メタ認知」の3つの要素に、学習者が能動的に働きかける必要があると説明している。

「動機付け」は、学習者が『これならできかもしれない』『これはできそうだからやってみよう』というように、自己効力感や結果期待をもって課題に取り組む意欲である。「学習方略」は、思考ツールなどを使って自分の考えをまとめるという『認知的方略』と、勉強

する気持ちが起きない時に、散歩して気分転換するという『情緒的方略』がある。また「メタ認知」は、自分は記憶が苦手であると自身の認知特性を知る『メタ認知的知識』と、苦手な暗記科目は早くからテスト勉強に取りかかろうとする『メタ認知的活動』の2つに下位分類される。

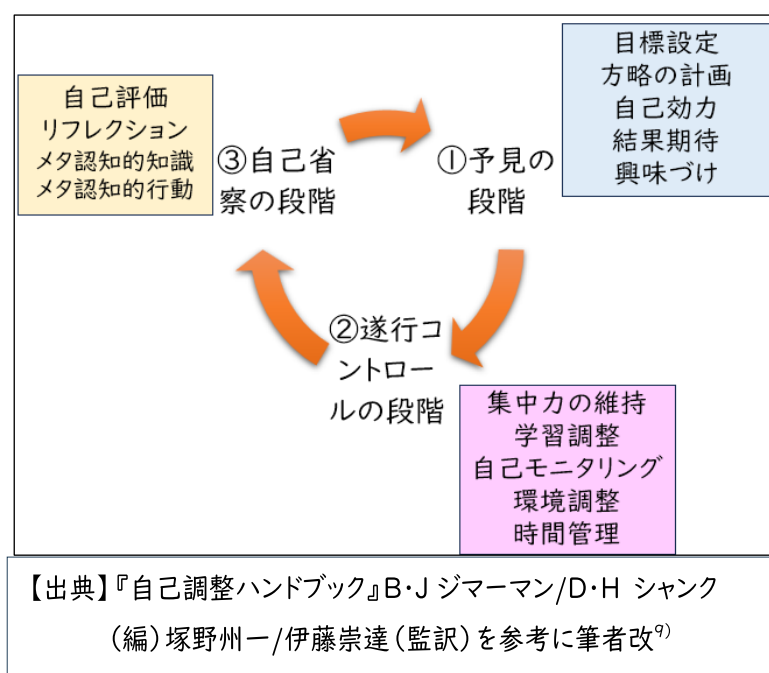
以上のように、学習者が3つの要素に能動的に働きかけ、自己調整力を発揮し、主体的に学習に取り組む態度を身につけるためには、教師はていねいに、子どもの学びに伴走する必要があると考える。

### 3.3 「自己調整学習」プロセスのサイクルモデル

では、実際の授業において「自己調整学習」を進めるためには、どのように進めたら良いのだろうか。図11は自己調整プロセスのサイクルモデルである。自己調整学習は、前項で述べた3つの要素にあわせて「予見の段階」「遂行コントロールの段階」「自己省察の段階」の3つのプロセスをループ状に何度も繰り返しながら行われる。

①「予見の段階」は目標の設定や課題の方略について考えるステップである。例えば、この課題はどのくらいの時間でやるか。この課題をどのような順番で学ぶと効率よく学べるかなど、事前に予想を立てて取り組むことで、「これならできそうだ」「面白そうだからやってみよう」という自己効力や結果期待につながり、学びに向かう意欲を方向付ける意味を持っている。

図11 「自己調整学習」プロセスのサイクルモデル



②「遂行コントロールの段階」は、学ぶ際に、時間を計りながら効率よく課題を進めるといって『認知的方略』を工夫したり、疲れてきたので起立して伸びをしようという『情緒的方略』を使いながら、パフォーマンスレベルが向上するよう、自己コントロールを行う段階である。

③「自己省察の段階」は、振り返りシートに記入しながら、学びが予定通りできた理由や、思ったように進まなかった理由について分析する『メタ認知的知識』を働かせること。また、本時の反省を参考に、次の時間の学習で予定通りに進めるために、学習計画表を修正して新

たな見通しを立てる『メタ認知的行動』に取り組む。これら省察段階の深いリフレクションが、次の授業の「予見」に繋がれば、学習者の主体的に学習に取り組む態度は自然と廻り始めるのである。

ここで述べた自己調整力の育成は、主体的に学習に取り組む態度を涵養するための「手段」ではなく、それ自体が「目的」なのである。すなわち、学習者が自己調整力を身につけることができれば、最初に述べたように、一斉学習でも、協働学習でも、自由進度学習においても、主体的に学習に取り組む、質の高い学び手を育てることが可能となる。

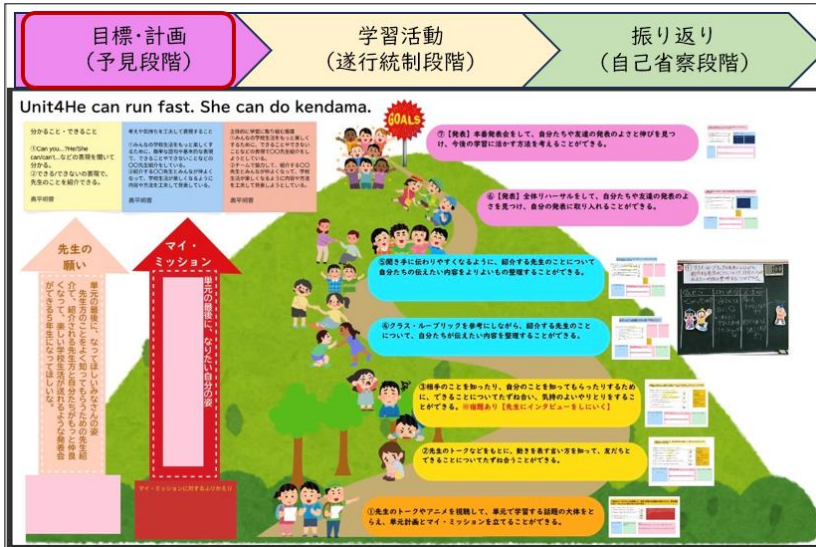
### 4. 学習者用デジタル教科書等を活用した自己調整学習の実践

本章では、学習者用デジタル教科書等を活用し自己調整学習に取り組む小学校外国語科の実践を紹介する。授業者は、沖縄県豊見城市立ゆたか小学校の奥平明香(さやか)教諭(以下、敬称略)である。奥平は、児童が自己調整力を高め、主体的に学習に取り組めるよう、学習者用デジタル教科書や情報活用能力ベーシックなどを効果的に活用した授業設計を行っている。本章では奥平の授業実践を、自己調整学習

の「予見の段階」「遂行コントロールの段階」「自己省察の段階」の3つのプロセスサイクルモデルに合わせて分析を試みる。

#### 4.1 「予見の段階」の工夫

図 12 子どもと共創する山登りの学習計画表



教師は、単元の最初に児童と一緒に、図 12 のような「山登りの学習計画表」を使い、その単元の学習をどのように進めていくかを相談する。子どもたちは、以前の単元で使った学習方略や、活動手順を思い出しながら、どうしたら効率よく、単元のゴールにたどり着くことができるかを考える。時には教師がアイデアを示す場合もあるが、最終的には児童と教師が納得する形で決め

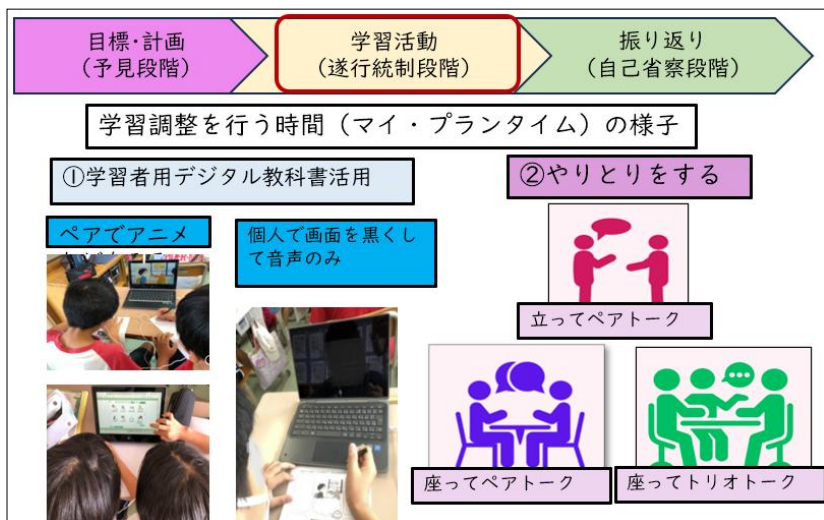
る。教師は、育てたい児童の姿を「教師の願い」という形で示すが、児童は、それとは別に、単元末で自分になりたい姿を「マイ・ミッション」として設定する。学びの主体は子どもたちであり、自分が決めたマイ・ミッションがあるからこそ、単元途中で言語活動の目的を見失いそうになったとき、自分で修正し、ねばり強く学びに取り組むことができる。また、毎時間の授業で「何ができるようになるか」という Can Do 形式の学習到達目標が提示されているので、子どもたちは、自分の学びを確実に自己評価することができる。この「山登りの学習計画表」は、外国語の授業時間には常に子どもの目の届くところに掲示されている。児童は、自らの登山ルート of 現在地や学習状況について一覧することができる。

#### 4.2 「遂行コントロールの段階」の工夫

次は、毎時間の授業で自らの学びを、どのように調整しながら進めるかという「遂行コントロールの段階」について述べる。児童は授業の最初に Small Talk などで、友達とやり取りをして、自分が今できることを Can Do 形式の評価表で自己評価する。その上で、本時のゴールに向けて、取り組むべき課題を「マイ・プランタイム」で学習調整する。



図 13 学びの多様性を保障する学習調整のありかた



その際の学び方は、図 13 のようにチャンツを聞く、教科書の表現を聞いて内容をふくらませる、デジタル教科書の絵辞典を使い単語を調べる、先生といっしょに言ってみるなど、多様な学習方略の中から自分に必要な方法を選んで行う。マイ・プランタイムにおいては、音声や動画が参照できる学習者用デジタル教科書が強みを発揮する。自ら選んだ方法で改善したら、相手を変え再びやり取りする

ことで学習調整の成果を確認する。まだ十分に改善できていない場合は、再びマイ・プランタイムで学習改善に取り組み、授業の中で繰り返し英語を使い表現する機会を設ける。

### 4.3 「自己省察の段階」の工夫

最後は、自己省察の段階で、自分の学びを振り返り、この時間でできるようになったこと、次の時間で修正すべきことなどについて、具体的に省察する方法について説明する。

図 14 Can Do 形式の自己評価・相互評価

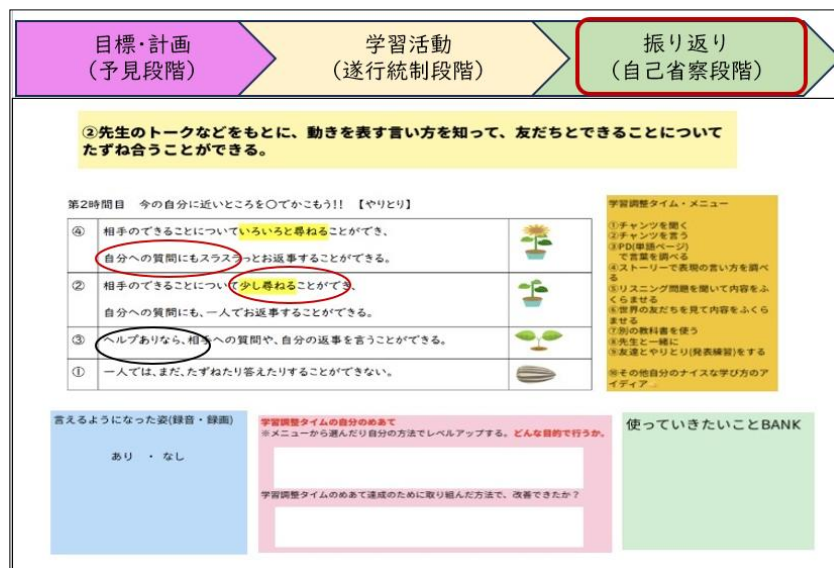
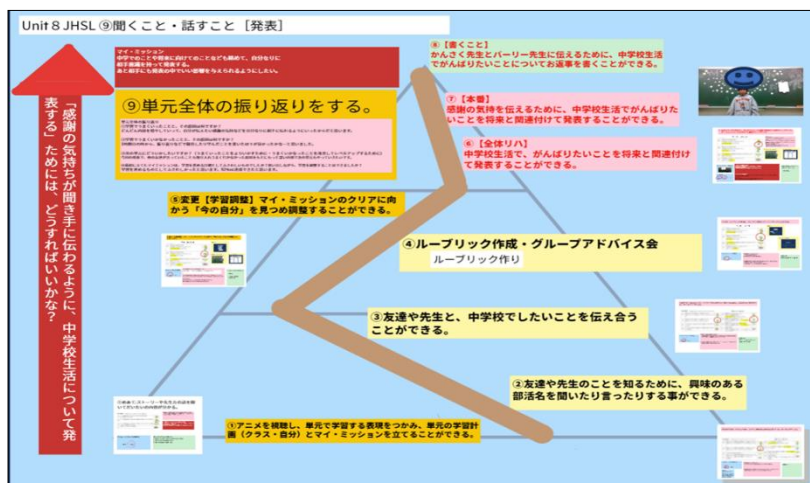


図 14 の①～④の Can Do 形式の評価表は、授業の最初に Small Talk などを行った際に、目標設定を行い、黒色の○で段階を記入しておく。そして、本時の最後にやりとりをした友達に他己評価をしてもらい、その結果を赤色の○で記入をする。これにより、その時間での自らの学習の伸びを視覚化することができる。また、毎時間の振り返りシートはデジタルで記録できるようになっている。その時間で言えるよ

うになった姿を動画や音声で記録したり、絵辞典などで調べた自分だけの表現を「使っていきたいこと BANK」に記録することで、自らの学びが豊かになっていく様子を可視化し、自己有用感を高めることができる。

## 4.4 その他の自己調整の工夫

図 15 山登りの学習計画のデジタルポートフォリオ



奥平は、児童の学びの軌跡を、図 15 のようなデジタルポートフォリオ化して記録をさせている。このデジタルポートフォリオは、一枚の山登りの地図のようなイメージで、毎時間の振り返りカードを縮小して貼り付けたり、録画や録音したデータを貼り付けて、自己参照することができる。ある児童は、自分が撮りためた音声データのカードを単元終末の

表現活動を行う際に並べ替えて、どのような順番で言ったらよりよく伝わるのかを試行錯誤しながら思考する姿が見られたという。奥平は、このようなデジタル教材の使い方を児童には指示していない。児童自らがデジタルの有効な活用法を創意工夫しながら主体的に学んでいるのである。

## 5. まとめと課題

児童が自己調整力を発揮できるようにするためには、まず教師が多様な学習方略を例示して、豊富な学びの中から、児童が自分に合った方略を選択できるようにする必要がある(認知方略)。また、学習に向かう気持ちが起こらないときには、その原因を児童自らが発見し、気分転換などを自分で実行できるような方略も身につけさせる必要がある(情意方略)。さらに、学びをメタ認知する力を育成するには、学習計画を児童自身が立てられるよう教師と一緒に共創してみたり、自分の学びを客観的に記録することができるようデジタルポートフォリオなどを活用し、振り返りを児童に体験させてみる必要がある。

これまで、主体的に学習に取り組む態度の指導や評価は、明確な手順や規準が示されないまま、指導者それぞれの勘や経験、そして曖昧な規準に基づいて評価されることが多かった。今後は、学習者用デジタル教科書や情報活用能力ベーシックなどを効果的に活用し、学習者が自己調整力を働かせながらよりよい学び手となれるよう、指導者は「学びの伴走者」として寄り添いながら、全ての教科でじっくり時間をかけて育成していく必要があると考える。最後に、授業実践を公開してくれた奥平教諭と豊見城市立ゆたか小学校に心からの謝辞を申し述べたい。

### 引用・参考資料および参考サイト

1) 文部科学省(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)

[https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt\\_syoto02-000012321\\_2-4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf)(参照日 2025-3-3)

2) 文部科学省(2021) デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議(第一次報告)

[https://www.mext.go.jp/content/20210607-mxt\\_kyokasyo01-000015693\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210607-mxt_kyokasyo01-000015693_1.pdf)(参照日 2025-3-3)



- 3) 文部科学省(2021) デジタル教科書推進ワーキンググループ(参考資料)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/100/index.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/100/index.html)(参照日 2025-3-8)
- 4) 財務省(2024) 予算執行調査資料(11) デジタル教科書普及促進事業  
[https://www.mof.go.jp/policy/budget/topics/budget\\_execution\\_audit/fy2024/sy0606/11.pdf](https://www.mof.go.jp/policy/budget/topics/budget_execution_audit/fy2024/sy0606/11.pdf)(参照日 2025-3-3)
- 5) 文部科学省(2024) 大規模アンケート調査等の実施による学習者用デジタル教科書の効果・影響等の把握・分析等に関する実証研究事業 成果報告書  
[https://www.mext.go.jp/content/20240617-mxt\\_kyokasyo01-000035395\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240617-mxt_kyokasyo01-000035395_2.pdf)(参照日 2025-3-5)
- 6) 日本教育情報化振興会(2021) 「情報活用能力ベーシック」小学校版  
<https://www.japet.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/info-ut-basic.pdf>(参照日 2025-3-6)
- 7) 樺山敏郎(2024) 「学習者主体へと導く授業作りの方向」、EASEL 講演&ディスカッション 東京講演資料
- 8) 伊藤崇達(2008) 『「自ら学ぶ力」を育てる方略』ベネッセ BRED No.13 Interview
- 9) B・J ジーマーマン／D・H シャンク(編) 塚野州一／伊藤崇達(監訳)(2014) 『自己調整ハンドブック』、北大路書房

## 研究プロジェクトメンバー

研究代表者：泉 恵美子（関西学院大学 教育学部）  
研究分担者：アレン玉井光江（青山学院大学 文学部）  
大田 亜紀（別府大学短期大学部）  
加藤 拓由（岐阜聖徳学園大学 教育学部）  
倉田 伸（長崎大学 教育学部）  
黒川 愛子（帝塚山大学 教育学部）  
田縁 眞弓（京都光華女子大学 こども教育学部）  
長沼 君主（東海大学 語学教育センター）  
森本 敦子（高野山大学 文学部）  
海外共同研究者：バトラー後藤 裕子（ペンシルバニア大学 教育大学院）  
研究協力者：大江 太津志（京都市立開晴小中学校）  
奥平 明香（沖縄県豊見城市立ゆたか小学校）  
幡井 理恵（昭和女子大学附属昭和小学校）  
俣野 知里（京都市立二条城北小学校）  
山川 拓（京都市立九条塔南小学校）

\* 研究分担者および研究協力者はあいうえお順とする

2024年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果中間報告書  
(研究課題番号:22H00684)

デジタル時代における児童の思考・判断・表現力と  
自律的な態度を育む外国語科の評価

発行日 2025年3月30日  
編集責任者 長沼君主  
発行責任者 泉恵美子(代表者)  
発行者 小学校英語評価研究会